

# 病院年報 2020

令和2年 第18号



社会医療法人 景岳会 南大阪病院

# 目次

■ 院長挨拶	1	【薬剤部】	55
■ 病院概要		【臨床工学科】	58
理念・基本方針／	2	【医療安全管理室】	60
各階の診療科・設備等／	2	【感染制御室】	62
専門外来／関連施設	2	【TQM 推進室】	65
施設基準（基本診療科）（特掲診療科）	3	【地域医療部】	
施設認定一覧	5	地域医療推進室	66
診療実績	6	医療福祉相談室	68
■ 業務報告		【事務部】	
【診療部】		医事課	69
内科	7	【医療情報部】	
循環器内科	10	システム管理課	72
消化器内科	12	診療情報管理課	74
消化器外科・内視鏡外科	15		
乳腺外科	23		
泌尿器科	25		
胸部外科	27		
整形外科	28		
形成外科	29		
耳鼻咽喉科	32		
眼科	33		
皮膚科	34		
麻酔科	34		
放射線科	35		
病理診断科	36		
教育研修センター	38		
【看護部】	40		
【診療支援部】			
放射線科	43		
リハビリテーション科	45		
臨床検査科	49		
栄養科	52		



院長 福田 隆

2020年の社会医療法人景岳会南大阪病院年報をお届けします。ご高覧いただければ幸いです。

2020年は、全人類が新型コロナウイルス感染症と言う未曾有の大災害に見舞われた年でした。わが国でも2月の豪華客船ダイヤモンドプリンセス号の横浜港帰港を端緒として瞬間にコロナ禍が全国を覆い、医療界をはじめ経済・社会に大きな傷跡を残しました。未知の敵との戦いの不安が社会に蔓延し、診療控えから当院も全国の大多数の病院と同様に、外来受診患者数、入院患者数、救急車搬送件数は激減しました。

2020年後半には感染者数が爆発的に増加し、入院体制の逼迫と行政の混乱、現場を支える多くの医療者への過度の負担が続き、各地域で「医療崩壊の危機」が叫ばれていました。

しかしその様な状況だからこそ、日常診療を途絶えさせない事が地域医療を支える基幹病院としての第一の責務と考え、感染防御対策を徹底した上で救急医療、一般診療・検査、手術・がん治療などを粛々と行って来ました。その結果、総内視鏡件数は前年に引き続き1万件を突破しており、総手術件数も形成外科の新設もあって前年度比5%増加となっています。

2021年に入っても、変異株の影響もありCOVID-19の猛威は治まるところを知りません。当院も現在は1病棟をCOVID-19専用病棟として病床を確保し、入院患者を受け入れています。もちろんCOVID-19診療と並行して救急車搬送受け入れや手術室使用に制限を設けず、地域のニーズに応えられるよう努力しています。

コロナ禍は感染症パンデミック・災害時における日本の医療の脆弱性を浮き彫りにしました。それを受けて、今後医療計画の5疾病5事業に新興感染症対策が追加され5疾病6事業となります。新興感染症への対策には、設備、人材などの限りある医療資源と個々の専門性を有効に活用し、地域の実情に応じたネットワーク作りが必要です。その際も感染症パンデミックへの対応と並行して通常診療が確保できる体制が重要です。

「レジリエンス」とは困難や逆境を克服する力を意味します。2020年10月、日本人宇宙飛行士野口聡一さんらを乗せて打ち上げられた宇宙船は、世界中の人々がコロナ禍の逆境を乗り越えられる事を祈ってレジリエンス号と命名されました。当院も、かつて経験したことのない困難な状況に置かれた2020年をこの年報作成によりもう一度見直し、未来に向けてレジリエンスを強化したいと考えています。少子高齢化・人口減少社会を迎えて、新興感染症対策と共に、地域医療構想・働き方改革・医師偏在問題等と医療界には難題が山積されています。その中でも途絶えることなく地域の皆様、先生方に広く医療を提供し続ける事こそが、70有余年の歴史を誇る当院の使命と考えています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

# 病院概要

< 理念 >

“地域からよろこばれ、信頼される病院をめざします”

基本方針

- 1 患者様の意思と権利を尊重し、十分な説明と納得と根拠に基づく医療を提供します
- 2 常に研鑽に努め、安全・安心で質の高い医療を提供します
- 3 地域包括ケアシステムの中核的な役割をはたします
- 4 医療を通じて社会に貢献するため健全な財務体質を構築します

## 各階の診療科・設備等



外来棟		本館（病棟）	
4階	外来透析室	12階	病棟（回復期リハビリテーション）
3階	内科（呼吸器・腎臓・内分泌・代謝・糖尿病・神経・人工透析・リウマチ）／消化器内科／外科（消化器・内視鏡・がん）／整形外科／内視鏡センター／点滴・処置室	11階	病棟（循環器センター／胸部外科）
2階	総合内科／循環器内科 乳腺外科／胸部外科／形成外科 泌尿器科／耳鼻咽喉科／眼科／皮膚科	10階	病棟（腎・代謝センター／泌尿器科）
1階	総合案内／受付／会計／予約入院受付 多目的ホール／売店	9階	病棟（整形外科／眼科）
		8階	病棟（一般内科／整形外科／耳鼻咽喉科）
		7階	病棟（消化器センター／一般内科）
		6階	病棟（消化器センター／乳腺外科）
		5階	病棟（地域包括ケア）
		4階	手術室・HCU
		3階	生理機能検査／採血・採尿／外来治療室 放射線科／医療福祉相談室／病理診断科
		2階	薬剤部／管理部門
		1階	救急受付

## 専門外来

減量・糖尿病手術外来／女性外科専門外来／睡眠時無呼吸外来／リウマチ外来／禁煙外来／セカンドオピニオン外来

## 関連施設

南大阪病院附属リハビリテーションクリニック／南大阪クリニック 透析センター／南大阪地域支援センター／南大阪看護専門学校／南大阪総合健診センター／社会福祉法人 白寿会／介護付き有料老人ホーム つむぎ苑

## 施設基準(基本診療科)

名称	算定開始月	受理番号
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料4)	平成30年11月	(一般入院)第480号
救急医療管理加算	令和2年4月	(救急医療)第32号
診療録管理体制加算	平成26年4月	(診療録1)第75号
医師事務作業補助体制加算2 40対1	平成29年4月	(事補2)第100166号
急性期看護補助体制加算	令和2年4月	(急性看護)第133号
療養環境加算	平成24年4月	(療)第100031号
緩和ケア診療加算	平成30年6月	(緩和)第56号
栄養サポートチーム加算	平成24年4月	(栄養チ)第72号
医療安全対策加算	平成30年4月	(医療安全1)第100074号
感染防止対策加算	平成30年4月	(感染防止1)第34号
患者サポート体制充実加算	平成24年4月	(患サポ)第104号
後発医薬品使用体制加算1	平成30年4月	(後発使1)第127号
病棟薬剤業務実施加算	平成24年4月	(病棟薬1)第31号
データ提出加算	平成24年10月	(データ提)第62号
入退院支援加算1	令和2年4月	(入退支)第103号
認知症ケア加算	令和2年5月	(認ケア)第146号
排尿自立支援加算	平成29年6月	(排自支)第26号
地域医療体制確保加算	令和2年4月	(地医確保)第85号
ハイケアユニット入院医療管理料1	平成26年4月	(ハイケア1)第11号
回復期リハビリテーション病棟入院料2	平成26年11月	(回2)第58号
地域包括ケア病棟入院料2	令和2年10月	(地包ケア2)第23号

## 施設基準(特掲診療科)

名称	算定開始月	受理番号
糖尿病合併症管理料	平成23年8月	(糖管)第100039号
がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年4月	(がん疼)第126号
がん患者指導管理料イ	平成24年1月	(がん指イ)第59号
がん患者指導管理料ロ	平成26年4月	(がん指ロ)第52号
糖尿病透析予防指導管理料	平成24年4月	(糖防管)第40号
院内トリアージ実施料	平成24年4月	(トリ)第42号
救急搬送看護体制加算	令和2年4月	(救搬看護)第141号
ニコチン依存症管理料	平成29年6月	(ニコ)第100630号
開放型病院共同指導料	平成11年9月	(開)第27号
がん治療連携計画策定料	平成27年1月	(がん計)第60号
排尿自立指導料	平成29年6月	(外排自)第26号
肝炎インターフェロン治療計画料	平成24年4月	(肝炎)第164号
薬剤管理指導料	平成9年7月	(薬)第31号
医療機器安全管理料1	平成20年4月	(機安1)第100098号
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	平成27年12月	(持血測1)第53号
遺伝学的検査	平成30年1月	(遺伝検)第39号
BRCA1/2遺伝子検査	令和2年8月	(BRCA)第79号
検体検査管理加算(Ⅰ)	平成20年4月	(検Ⅰ)第94号
検体検査管理加算(Ⅳ)	平成23年4月	(検Ⅳ)第45号
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成24年4月	(歩行)第40号
ヘッドアップティルト試験	平成24年4月	(ヘッド)第12号

## 施設基準(特掲診療科)

名称	算定開始月	受理番号
センチネルリンパ節生検(片側)	平成 22年 4月	(乳セ)第 22号
C T透視下気管支鏡検査加算	平成 24年 4月	(C気鏡)第 3号
画像診断管理加算 2	平成 20年 4月	(画2)第 53号
C T撮影及びMRI撮影	平成 31年 4月	(C・M)第 100624号
冠動脈C T撮影加算	平成 24年 1月	(冠動C)第 100049号
心臓MRI撮影加算	平成 24年 1月	(心臓M)第 100054号
乳房MRI撮影加算	平成 30年 5月	(乳房M)第 51号
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成 22年 4月	(抗悪処方)第 43号
外来化学療法加算 1	平成 20年 9月	(外化1)第 135号
無菌製剤処理料	平成 20年 4月	(菌)第 46号
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 24年 4月	(心1)第 100009号
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 26年 5月	(脳1)第 100150号
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 24年 4月	(運1)第 254号
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成 24年 4月	(呼1)第 100022号
がん患者リハビリテーション料	平成 24年 4月	(がんリハ)第 35号
集団コミュニケーション療法料	平成 20年 4月	(集コ)第 100040号
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	平成 18年 5月	(エタ甲)第 11号
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	平成 18年 5月	(エタ副甲)第 6号
人工腎臓	平成 30年 4月	(人工腎臓)第 173号
導入期加算 1	平成 30年 4月	(導入1)第 142号
透析液水質確保加算	平成 30年 4月	(透析水)第 315号
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	令和 1年 12月	(肢梢)第 295号
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	令和 2年 9月	(組再乳)第 76号
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	平成 16年 3月	(脊刺)第 50号
乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	平成 22年 4月	(乳セ2)第 22号
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	令和 2年 9月	(ゲル乳再)第 74号
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	令和 2年 11月	(経特)第 100050号
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成 10年 4月	(ペ)第 54号
大動脈バルーンパンピング法(ⅠA B P法)	平成 10年 4月	(大)第 35号
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	令和 1年 6月	(腹胃縮)第 9号
体外衝撃波胆石破砕術	平成 30年 3月	(胆)第 66号
腹腔鏡下肝切除術	平成 28年 5月	(腹肝)第 54号
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成 26年 4月	(早大腸)第 59号
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	平成 7年 7月	(腎)第 37号
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成 24年 4月	(腹膀)第 5号
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	平成 26年 5月	(腹小膀悪)第 8号
人工尿道括約筋植込・置換術	平成 26年 5月	(人工尿)第 19号
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	平成 26年 4月	(胃瘻造)第 75号
輸血管理料Ⅰ	平成 24年 4月	(輸血1)第 100041号
自己生体組織接着剤作成術	平成 24年 4月	(自生接)第 3号
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成 25年 12月	(造設前)第 90号
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成 26年 9月	(胃瘻造嚥)第 78号
麻酔管理料(Ⅰ)	平成 21年 10月	(麻管Ⅰ)第 100009号
病理診断管理加算	平成 24年 4月	(病理診1)第 23号
悪性腫瘍病理組織標本加算	平成 30年 4月	(悪病組)第 38号

## 施設認定一覧

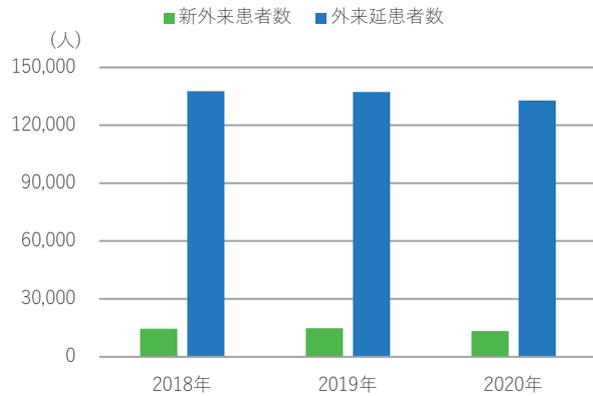
健康保健指定医療機関
生活保護法指定病院
国民健康保険指定医療機関
義肢採型指導医
救急指定病院
更生医療指定医療機関
労災指定病院
指定小児慢性特定疾病医療機関
結核指定医療機関
大阪府特定疾患契約医療機関
日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修病院
日本内科学会専攻医登録評価システム
<b>内科</b>
日本内科学会教育関連病院
日本糖尿病学会認定教育施設
日本リウマチ学会認定教育施設
日本透析学会教育関連施設
日本腎臓学会認定教育施設
<b>循環器内科</b>
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設
<b>消化器内科</b>
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
<b>外科</b>
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本気管食道科学会専門医研修施設(外科食道系)
日本食道学会全国登録認定施設
日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
<b>乳腺外科</b>
日本乳癌学会認定医専門医制度認定施設
日本超音波医学会超音波専門医研修施設

<b>泌尿器科</b>
日本泌尿器科学会専門医教育施設
<b>胸部外科</b>
日本胸部外科学会認定研修施設
<b>整形外科</b>
日本整形外科学会専門医研修施設
日本リウマチ学会認定教育施設
<b>耳鼻咽喉科</b>
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
<b>眼科</b>
日本眼科学会専門医制度研修施設
<b>皮膚科</b>
日本皮膚科学会専門医研修施設
<b>放射線科</b>
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本医学放射線学会専門医研修施設
<b>麻酔科</b>
日本麻酔科学会認定施設
<b>病理診断科</b>
日本病理学会研修登録施設
日本細胞学会認定施設
<b>教育研修センター</b>
協力型臨床研修病院
臨床研修協力施設(回復期リハビリテーション病棟)
看護学生教育実習施設
<b>臨床検査科</b>
日本臨床検査技師会精度保証施設認証
日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師制度指定施設
日本臨床細胞学会 認定施設
日本臨床検査医学会認定研修施設
<b>栄養科</b>
日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設
日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
日本臨床栄養代謝学会「栄養サポートチーム専門療養士」認定教育施設
日本健康・栄養システム学会臨床栄養士研修施設

# 診療実績

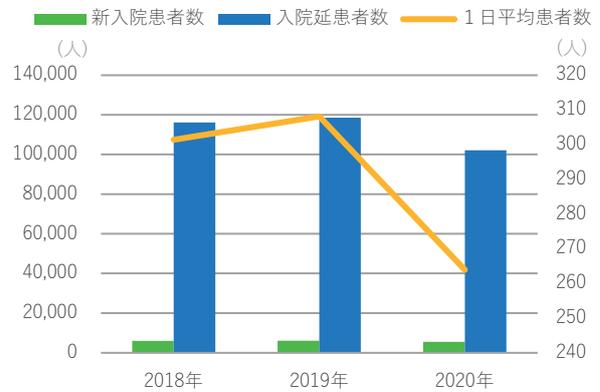
## 全体

### 外来実績



	2018年	2019年	2020年
新外来患者数	14,525	14,709	13,231
外来延患者数	137,676	137,252	132,878

### 入院実績



	2018年	2019年	2020年
新入院患者数	5,982	6,068	5,467
入院延患者数	116,115	118,515	102,077
1日平均患者数	301.4	308.1	263.9

### 主な手術 ※算定件数上位を記載 (単位：件)

内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径 2 cm 未満)	1,606
超音波凝固切開装置等加算	554
自動縫合器加算	291
水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合) (その他のもの)	238
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 (初回)	176
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの (長径 5 cm 未満))	121
内視鏡的胆道ステント留置術	120
経尿道的尿管ステント留置術	116
皮膚切開術 (長径 1.0 cm 未満)	112
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側)	108
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径 2 cm 以上)	93
時間外特例医療機関加算 2 (手術)	92
膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (電解質溶液利用のもの)	89
経尿道的尿管ステント抜去術	76
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	74
経尿道的尿路結石除去術 (レーザーによるもの)	70
院内感染防止措置加算 (手術)	64
腹腔鏡下胆嚢摘出術	64
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 (1の実施後3月以内に実施する場合)	62
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	58
骨折観血的手術 (大腿)	56
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他)	51
自動吻合器加算	48
小腸結腸内視鏡的止血術	43
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの (長径 5 cm 未満))	43
内視鏡的消化管止血術	41
鼻腔粘膜焼灼術	41

### 主な入院症例 ※診療科別上位 2 位 (単位：件)

内科	2型糖尿病	101
	誤嚥性肺炎	90
消化器内科	大腸ポリープ	363
	胆石症	138
循環器内科	うっ血性心不全	51
	不安定狭心症	44
外科	大腸癌 (結腸・直腸)	146
	鼠径ヘルニア	124
乳腺外科	乳癌	132
	腋窩リンパ節転移	2
泌尿器科	膀胱癌	104
	腎・尿管結石閉塞を伴う水腎症	103
胸部外科	肺癌	88
	自然気胸	15
形成外科	皮膚良性腫瘍	10
	2型糖尿病性潰瘍・壊疽	6
整形外科	大腿骨骨折	81
	抜釘	54
耳鼻咽喉科	慢性扁桃炎	26
	扁桃周囲炎	8
眼科	老人性白内障	154
	核性白内障	64
皮膚科	帯状疱疹後神経痛	2
	蜂巣炎 (四肢・躯幹)	2
地域包括ケア病棟	うっ血性心不全	13
	腰部脊柱管狭窄症	10
回復期リハビリ病棟	骨折治療後の回復期	143
	手術後の回復期	57

注) 総退院患者で集計

## 内科

南大阪病院は病院の理念で謳ってありますように地域からよろこばれ、信頼される病院を目指しています。そのため地域の中核病院として、地域の医療機関の先生方との密接な連携をはかり、当院を十分に利用して頂きたいと考えております。我々は常に最新の専門医療の研鑽につとめ、質の高い医療を提供していくことを信念としております。

当院は内科関連では日本内科学会教育関連病院、日本糖尿病学会認定教育施設、臨床研修病院となっており、さらに日本リウマチ学会認定教育施設、日本透析学会教育関連施設、日本腎臓学会教育認定施設にも認定されています。2004年度より大阪市立大学医学部付属病院の研修医協力病院として研修医を受け入れており、毎年4～5名の研修医が当院で研修しております。当科では一般内科をはじめ、糖尿病、腎臓病、甲状腺疾患などの内分泌系疾患、リウマチ疾患、脳神経内科、心療内科については専門のスタッフを揃え診療の充実に努めています。

また、当院は糖尿病の専門病院として地域の先生方と連携して糖尿病診療と糖尿病教育入院、糖尿病患者会活動にも力を入れており、当院の眼科とも連携して病診連携、病連携を積極的に進め、糖尿病患者さんの早期発見、早期治療により徹底した血糖コントロールを行い、糖尿病合併症の発症抑制を図っていきたくと考えています。

病診連携では当院整形外科と共催で『関節リウマチ治療の最前線』を毎年で開催してきましたが、2020年以降はコロナウイルス蔓延のため、開催を中止しています。糖尿病関連の病診連携では、毎年『生活習慣病セミナー』をしてきましたが、この会につきましても、2020年以降はコロナウイルス蔓延のため、開催を中止しています。

当院では慢性腎不全の血液透析を2004年4月より始めており、2009年12月には外来透析患者様専用の透析センター(南大阪クリニック透析センター)を開設しました。さらに2014年6月に当院新病院の完成とともに入院棟10階に7床の入院透析室が設置されました。

透析患者さんの増加に対応するため、2019年10月に4階に30床の外来透析センターが開設されました。このように当院では3カ所の透析施設で、それぞれ透析治療を行っています。

### 【睡眠センター】(睡眠時無呼吸外来)

日頃、日中の「眠気」が強いたり感じたり、「いびき」や「無呼吸」を指摘されたりしたことはありませんか？睡眠時無呼吸症候群は眠っている間に呼吸の止まる怖い病気です。睡眠時無呼吸症候群に罹患している人は、心筋梗塞や脳卒中などの致命的な心血管イベントによる死亡率が健康な人の約3倍ですが、CPAP療法を実施すると、健康な人と変わらないほど、死亡率が低下することが報告されています。南大阪病院睡眠センターは日中の過度な眠気、夜間のいびきや呼吸停止そして生活習慣病をトータルに診療する目的で設立されました。外来診察で、精密な検査が必要な方には終夜睡眠ポリグラフィー検査(1泊入院)を受けていただきます。CPAP療法が必要な方には治療を進めていきます。心臓が原因で無呼吸が起きているのであれば循環器内科、扁桃肥大や鼻が原因で無呼吸やいびきがある方は耳鼻咽喉科を紹介します。(※ケースによりましてはまず簡易検査(ご自宅)を受けて頂くことがあります。)

### 【リウマチ外来】

関節リウマチ(Rheumatoid Arthritis)は自己免疫疾患の一つで、全国で患者数が70万～80万人と推定され、いわゆるリウマチ性疾患の中でもっとも患者数が多い疾患です。男女比は1対4と女性に多く、働き盛りの30～50歳代が発症のピークと考えられていますが、近年60歳以降の高齢発症患者さんが増加傾向となっています。関節リウマチは発症早期から関節破壊が始まり、最初の1～2年が関節破壊の進行が最も早くなることが分かっています。従って早期に診断し、早期に治療を開始することが最も重要になっています。近年関節リウマチの治療薬である生物学的製剤が多数上市され、完全寛解が期待できる疾患となっています。当院ではリウマチ専門医と指導医が中心となり、内科と整形外科、リハビリテーション科が連携してリウマチ診療を行っています。

### 【総合内科】

体調不良、発熱や炎症反応高値といった症状があるのにどの診療科に受診していいのかわからないといった場合などは、受診してください。

## 医師

### 久米田 靖郎

Yasuro Kumeda

副院長  
診療部部长  
内科部長



卒業校 三重大学

専門分野 腎臓内科、糖尿病、関節リウマチ、血液透析

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/認定内科医  
日本糖尿病学会専門医/研修指導医  
日本透析医学会専門医/指導医  
日本腎臓学会専門医/指導医  
日本リウマチ学会専門医/指導医  
日本内分泌学会専門医  
日本医師会認定産業医  
じん臓機能障害指定医

### 川口 祐司

Yuji Kawaguchi

内科副部長



卒業校 奈良県立医科大学

専門分野 一般内科、糖尿病、血液透析、睡眠時無呼吸症候群

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/認定内科医  
日本糖尿病学会専門医/研修指導医  
日本透析医学会専門医  
日本臨床薬理学会専門医  
アジア糖尿病学会、日本睡眠学会

### 濱崎 健司

Kenji Hamazaki

内科医長



卒業校 滋賀医科大学

専門分野 一般内科、糖尿病、緩和ケア

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/認定内科医  
日本糖尿病学会、日本透析医学会  
日本緩和医療学会、日本医師会認定産業医

### 澤 絢

Jyun Sawa

内科医員



卒業校 大阪医科大学

専門分野 一般内科、糖尿病

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/認定内科医  
日本糖尿病学会専門医  
日本透析医学会専門医

### 増本 晃治

Koji Masumoto

内科医員



卒業校 和歌山県立医科大学

専門分野 腎臓内科、血液透析、バスキュラーアクセス

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/認定内科医  
日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医  
日本アクセス研究会、日本糖尿病学会  
日本腎臓リハビリテーション学会指導士

### 濱井 智恵

Chie Hamai

内科医員



卒業校 大阪市立大学医学部

専門分野 一般内科、糖尿病、血液透析

資格・所属 日本内科学会認定内科医  
日本糖尿病学会専門医  
日本透析医学会専門医

### 広田 知依

Tomoe Hirota

内科医員



卒業校 金沢医科大学

専門分野 一般内科、糖尿病

資格・所属 日本内科学会認定内科医  
日本糖尿病学会専門医  
日本透析医学会

### 宮本 祥子

Syoko Miyamoto

内科医員



卒業校 和歌山県立医科大学

専門分野 一般内科、糖尿病

資格・所属 日本内科学会  
日本糖尿病学会  
日本透析医学会

### 羽鹿 由里子

Yuriko Hajika

内科医員



卒業校 近畿大学医学部

専門分野 一般内科、糖尿病

資格・所属 日本内科学会  
日本糖尿病学会  
日本透析医学会

## 施設認定

- 日本内科学会教育関連施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本リウマチ学会認定教育施設
- 日本透析学会教育関連施設
- 日本腎臓学会認定教育施設

## 診療実績

2型糖尿病	1,892例
睡眠時無呼吸症候群	407例
気管支喘息	376例
慢性腎不全	269例
パセドウ病・甲状腺機能亢進症	214例
橋本病・甲状腺機能低下症	214例
誤嚥性肺炎	135例
関節リウマチ	135例
1型糖尿病	127例
慢性閉塞性肺疾患	125例
尿路感染症	117例
新規透析導入数	50例
クラミジア肺炎	26例
MRSA肺炎	18例
急性腎不全	18例
IgA腎症	13例
ANCA関連血管炎	6例
多発性嚢胞腎	5例
糖尿病教育入院	1例

## 学術業績

### 【学会発表】

#### ○SGLT2 阻害薬(Ipragliflozin :IP) 1型糖尿病患者における有効性と安全性の検討

宮本 祥子

第54回日本糖尿病学会北海道地方会

第20回日本内分泌学会北海道支部学術集会

2020年11月8日 Web開催

#### ○2型糖尿病患者における SGLT2 阻害薬(イプラグリフロジン)の有効性と安全性の検討

羽鹿 由里子

第57回日本糖尿病学会近畿地方会

2020年10月17日～31日 Web開催

#### ○骨粗鬆症合併血液透析患者におけるイバンドロネートの骨密度ならびに骨代謝関連因子に与える影響

久米田 靖郎

第63回日本腎臓学会学術総会

2020年8月19日～21日 Web開催

#### ○南大阪病院におけるシャントの立ち上げ

増本 晃治

大阪副甲状腺ホルモン研究会

2020年1月11日

#### ○腫れている原因がグラフト感染なのか解離なのか騒いでしまった一例

増本 晃治

Boston Scientific 講演会 究道会

2020年7月18日

#### ○ESAの登場からHIF阻害薬登場までの腎性貧血

増本 晃治

バイエル社内勉強会

2020年11月16日

#### ○医師から見たバスキュラーアクセス管理

増本 晃治

大阪府臨床工学技士会 学術代謝部門主催

血液浄化Webセミナー

2020年12月14日

#### ○PCBの刃 コメンテーター

増本 晃治

Boston Scientific 講演会

2020年12月21日

### 【論文】

#### ○Efficacy and Safety of Tofogliflozin and Ipragliflozin for Patients with Type-2 Diabetes: A Randomized Crossover Study by Flash Glucose Monitoring

Yuji Kawaguchi, Jun Sawa, Yasuro Kumeda

Diabetes Ther.2020 Dec;11(12):2945-2958

### 今後の展望

腎不全から血液透析導入された患者様の40%以上を糖尿病性腎症が占めており、世界的に糖尿病患者さんが増加しています。平均寿命の高齢化とも相まって、今後ますます透析患者さんが増えていくと考えられます。糖尿病性腎症、あるいは尿蛋白、尿潜血が陽性といった早期の腎疾患の予兆が認められた患者さんがおられた場合、紹介していただければ腎生検を含めた検査にて診断、早期の治療を開始することで腎疾患の進行抑制を図れると考えております。

このように当院では腎炎、慢性腎臓病、腎不全、維持透析までの一貫した診断と治療をおこなっており、腎疾患に関しても地域の患者様の病診連携、病病連携を積極的に進め腎疾患の進行抑制を図っていきたくと考えております。

今後も開業医や勤務医の先生方と糖尿病や慢性腎臓病をはじめとした生活習慣病に対する病診連携、病病連携の強化を進めていく方針である。



# 循環器内科

当院は循環器専門医2名を含む3名の常勤医と3名の非常勤医、2名の外来担当医で診療しており、循環器専門医研修施設、心臓リハビリテーション実施施設として、「高度な医療レベルからリハビリテーションまで」をコンセプトとしております。心臓疾患や血管疾患を中心に動脈硬化に関連する種々の疾患に関し、個々の患者さんに適した検査、治療を行っております。

## 医師

### 宮越 一穂

Kazuho Miyakoshi

名誉院長

卒業校 大阪医科大学

専門分野 循環器一般

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/指導医  
日本循環器学会専門医  
日本高血圧学会専門医/指導医  
日本脈管学会  
日本生命倫理学会  
日本医師会認定産業医

### 濱田 偉文

Hidefumi Hamada

顧問

卒業校 大阪医科大学

専門分野 循環器内科、内科一般

資格・所属 日本内科学会指導医/認定内科医  
日本循環器学会専門医  
日本高血圧学会、日本心臓病学会  
日本超音波学会、日本脈管学会

### 中島 大成

Dainari Nakashima

循環器内科副部長

卒業校 大阪医科大学

専門分野 虚血性心疾患、不整脈

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/指導医  
日本循環器学会専門医  
日本高血圧学会指導医  
日本不整脈学会  
日本心血管インターベンション治療学会  
日本心臓リハビリテーション学会指導士

### 津久田 享三

Kyouzo Tsukuda

循環器内科医長

卒業校 金沢医科大学

専門分野 循環器一般

資格・所属 日本内科学会  
日本循環器学会  
日本心血管インターベンション学会  
日本心臓リハビリテーション学会

### 綾田 健士

Kenji Ayata

循環器内科医長

卒業校 奈良県立医科大学

専門分野 循環器内科、総合内科

資格・所属 日本内科学会総合内科専門医/認定内科医  
日本循環器学会専門医  
日本心血管インターベンション学会認定医

## 対象疾患

### ○虚血性心疾患

狭心症、心筋梗塞

### ○不整脈

徐脈性不整脈（洞不全症候群、完全房室ブロックなど）、  
頻脈性不整脈（心房細動、WPW症候群などの上室性頻拍）、  
心室頻拍、心室細動

### ○心不全

弁膜症、心筋症、成人先天性心疾患

### ○血管疾患

大動脈瘤、大動脈解離、末梢動脈疾患、静脈瘤、  
深部静脈血栓症、肺動脈血栓塞栓症

### ○高血圧

二次性高血圧、肺高血圧症

### ○心膜疾患

心膜炎、心内膜炎

## 当院で行える検査・手術

### 【検査】

#### ○冠動脈CT

造影剤を使用し冠動脈狭窄の有無を検査します

#### ○血管撮影装置

冠動脈造影検査、末梢血管造影検査

#### ○超音波検査

心エコー、末梢血管エコー、頸動脈エコー

#### ○生理検査

心電図、運動負荷心電図、ホルター心電図、血圧脈波検査

### 【手術】

#### ○経皮的冠動脈形成術および冠動脈内ステント留置術(PCI)

#### ○ペースメーカー植え込み術

#### ○経皮的末梢動脈形成術(PTA)

#### ○下大静脈(IVC)フィルター留置術および抜去術

#### ○経皮的心肺補助

#### ○大動脈内バルーンパンピング

## 施設認定

#### ○日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

#### ○日本高血圧学会認定教育施設

## 診療実績

### 【カテ室検査実施件数】

CAG	107 件
アイバス	71 件
PCI	57 件
POBA	46 件
DES ステント (病変単位)	32 件
DES ステント (患者単位)	24 件
下肢動脈造影	24 件
PTA	24 件
PCI (緊急)	21 件
体外式ペースメーカー挿入	18 件
CAG(緊急)	13 件
AMII 患者に対する緊急 PCI	7 件
血栓吸引	6 件
CVC 挿入	6 件
ペースメーカー移植術	4 件
LVG	2 件
下大静脈フィルター留置	2 件
IABP	2 件
心のう穿刺	2 件
右心カテーテル	1 件
BMS 留置 (患者単位)	1 件
BMS 留置 (病変単位)	1 件
術中挿管	1 件
DFR/FFR/DFR	10/0/1

### 【循環器検査実施件数】

心エコー	2,352 例
下肢静脈エコー	1,162 例
ABI	836 例
ホルダー心電図	216 例
マスター負荷試験	193 例
頸動脈エコー	136 例
下肢静脈エコー	75 例
トレッドミル負荷試験	41 例
CPX	4 例

# 消化器内科

## 医師

<b>福田 隆</b> Takashi Fukuda	院長	
卒業校	大阪市立大学	
専門分野	消化器内科全般、ピロリ菌感染症、 胃食道逆流性	
資格・所属	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化管学会指導医 日本内科学会指導医 日本抗加齢医学会専門医 日本ヘリコバクター学会認定医 日本臨床栄養代謝学会認定医 日本医師会認定産業医	

<b>佐々木 英二</b> Eiji Sasaki	消化器内科部長 (2020年4月入職)	
卒業校	大阪市立大学	
専門分野	上部消化管	
資格・所属	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化管学会指導医 日本内科学会指導医 日本ヘリコバクター学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医	

<b>中谷 雅美</b> Masami Nakatani	消化器内科副部長 内視鏡センター長	
専門分野	消化器内科、消化管内視鏡治療全般	
資格・所属	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化管学会指導医 日本内科学会総合内科専門医	

<b>森本 謙一</b> Kenichi Morimoto	消化器内科医長	
専門分野	消化器内視鏡一般、炎症性腸疾患	
資格・所属	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会総合内科専門医	

<b>中村 吉宏</b> Yoshihiro Nakamura	消化器内科医員	
卒業校	大阪市立大学	
専門分野	消化器内科	
資格・所属	日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会専門医	

<b>前田 夏美</b> Natsumi Maeda	消化器内科医員	
専門分野	消化器内科	
資格・所属	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会	

<b>金 大裕</b> Daiyu Kin	消化器内科医員 (2020年9月入職)	
専門分野	消化器内科	
資格・所属	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会	

<b>陣内 鑑</b> Kagami Jinnai	消化器内科医員 (2020年4月入職)	
専門分野	消化器内科	
資格・所属	日本内科学会 日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会	

<b>東森 啓</b> Akira Higashimori	消化器内科医員 (2020年3月末退職)	
----------------------------------	-------------------------	--

<b>橋本 篤</b> Atsushi Hashimoto	消化器内科医員 (2020年3月末退職)	
----------------------------------	-------------------------	--

## 施設認定

- 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設

## 診療実績

当科は主として内視鏡センターにおける最先端の内視鏡検査・治療を通じ、消化管および肝胆膵領域の幅広い疾患に対する診療を行っている。2020年の内視鏡センターでの消化器領域内視鏡総件数は9,882件であった(図1)。また、その方法については、経鼻内視鏡や意識下鎮静法での内視鏡を行うことにより患者様の苦痛・負担を少なくし、安心・安全・確実な検査・治療を行う事を第一に心がけている。特に、今年度は新型コロナウイルス感染症が流行したため、その感染拡大防止に対する取り組みに注力した。具体的には、発熱や体調不良のある患者様には内視鏡検査の延期をお願いする、内視鏡検査前1週間以内に胸部単純撮影又はCT検査にて肺炎の有無を確認する、上部消化管内視鏡検査時は飛沫防止のためガーゼで覆ったマウスピースの使用および顔の周りをビニールカバーで覆うなどの対策を行った。

内視鏡治療に関しては、主なものとして、大腸ポリープに対する内視鏡的切除術(ポリペクトミー)、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)に関連した治療、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行っている。

大腸ポリープに対する内視鏡的切除術(ポリペクトミー)は1747件行った(図2)。これには原則5mm以下の小さなポリープを対象に外来で切除するコールドポリペクトミーと、それ以上の大きさのポリープに対して入院で行う従来のポリペクトミーが含まれている。

近年、総胆管結石や膵がん、胆管がんなどの検査・治療のための内視鏡であるERCP件数の増加が顕著である。急性閉塞性化膿性胆管炎などの疾患では、救命のためにERCPでのドレナージ治療が至急必要となる場合があり、その様な緊急ERCPにも常時対応している。また、2019年より、スパイグラスデジタル内視鏡を導入した。スパイグラスデジタル内視鏡は、胆道胆管又は膵臓の観察、診断、撮影又は治療に用いる画像を提供するための内視鏡であり、軟性十二指腸鏡を介して胆道胆管又は膵管に挿入する。当科では主に総胆管結石の観察や、体内挿入式電気水圧衝撃波結石破碎装置(EHL)との併用による総胆管結石の破碎の為に用いている。本デバイスの導入により、これまで困難であった大きな総胆管結石の治療が可能となってきている。

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は消化管の早期のがんを開腹せず内視鏡的に切除する治療であり、当院でも食道・胃・大腸、それぞれの部位の表在がん・早期がんに対して行っている。特に食道ESDは高度の内視鏡技術を要し施行可能な施設は限られているが、当院ではより安全で確実な治療を目指して、手術室で麻酔科医の協力の元に全身麻酔下で施行している。2020年の件数は食道ESD15件、胃ESD45件、大腸ESD26件の合計86件であった。それ以外にも図3に示すように多くの種類の内視鏡治療を最先端の技術、機器を用いている。

消化器内科ではこの様な各種内視鏡治療以外にも、逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、腸閉塞、肝炎、肝硬変などの一般的消化器疾患や、近年増加傾向の潰瘍性大腸炎など幅広い分野で専門的診療を行っている。午後の専門外来としては肝臓外来と、ABC検診にてピロリ菌陽性を指摘された方などを対象としたピロリ菌外来を行っている。

図1. 内視鏡件数

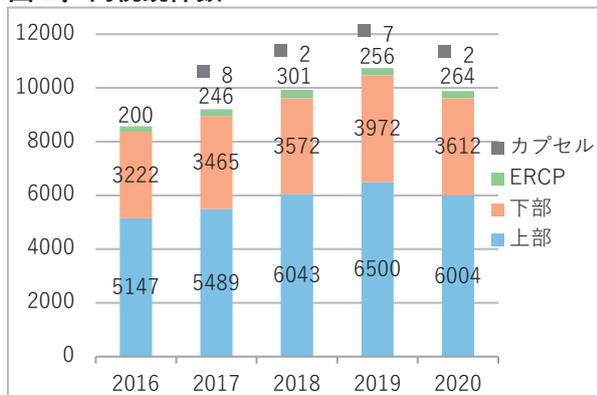
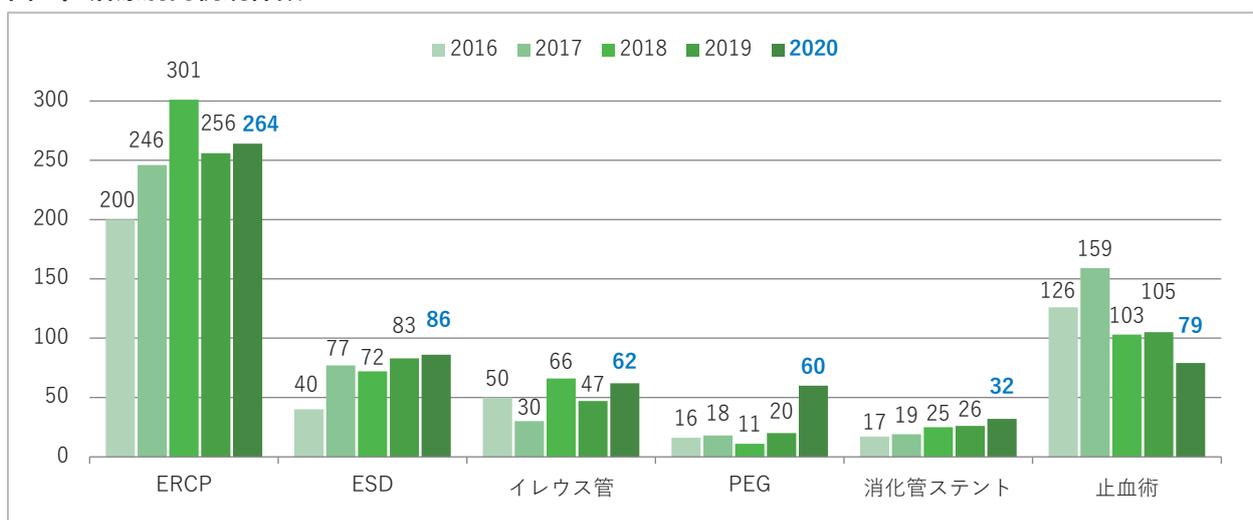


図2. 大腸ポリープ治療件数



図3. 治療別内視鏡件数



## 学術業績

### 【学会発表】

○Right-sided colonic diverticula are negatively associated with constipation

前田 夏美、他

2020 米国消化器病週間

2020 年 5 月 シカゴ

○Age-specific risk factors of inadequate bowel preparation for colonoscopy; a prospective questionnaire-based observational study

東森 啓、他

2020 米国消化器病週間

2020 年 5 月 シカゴ

○大腸憩室症と慢性便秘症の関連性についての検討

東森 啓、他

第 104 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会

2020 年 6 月 京都

○生活習慣と下部消化器内視鏡検査における前処置不良の関連性の検討

－質問紙調査を用いた前向き観察研究－

前田 夏美、他

第 106 回日本消化器病学会総会

2020 年 8 月 広島

○慢性便秘症と大腸憩室症の関連性についての検討

－質問紙を用いた前向き観察研究－

森本 謙一、他

第 106 回日本消化器病学会総会

2020 年 8 月 広島

○大腸内視鏡検査で前処置不良となる年齢別リスク因子の検討

東森 啓、他

第 99 回日本消化器内視鏡学会総会

2020 年 9 月 京都

○高齢者における ERCP 後膵炎に対する低用量ジクロフェナク直腸投与による予防効果の検討

前田 夏美、他

第 99 回日本消化器内視鏡学会総会

2020 年 9 月 京都

○Clinical usefulness of a conventional gastroscope for ERCP in patients with surgically altered gastrointestinal anatomy

前田 夏美、他

第 99 回日本消化器内視鏡学会総会

2020 年 9 月 京都

○大腸憩室症のリスク因子についての検討

橋本 篤、他

第 99 回日本消化器内視鏡学会総会

2020 年 9 月 京都

○慢性便秘症患者での大腸内視鏡検査で前処置不良となるリスク因子の検討

－質問紙を用いた観察研究－

中村 吉宏、他

第 99 回日本消化器内視鏡学会総会

2020 年 9 月 京都

○非専門医のための内視鏡所の読み方

中谷 雅美

大阪南部消化器

2020 年 9 月 web seminar

### 【論文】

○上行結腸癌による腸閉塞に対して経鼻内視鏡とディスポーザブルスライディングチューブを併用し回盲部ステント留置術を行った 1 例

前田 夏美、他

南大阪病院医学雑誌 67 巻(1) : 35-38, 2020

## 今後の展望

大阪府がん診療拠点病院としての責任を全うするため、ESD や ERCP、ステント留置術など各種がんに対する内視鏡治療を積極的に行い、同時に検診も含め多くの方々に安心・安全・確実な内視鏡検査を提供し、消化管がんの早期発見にも努めたい。

今後とも内視鏡センターは、経験豊富な医師・看護師・コメディカルがチーム一丸となり、患者様に寄り添った安心・安全で質の高い内視鏡診療を通じて地域医療に貢献して行きたい。また膨大な件数の内視鏡を行う High volume center として、消化器内視鏡の進歩に寄与する臨床研究にも携わって行きたい。

文責：佐々木英二

## 消化器外科・内視鏡外科

当院消化器外科・内視鏡外科は大阪市阿倍野区にある大阪市立大学附属病院の関連施設であり、上級医は大学病院やセンター病院で専門領域の外科手術を多数経験し、高度の技能を持つ医師で構成されています。外科医はそれぞれの領域の専門医を有しており、最新の技術・知識をもって診療にあたるとともに、それぞれの疾患のガイドラインを熟知し、患者さんにガイドラインに沿った治療方針を提示しています。さらに、当院での手術の多くは従来の開腹手術から腹腔鏡手術へと移行しており、患者さんに優しい・負担のかからない手術を多数取り入れています。

高い専門性を有する高難度の手術も外科チームで望み、当院だけで完結できる自己完結型の病院を目指しています。大阪市南部の大阪府がん診療拠点病院として、がんに対する診断・外科治療はもちろん抗癌剤治療に至るまで積極的に対応しております。また、それぞれの専門分野のみならず、様々な外科疾患に対して幅広く診療できるように、地域密着型の医療を目指しています。

当院外科の特徴はがんの診療のみでなく、患者さんの QOL を向上させ得る手術を多数施行していることにあります。患者さんの QOL を向上させる手術にも様々なものがありますが、当院で積極的に行っているのは、食道良性疾患に対する手術と肥満・代謝改善手術（いわゆる減量手術）があります。特に食道良性疾患に対する外科的治療は日本有数の手術症例数を有し、2020 年の全国集計では食道裂孔ヘルニア・逆流性食道炎の手術件数は日本最多となりました。高齢化が急速に進行している本邦では高齢者に外科的治療を適応する機会が急増しています。高齢者に多い疾患の一つに食道裂孔ヘルニアがあり、これまで食道裂孔ヘルニアに伴う症状があっても手術を施行する施設が少なく致命的な状態に至ることが少ない病態であるため、放置または経過観察されることが慣習でした。このため、投薬で改善しない嘔吐や胸部不快感などの食道裂孔ヘルニアに伴う症状があった場合に症状改善が難しく治療手段がありませんでした。しかし、我々の経験から高齢者の食道裂孔ヘルニアによる様々な症状（嘔吐・胸部不快感・胸痛・喉の違和感を含む逆流症状）が外科的治療により改善することがわかり、手術件数が増えるとともに日本全国から手術を希望されてわざわざ来院いただけるようになりました。

もう一つの QOL 改善のための我々が行なっている手術に肥満・代謝改善手術があります。この手術は糖尿病や睡眠時無呼吸症候群を合併した高度肥満の方に適応する手術（腹腔鏡下スリーブ状胃切除術）ですが、体重減少を得ると同時に糖尿

病や睡眠時無呼吸症候群の改善も得られることが知られています。また、糖尿病をはじめ様々な肥満に関連した疾患を改善することで、寿命の延長が得られることも報告されています。この手術は海外では年間 60 万件も行われている非常に多い術式ですが、本邦ではまた施行施設が少なく年間 700 件程度しか行われていません。当院では 2018 年から本術式を導入するとともに、本術式を希望される方の専門外来である肥満・減量外来を開始しました。本外来に来院される方の全員が手術にまで至るわけではありませんが、内科的治療の後に手術適応のある方には積極的に手術を適応しています。これまで 25 例に施行しておりますが、術中・術後の合併症も特になく経過しています。

今後これらの患者さんの QOL を改善するための手術は、様々ながんの手術とともに外科医にとって習得すべき手術となります。重要になります。当院外科ではこれらの手術を今後とも安全性に注意しつつ積極的に行っていくことが大切と考えています。

また、外科の特殊外来の一つとして、診療・手術の対応を全て女性が担当する女性外科専用外来を開始しています。外科的治療を必要とする疾患を有する女性の方で男性外科医の診療を躊躇される方もおられ、その様な方に安心して受診いただけるようにしています。



## 医師

### 藤尾 長久

Nagahisa Fujio

外科部長



**卒業校** 岐阜大学医学部  
**専門分野** 消化器外科（肝臓・胆道・膵臓）  
**資格・所属** 日本外科学会専門医/指導医  
 日本消化器病学会専門医/指導医/  
 日本消化器外科学会認定医  
 日本がん治療認定医機構暫定教育医  
 日本医師会認定産業医  
 医学博士（2011年4月入職）

### 竹村 雅至

Masashi Takemura

内視鏡外科部長



**卒業校** 近畿大学医学部  
**専門分野** 消化器外科、内視鏡外科、食道外科、  
 胃外科、減量・糖尿病外科  
**資格・所属** 日本外科学会専門医/指導医  
 日本消化器病学会専門医/指導医  
 日本消化器外科学会専門医/指導医  
 日本消化器内視鏡学会指導医・専門医  
 日本内視鏡外科学会技術認定医  
 日本消化管学会胃腸科専門医/指導医  
 日本胸部外科学会指導医  
 日本食道学会食道科認定医・食道外科専門医  
 日本腹部救急医学会暫定教育医/認定医  
 日本外科感染症学会 インフェクションコント  
 ロールドクター  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
 日本外科感染症学会 ICD  
 医学博士（2017年1月入職）

### 田中 芳憲

Yoshinori Tanaka

外科副部長



**卒業校** 大阪市立大学医学部  
**専門分野** 消化器外科（胃・大腸）  
 腹腔鏡手術（胃癌・大腸癌）  
**資格・所属** 日本外科学会専門医  
 日本消化器病学会専門医/指導医  
 日本消化器内視鏡学会専門医/指導医  
 日本消化器外科学会専門医  
 日本内視鏡外科学会技術認定医  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
 日本医師会認定産業医  
 医学博士（2008年4月入職）

### 眞弓 勝志

Katsuyuki Mayumi

外科医長



**卒業校** 徳島大学医学部  
**専門分野** 消化器外科（肝臓・胆道・膵臓）  
**資格・所属** 日本外科学会専門医  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
 （2020年7月入職）

### 大嶋 勉

Tsutomu Oshima

外科副部長



**卒業校** 兵庫医科大学  
**専門分野** 消化器外科  
**資格・所属** 日本外科学会専門医  
 日本消化器内視鏡学会専門医  
 日本消化器外科学会専門医  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
 医学博士（2017年4月入職）

### 山田 正法

Masanori Yamada

外科医員



**卒業校** 関西医科大学  
**専門分野** 消化器外科（胃・食道外科）  
**資格・所属** 日本外科学会専門医/指導医  
 日本消化器外科学会指導医  
 日本食道学会食道科認定医  
 周術期感染管理認定医  
 （2020年4月入職）

### 形部 憲

Ken Gyobu

外科医員



**卒業校** 奈良県立医科大学  
**専門分野** 消化器外科  
**資格・所属** 日本外科学会専門医  
 日本消化器病学会専門医  
 日本食道学会食道科認定医  
 医学博士（2019年7月入職）

### 瀧井 麻美子

Mamiko Takii

外科医員



**卒業校** 京都府立医科大学  
**専門分野** 消化器外科  
**資格・所属** 日本外科学会専門医  
 日本消化器外科学会専門医  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
 日本食道学会食道科認定医  
 （2017年4月入職）

### 嶋田 泰尚

Yasutaka Shimada

外科医員



**卒業校** 兵庫医科大学  
**専門分野** 消化器外科  
**資格・所属** 日本外科学会、日本消化器外科学会、  
 日本消化器病学会、日本胃癌学会、  
 日本食道学会、日本ヘルニア学会  
 （2019年4月入職）

### 多田 隆馬

Ryuma Tada

外科専攻医



**卒業校** 高知大学医学部  
**専門分野** 消化器外科  
**資格・所属** 日本外科学会

### 飛田 忠之

Tadayuki Hida

会長



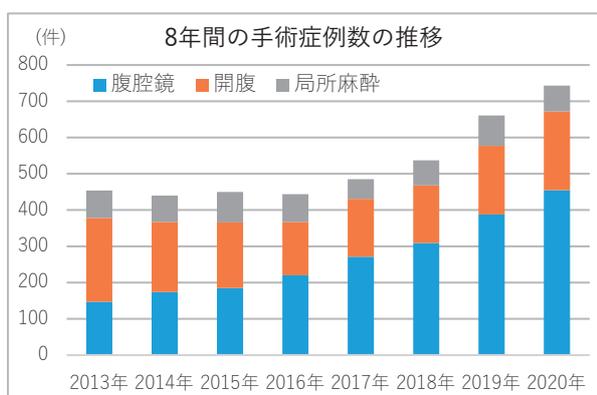
**卒業校** 大阪大学医学部  
**専門分野** 外科一般  
**資格・所属** 日本外科学会指導医  
 日本医師会認定産業医

## 施設認定

- 日本外科学会外科専門医制度修練指定施設
- 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(外科食道系)
- 日本食道学会全国登録認定施設
- 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設

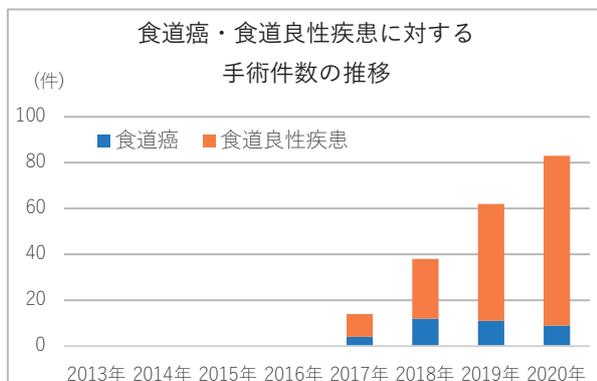
## 主要統計

### 【全手術症例数・腹腔鏡手術割合】



2020年の全国の病院における外科手術は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、手術の延期や手術の制限により手術件数が減少している施設が多い。当院の全手術症例数は2016年まで400件程度で推移したが、最近の4年間は増加傾向にある。特に近年の腹腔鏡手術の普及に伴い、腹腔鏡手術件数の増加が著しい。全手術件数に占める腹腔鏡手術の割合は2013年の32.4%から2020年の61.2%まで経時的に増加している。

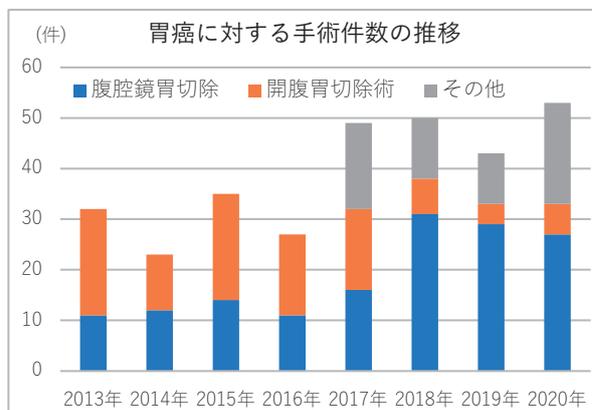
### 【食道手術件数の推移】



当院外科では食道科認定医の常勤により良悪性を問わず食道疾患に対する外科的治療を積極的に行っている。食道癌に対する外科的治療は2017年

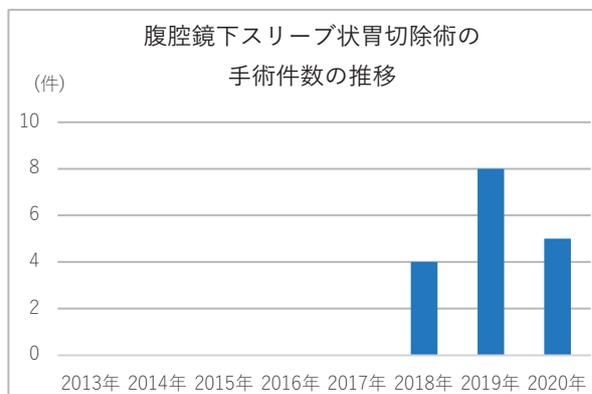
より導入し、年間10件程度の手術を行っている。食道良性疾患に対する手術も同様に2017年より導入し、年々増加している。特に2020年の逆流性食道炎や食道裂孔ヘルニアの手術件数は、日本全国の病院の手術件数の集計で全国最多となった。

### 【胃癌手術件数の推移】



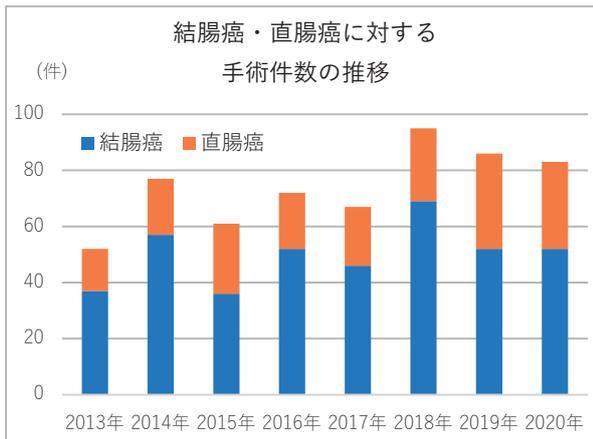
本邦では外科的治療の対象となる胃癌は近年減少傾向にあるが、当院では30~40件で推移している。その一方で、開腹下胃切除は減少し、腹腔鏡下胃切除術の割合が増加している。さらに、進行胃癌の進行度診断に必須の手技である、審査腹腔鏡手術(その他に含まれている)が増加している。

### 【減量手術(腹腔鏡下スリーブ状胃切除術)】



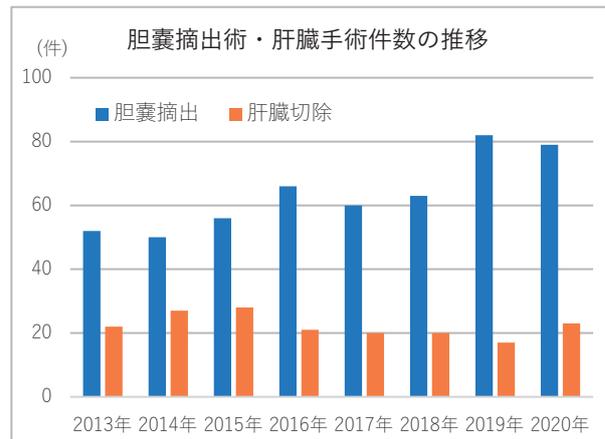
当院では2018年より糖尿病や睡眠時無呼吸症候群などを合併した高度肥満症(BMI35以上)に対する減量手術を導入している。減量内科外来で半年程度の減量指導の後に手術適応となる。本邦における肥満人口の増加に伴い、今後増加が期待される手術である。

### 【結腸癌・直腸癌手術件数の推移】



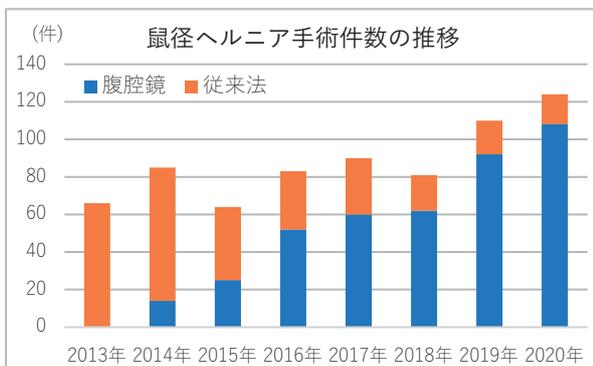
結腸癌・直腸癌に対する手術は腹腔鏡手術が主流になっており、当院でも同様である。

### 【胆嚢摘出術・肝臓手術件数】



肝臓手術は同様に推移しているが、胆嚢摘出術は近年増加傾向である。

### 【鼠径・腹壁ヘルニア手術件数の推移】



当院では鼠径ヘルニアに対する手術は腹腔鏡手術（TAPP法）を標準手術としている。2014年より腹腔鏡下ヘルニア修復術を導入しているが、2020年には腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の手術件数は100件を超えている。



## 診療実績

#### 全手術症例数・腹腔鏡手術件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
腹腔鏡手術	147	174	185	220	271	309	388	455
開腹手術	231	193	181	147	160	159	189	217
局所麻酔	76	73	84	77	54	69	84	71

#### 食道手術件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
食道癌	0	0	0	0	4	12	11	9
食道良性疾患	0	0	0	0	10	26	51	74

#### 胃癌手術件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
腹腔鏡胃切除	11	12	14	11	16	31	29	27
開腹胃切除術	21	11	21	16	16	7	4	6
その他	0	0	0	0	17	12	10	20

### 減量手術件数（腹腔鏡下スリーブ状胃切除術）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
スリーブ状胃切除術	0	0	0	0	0	4	8	5

### 結腸癌・直腸癌手術件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
結腸癌	37	57	36	52	46	69	52	52
直腸癌	15	20	25	20	21	26	34	31

### 鼠径・腹壁ヘルニア手術件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
腹腔鏡	0	14	25	52	60	62	92	108
従来法	66	71	39	31	30	19	18	16

### 胆嚢摘出術・肝臓手術件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
胆嚢摘出	52	50	56	66	60	63	82	79
肝臓切除	22	27	28	21	20	20	17	23

## 学術業績

### 【学会発表】

#### 【竹村 雅至】

- 食道癌根治切除後再発時期別の治療方針と予後についての検討

第16回日本消化管学会総会学術集会  
2020年2月7日

- 難治性胃切除後逆流性食道炎に対する腹腔鏡下手術の経験と治療成績

第16回日本消化管学会総会学術集会  
2020年2月7日

- 難治性胃切除後逆流性食道炎に対する腹腔鏡下手術の治療成績

第92回日本胃癌学会総会  
2020年3月4日

- 小腸癌を合併した食道裂孔ヘルニアに対して腹腔鏡下手術を施行した1例

第56回日本腹部救急医学会総会  
2020年3月12日

- IV型食道裂孔ヘルニアに対する外科的治療成績と問題点

第56回日本腹部救急医学会総会  
2020年3月12日

- 食道癌根治切除後再発時期別の治療方針と外科的介入の有用性

第42回日本癌局所療法研究会  
2020年5月29日

- OcStageIV 食道癌に対する根治的放射線化学療法後の外科的治療成績

第42回日本癌局所療法研究会  
2020年5月29日

- 胃癌術後の局所再発に対して臍頭十二指腸切除術を施行した1例

第42回日本癌局所療法研究会  
2020年5月29日

- 食道アカラシアに対するPOEM後の瘢痕性狭窄に対して外科的治療を適応した1例

第63回関西胸部外科学会学術集会  
2020年6月25日

- 多発肝転移を有する進行胃癌に対してペンブロリズマブが著効した1例

第41回癌免疫外科研究会  
2020年7月16日

- 85歳以上の食道裂孔ヘルニア症例に対する外科的治療の成績

第106回日本消化器病学会総会  
2020年8月11日

## 【学会発表】

### 【竹村 雅志】

- 食道裂孔ヘルニアに対する裂孔補強用メッシュの使用例の長期成績

第120回日本外科学会定期学術集会 サージカルフォーラム  
2020年8月13日

- 食道裂孔ヘルニア術後再発に対する外科的治療

第33回近畿内視鏡外科研究会  
2020年9月26日

- 肥満患者に対する腹腔鏡下食道裂孔縫縮術の工夫と成績

第33回近畿内視鏡外科研究会  
2020年9月26日

- 食道裂孔ヘルニアに対する胃固定術の手術手技と有用性

第74回手術手技研究会 サージカルフォーラム  
2020年10月9日

- 食道癌術後縫合不全に対してステント留置が有効であった2例の経験

第82回日本臨床外科学会総会  
2020年10月29日

- 肥満患者に対する腹腔鏡下食道裂孔縫縮術の成績と工夫

第82回日本臨床外科学会総会  
2020年10月29日

- 良性食道狭窄に対する外科手術の術式と経験

第82回日本臨床外科学会総会  
2020年10月29日

- 体壁ヘルニアを合併した食道裂孔ヘルニアの症例に対する外科的治療の経験

第18回日本ヘルニア学会学術集会  
2020年11月3日

- 食道裂孔ヘルニアに対する低侵襲治療としての腹腔鏡下手術の現状

第62回日本消化器病学会大会 (JDDW28)  
2020年11月5日

- 多臓器脱出を伴うIV型裂孔ヘルニアに対する外科的治療成績

第18回日本消化器外科学会大会 (JDDW28)  
2020年11月5日

- 我々の行っている食道裂孔ヘルニア手術における再発軽減のための手術手技

第74回日本食道学会学術集会 サージカルフォーラム  
2020年12月10日

- 食道アカラシアに対するPOEM後の癒痕性狭窄に対する外科的治療の経験

第74回日本食道学会学術集会  
2020年12月10日

- 食道裂孔ヘルニアを有する高度肥満症例に対する腹腔鏡下食道裂孔縫縮術の成績

第74回日本食道学会学術集会  
2020年12月10日

- 食道裂孔ヘルニア修復術におけるメッシュ使用例の長期治療成績

第74回日本食道学会学術集会  
2020年12月10日

- 食道裂孔ヘルニア手術におけるメッシュの有用性について再考する

第75回日本消化器外科学会総会 ワークショップ  
2020年12月15日

- 内視鏡外科の安全な手技「食道(食道裂孔ヘルニア修復術、食道アカラシア手術)」

第45回日本外科系連合学会学術集会 教育ビデオセミナー  
2020年12月22日

- 当院における肥満・減量手術の導入と治療成績

第45回日本外科系連合学会学術集会 ビデオセッション  
2020年12月22日

- 食道裂孔ヘルニアに対する胃固定術の手術手技

第45回日本外科系連合学会学術集会 ビデオセッション  
2020年12月22日

- 難治性胃切除後逆流性食道炎に対する腹腔鏡下手術の経験と治療成績

第45回日本外科系連合学会学術集会  
2020年12月22日

## 【学会発表】

### 【瀧井 麻美子】

- 腔鏡下胃切除における胃十二指腸動脈露出の意義

第 92 回日本胃癌学会総会  
2020 年 3 月 4 日

- 生き生きと働ける医療社会を目指してー女性外科医の視点でー

第 120 回日本外科学会定期学術集会 サージカルフォーラム  
2020 年 8 月 13 日

- 安全かつ術後 QOL に注目した減量手術の工夫

第 82 回日本臨床外科学会総会 ビデオシンポジウム  
2020 年 10 月 29 日

- 女性外科医が自信を持って活躍できるように

第 18 回日本ヘルニア学会学術集会 東京 シンポジウム  
2020 年 11 月 3 日

- 巨大食道裂孔ヘルニアに対する再発軽減を目指した腹腔鏡下修復術のコツ 8

第 74 回日本食道学会学術集会 サージカルフォーラム  
2020 年 12 月 10 日

- 巨大食道裂孔ヘルニアに対する再発軽減を目指した腹腔鏡下修復術のコツ

第 75 回日本消化器外科学会総会 要望ビデオ  
2020 年 12 月 15 日

- 減量手術を円滑かつ安全に行うために～トータルマネージメントと連携～

第 45 回日本外科系連合学会学術集会 シンポジウム  
2020 年 12 月 22 日

## 【講習会】

### 【竹村 雅至】

- 食道裂孔ヘルニア手術の実際

Echelon Channel.  
2020 年 10 月 12 日

- 当院における食道裂孔ヘルニアに対する手術の現状と治療成績

第 21 回愛知医科大学消化器外科ビデオカンファレンス  
2020 年 10 月 27 日

## 【論文報告】

- 巨大食道裂孔ヘルニアに伴う瘢痕性食道狭窄に対して鏡視下に食道切除再建術を施行した 1 例  
竹村 雅至、他

南大阪病院医学雑誌 67 巻(1) : 25-29, 2020

- 3 章 鏡視下手術 1. 食道切除術

竹村 雅至

消化器ナーシング 2020 春季増刊 消化器の治療と検査 : 96-98 (2020.04)

- 3 章 鏡視下手術 2. 噴門形成術

竹村 雅至

消化器ナーシング 2020 春季増刊 消化器の治療と検査 : 99-101 (2020.04)

- 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術【前編】肥満・減量手術の適応と現状

竹村 雅至

オペナーシング 35 巻(5) : 534-536 (2020.05)

- cStageIV 食道癌に対する根治的放射線化学療法後のサルベージ胸腔鏡下食道切除術の成績

竹村 雅至、他

癌と化学療法 47 巻(13) : 1848-1850 (2020.12 増刊号)

- 食道癌根治切除後再発時期別の治療方針と予後

竹村 雅至、他

癌と化学療法 47 巻(13) : 1851-1853 (2020.12 増刊号)

- Anastomosis behind the sternoclavicular joint is associated with increased incidence of anastomotic stenosis in retrosternal reconstruction with a gastric conduit after esophagectomy.

Kurahashi Y, M Takemura et al.

Diseases of the esophagus 1-8, 2020

## 【著書】

### 【竹村 雅至、他】

- 新 DS NOW 5 巻 : 良性・救急疾患に対する標準腹腔鏡手術 [消化管編] 食道アカラシア : 26-48

## 今後の展望

現在の消化器外科は臓器別に診療が行われることが多く、一人の消化器外科医が全ての臓器を対象とした診療を行い外科的な治療を習得し安全に行うことは困難になっています。このため、多くの病院で専門臓器別に診療が行われることが多くなっていますが、当院でもそれぞれの消化器外科医の専門領域を明確にすることで症例を集積し治療成績の向上を図ることと、院内・院外を問わず紹介いただく先生方に紹介先をわかりやすく明示する工夫を行います。

また、2019年度からは当院で急増する食道良性疾患への対応と、内視鏡や食道造影では診断困難な食道疾患に対する病態解明と正確な診断のために、食道運動機能の測定が可能なハイレゾリューションマンOMETRY測定機器を導入し運用しております。現在までハイレゾリューションマンOMETRYを50件以上施行してきましたが、逆流性食道炎と同様の症状を有するが内視鏡では逆流性食道炎の所見が軽度である非びらん性胃食道逆流症やPPIなどの薬剤に抵抗性の逆流性食道炎の診断は難しいことがわかりました。この様な患者さんに対しては24時間にわたり食道内の酸の程度を調べる必要があることと、食道内の非酸逆流を同時に測定できる24時間pHインピーダンス測定をできる機器が有用であることが知られています。今後当院でも増加する食道疾患に対応しより正確な病態解析と診断を可能とするため、本検査機器の導入を図っていきます。

一方、腹腔鏡下手術は開腹手術に比べ低侵襲であることが知られていますが、腹腔鏡下手術にも様々な種類があり、さらなる低侵襲化を目指した術式があります。そのうちの一つが単孔式腹腔鏡下手術で、一つの孔から手術を行う特殊な術式です。通常腹腔鏡下手術は多孔式腹腔鏡手術と呼ばれ、複数個の孔が必要ですが、単孔式腹腔鏡下手術はこれを一つの孔から行う手術です。多孔式腹腔鏡下手術より傷が小さく目立たない美容上有用な手術ですが、手術器具の可動性に制限があり適応できる疾患は限定されますが、メリットのある手術であり導入を行っていきます。

最近の外科手術の大きなトピックとして手術支援ロボット手術による腹腔鏡手術のさらなる低侵襲化と精度向上があります。手術支援ロボットは現在のところ通常の腹腔鏡手術より高コストであり、我々が対象とする手術では臨床的有用性が明らかではないため、当院ではまだ手術支援ロボットは導入しておりません。しかし、今後さらに普及するに伴いコストの低下が得られるため、将来

的には当院にも手術支援ロボットの導入を図りたいと考えています。

## NCD 事業

医療の現状を把握し、より安全で質の高い医療を提供することを目的とした事業（NCD:National Clinical Database）に、本院も参加することになりました。

内容に関しては個人情報保護法に基づき個人情報（特に個人名等）が病院外で特定されることのない形で提供されますので、ご理解の上ご協力のほどよろしくお願いします。

詳しくは、当院ホームページ専門医制度と連携したデータベース事業への参加について一をご覧ください。

南大阪病院外科では様々な消化器疾患に対する腹腔鏡手術を内視鏡外科技術認定医の指導のもと行うとともに、腹腔鏡手術を学びたい若手外科医の見学ならびに研修を随時受け付けています。

興味のある方は内視鏡外科 竹村雅至 まで。  
(E-mail: m.takemura@minamiosaka.com)



# 乳腺外科

大阪市乳がん検診にマンモグラフィが導入された当初より大阪市乳がん検診協力施設で中谷は大阪市乳がんマンモグラフィ検診システムの構築実務担当者として活動した履歴がある。

乳がん検診の要精査例や有症状例に対して精査、診断と処置（各種の全身治療や手術療法など）を日本乳癌学会の乳癌診断・治療ガイドラインなどに準拠しながらかつ患者との対話のもとに検討し決定・実施している。

とくに乳腺疾患診断に重要な乳房超音波検査についても B モード画像以外に、エラストグラフィやカラードプラさらには造影乳房超音波検査を施行している。またマンモグラフィは施設画像評価認定を更新しており、これを支える歴代の女性診療放射線技師は全員がマンモグラフィ撮影技術認定『A』である。また乳房造影 MRI も放射線科診断専門医により評価されている。

病変の良悪性診断には超音波検査下の乳腺穿刺術（針生検術やマンモトーム装置）を駆使して検体材料を過不足なく入手する努力をしている。これにより正確な病理組織診断を確立するようにしているが、病理診断科のご協力のたまものである。

化学療法やホルモン療法についても我が国で施行可能な薬剤については早期に導入し使用できるようにしているほか緩和医療も提供している。

乳房手術としてセンチネルリンパ節や乳房部分切除術の際には術中迅速病理検査が可能である。乳房切除術はもとより乳房部分切除術には乳房外観を損なわないように皮切線の位置や長さに配慮し安全性と乳房美容のバランスに配慮して oncoplastic surgery technique を用いている。

2014 年 1 月より新マンモグラフィ装置（flat panel 方式）が導入され以後、モニター診断を行っている。新装置ではマンモトーム生検に対応したほかデンスブレストに対応するトモシンセシス画像が撮影可能で CAD（computer aided diagnosis）も使用可能である。



## 医師

<b>中谷 守一</b> Syuichi Nakatani		院長代理	
卒業校	大阪市立大学、大阪市立大学大学院		
専門分野	乳腺疾患とくに乳がん (マンモグラフィ診断・超音波診断・手術療法・薬物療法など)		
資格・所属	日本外科学会専門医/指導医 日本超音波医学会専門医/指導医 日本乳癌学会認定医/専門医/指導医 日本化学療法学会評議員 日本臨床外科学会評議員 ICD 制度協議会 ICD 認定 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医 日本がん治療認定医機構 暫定教育医 マンモグラフィ読影資格『A』認定 第 12 回乳房超音波講習会受講済 (試験成績：動画像感度 100% 特異度 96% 静止画像感度 100% 特異度 86% カテゴリー感度 70%) 医学博士 (2008 年 4 月入職)		

<b>荻澤 佳奈</b> Kana Ogisawa		乳腺外科医員	
卒業校	金沢医科大学、大阪市立大学大学院		
専門分野	乳腺外科		
資格・所属	日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医/専門医 がん治療認定医 医学博士 (2019 年 5 月入職)		

<b>原田 知明</b> Tomoaki Harada		非常勤医師	
卒業校	大阪医科大学		
専門分野	乳腺外科		
資格・所属	日本外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本乳癌学会専門医 マンモグラフィ読影資格『A』認定 医学博士 (2007 年 11 月入職、2014 年 3 月退職)		

<b>野原 丈裕</b> Takehiro Nohara		非常勤医師	
卒業校	大阪医科大学		
専門分野	乳腺外科		
資格・所属	のはらクリニック院長 (京都市西京区) (元大阪医科大学一般消化系外科講師、 乳腺専門医/指導医)		

## 施設認定

- 日本乳癌学会認定修練施設
- 日本超音波医学会認定修練施設

## 診療実績

悪性腫瘍手術	計 55 例
乳房部分切除術	1 例
乳房部分切除術 + センチネルリンパ節生検術	15 例
乳房部分切除術 + センチネルリンパ節 術中 転移陽性で腋窩郭清術追加	1 例
乳房部分切除術 + 腋窩郭清術	1 例
乳房切除術	2 例
乳房切除術 + センチネルリンパ節生検術	20 例*
乳房切除術 + センチネルリンパ節 術中転 移陽性で腋窩郭清術追加	5 例
乳房切除術 + 腋窩郭清術	6 例
乳房切除術 + 腋窩郭清術 + 大胸筋 + 小胸筋	0 例
その他	4 例
他	51 例
CV ポート関連手術	39 例
腫瘍切除術	12 例
区域乳腺腺葉切除術	0 例

\*広背筋皮弁術による一期的乳房再建術 1 例を含む

## 【症例検討会など】

### ○乳房画像検討会

毎週火曜日 午前 8:15

(参加：乳腺外科医師、診療放射線技師、超音波検査技師など)

### ○乳腺疾患臨床カンファレンス

毎週木曜日 午前 9:00

(参加：医師)

### ○breast cancer board

毎月第 2 月曜日および第 3 火曜日 17:00

(参加：乳腺外科医師、放射線診断専門医、病理専門医、  
診療放射線技師、臨床検査技師、看護師、薬剤師、栄養士、  
リハビリテーション担当職、事務職など)

### ○手術症例検討 (共催：消化器外科)

毎週金曜日 午前 8:15

## 学術業績

### 【学会発表】

#### ○乳房部分切除術と左腋窩センチネルリンパ節生検術後 36 日目に発症した乳び漏の一例

中谷守一、野原丈裕、荻澤佳奈、原田知明、  
柴田利彦、藤尾長久、飛田忠之、竹村雅至、  
田中芳憲、大嶋 勉、刑部 憲、瀧井麻美子、  
嶋田泰尚、小林庸次

第 28 回日本乳癌学会学術総会  
2020 年 10 月 1 日

#### ○特徴的な画像所見を示した乳腺 myofibroblastoma の 1 例

原田知明、荻澤佳奈、中谷守一

第 28 回日本乳癌学会学術総会  
2020 年 10 月 1 日

#### ○良性石灰化の経過観察中に発見された早期中間期乳癌の 1 例

野原丈裕、中谷守一、荻澤佳奈、小林庸次

第 28 回日本乳癌学会学術総会  
2020 年 10 月 1 日

#### ○乳腺嚢胞腺癌の 1 例

荻澤佳奈、原田知明、野原丈裕、瀧井麻美子、  
山田英子、小林庸次、中谷守一

第 28 回日本乳癌学会学術総会  
2020 年 10 月 1 日

#### ○乳頭周囲円筒状リングによる乳房超音波検査撮像の工夫と乳頭内乳管内乳頭腫の一例

中谷守一、荻澤佳奈、原田知明、野原丈裕、  
藤尾長久、飛田忠之、柴田利彦、小林庸次

日本超音波医学会第 29 回学術集会  
2020 年 12 月 2 日

## 今後の展望

効率的な外来運営と病診連携の充実、後継者の育成。

文責：中谷守一

# 泌尿器科

泌尿器科は竹垣、鎌田、壁井の常勤医 3 人体制で診療を行っています。

・腎癌および腎盂・尿管癌に対しては、ほとんどの手術症例に対し腹腔鏡手術を行っています。表在性膀胱癌に対しては経尿道的膀胱腫瘍切除術（低侵襲な TURis システム）を行い、筋層浸潤性膀胱癌に対しては膀胱全摘除術および尿路変向術を行っています。転移をとまう進行した尿路上皮癌に対しては化学療法を併用した集学的治療を行っています。

・前立腺癌に対しては前立腺全摘除術、ホルモン療法および化学療法を行っています。なお、PSA 高値で受診された患者さんに対しては、前立腺 MRI で癌を疑う所見の有無、部位を確認後に前立腺生検を行います。前立腺生検は局所麻酔でも行えますが、できるだけ患者さんに苦痛を与えないように、全身麻酔あるいは腰椎麻酔にて無痛で前立腺生検を行う体制をとっております。

・尿路結石症に対しては体外式衝撃波結石破碎術（ESWL）と経尿道的結石破碎術（TUL）を結石の部位、大きさにより適応を決めています。なお、8mm 以上の結石は自然排石率が 50% 以下と低いいため、当院では 8mm 以上の結石に対しては積極的に結石破碎術をお勧めしています。ESWL では治療成績が落ちる 1cm 以上の大きな尿管結石や中・下部尿管結石に対しては TUL を第一選択とし、また 1cm 以上の大きな腎結石に対しては軟性腎盂尿管ファイバーとホルミウム・ヤグレーザーを用いた flexible TUL (f-TUL) を積極的に行い、確実に結石を破碎・抽石し、治療成績を向上させるよう取り組んでいます。

特に軟性腎盂尿管ファイバーは画像の解像度に優れたデジタルスコープ（OLYMPUS 社製 URF-V3）を使用しており、さらにリユースタイプの軟性腎盂尿管ファイバーでは対応困難な結石に対しては最新のシングルユースタイプの軟性腎盂尿管ファイバー（OTU 社製 WiScope）を導入しています。WiScope は軽量・高画質でさらに先端が細径で湾曲角度も大きく、下腎杯の結石や大きな腎結石を破碎する際に有用で、通常の TUL では治療困難な 15mm 以上の腎結石でも治療できることがあります。

TUL は合併症の少ない低侵襲な治療ですが、注意を要する合併症として尿路感染による発熱（腎盂腎炎、敗血症）があります。原因として灌流液による腎盂内圧の上昇が関連しているため、当院では圧コントロールされた送水により腎盂内圧を一定に保ちながら破碎できる最新の装置（STORTZ 社製 エンドマット SELECT）を導入し、術後合併症をさらに減少させるよう取り組んでいます。

## 医師

### 竹垣 嘉訓

Yoshinori Takegaki

泌尿器科部長

卒業校	大阪市立大学医学部
専門分野	一般泌尿器科、尿路悪性腫瘍、腹腔鏡手術、尿路結石症
資格・所属	日本泌尿器科学会専門医/指導医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 日本透析医学会 身体障害者指定医（膀胱・直腸機能障害）

### 鎌田 良子

Yoshiko Kamada

泌尿器科医員

卒業校	兵庫医科大学
専門分野	一般泌尿器科、尿路悪性腫瘍、尿路結石症
資格・所属	日本泌尿器科学会専門医 日本泌尿器内視鏡学会 日本尿路結石症学会

### 壁井 和也

Kazuya Kabei

泌尿器科医員

卒業校	大阪市立大学医学部
専門分野	一般泌尿器、内視鏡、腹腔鏡 腎不全、腎移植
資格・所属	日本泌尿器科学会専門医/指導医 日本泌尿器内視鏡学会 日本透析医学会専門医 日本臨床腎移植学会認定医



### 岩井 友明

Tomoaki Iwai

非常勤医師

大阪市立大学医学部附属病院

### 鶴島 宏祐

Kosuke Tsurushima

非常勤医師

石切生喜病院



## 診療実績

### 手術件数

総手術件数（前立腺生検含む）	506例
ESWL（体外式衝撃波結石破砕術）	31例

### 主な手術

腹腔鏡手術	計 24 例
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	10 例
腹腔鏡下腎摘除術	8 例
腹腔鏡下膀胱全摘除術+回腸導管	2 例
腹腔鏡下尿管膜摘除術	2 例
腹腔鏡下腎部分切除術	1 例
腹腔鏡下副腎腫瘍摘除術	1 例

開腹手術	計 7 例
前立腺全摘除術	3 例
経腹的腎摘除術	1 例
膀胱全摘除術+回腸導管（骨盤内全摘）	1 例
膀胱全摘除術+尿管皮膚瘻（骨盤内全摘）	1 例
膀胱切石術	1 例

経尿道的手術（尿管ステント留置含む）	計 331 例
尿管ステント留置、交換	106 例
経尿道的膀胱腫瘍切除術 TUR-BT	90 例
経尿道的結石破砕術 TUL（r-TUL、f-TUL、レーザー使用）	71 例
経尿道的前立腺切除術 TUR-P	23 例
経尿道的膀胱碎石術	18 例
尿管鏡、尿管鏡下生検	13 例
経尿道的内尿道切開術	5 例
経尿道的凝固止血術	4 例
経尿道的尿管バルン拡張術	1 例

その他	計 44 例
コンジローム焼灼術	18 例
腎瘻造設・拡張術	12 例
包茎手術	7 例
高位精巣摘除術（精巣悪性腫瘍）	2 例
陰茎・陰嚢腫瘍摘出術	2 例
精巣捻転修復術	1 例
陰嚢水腫根治術	1 例
除鞣術（去勢目的）	1 例

### 主な生検

前立腺生検	100 例
-------	-------

## 学術業績

### 【学会発表】

#### 【壁井 和也】

○新規腎性貧血治療薬 Roxadustat の腎線維化に対する効果

第 53 回日本臨床腎移植学会  
2020 年 2 月 19 日 東京

○新規腎性貧血治療薬 Roxadustat 高用量が腎線維化に与える影響～マウス片側尿管結紮モデルの検討～

第 65 回日本透析医学会  
2020 年 11 月 2 日 大阪

○Effect of orally novel drug for renal anemia, Roxadustat on renal fibrogenic potential in mouse unilateral ureteral obstruction model

第 72 回西日本泌尿器科学会総会  
2020 年 11 月 7 日 沖縄

○WiScope シングルユースデジタル軟性腎盂尿管鏡を用いた f-TUL の初期経験

第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会  
2020 年 11 月 19 日 岡山

○腎性貧血治療薬 Roxadustat の腎線維化に対する効果の検討

第 108 回日本泌尿器科学会総会  
2020 年 12 月 23 日 神戸

## 今後の展望

手術件数は年々増加しており、特に経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）と経尿道的結石破砕術（TUL）の増加が著しい。特に TUL は内視鏡およびビデオシステムの性能の向上、そして新たな有用なデバイス（カテーテル類）の開発が目覚ましく、当院ではそれらの最新の手術器具を積極的に導入することにより、さらに治療成績を向上させるよう取り組んでいる。また経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）および経尿道的前立腺切除術（TUR-P）に用いるレゼクトスコープシステムは、高周波電流を常に適切に自動制御し、組織の切り始めがスムーズで、組織や人体に及ぼす侵襲が少なく、さらに止血能に優れたシステム（STORTZ 社製 AUTOCON III400）を 2020 年 10 月から導入した。

今後も引き続き、質の高い低侵襲で安全な治療を迅速に提供できるよう心がけ、地域医療に貢献できるよう努力して行きたいと思っております。

# 胸部外科

当科は現在常勤医 1 名、非常勤医 2 名の体制で診療を行っています。

おもに呼吸器外科疾患の診療を行っていますが、近年は高齢化とともに肺がんの増加は著しく、令和 2 年は約 50 例の肺がんの治療を行っています。肺がんの診断としては気管支鏡検査や胸腔鏡下生検がありますが、腫瘍のサイズや部位により診断困難な場合には CT ガイド下生検を行い診断率の向上に努めています。

当科では早期の肺がんに対しては胸腔鏡下手術、リンパ節郭清を行う場合は開胸手術を行い、手術法も患者さんの日常生活能力や肺機能に応じて肺葉切除術、肺区域切除術、肺部分切除術などを選択し患者さんの病態にあった最適な手術を行うように心がけています。

手術が困難な場合には進歩の著しい抗がん剤による化学療法（分子標的薬など）や放射線治療を用いた集学的治療を行っています。さらに最近は新たな治療法として免疫療法も積極的に行っています。

また転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、膿胸などの手術や肋骨骨折に伴う外傷性血気胸に対する胸腔ドレナージなども行っています。

自然気胸も多く治療しており、胸腔ドレナージや胸腔鏡下手術を行い良好な結果を得ています。

その他、末梢血管外科手術やペースメーカー植込み術も行っています。

## 診療実績

全入院患者数	173 人
全手術症例数	73 例

## 主な手術

肺がん：肺葉切除術	17 例
肺がん：肺区域切除術	3 例
肺がん：胸腔鏡下肺部分切除術	4 例
転移性肺腫瘍：肺区域切除術	2 例
転移性肺腫瘍：肺部分切除術	4 例
転移性肺腫瘍：胸腔鏡下部分切除術	4 例
自然気胸：胸腔鏡下肺嚢胞切除術	5 例
縦隔腫瘍：胸腔鏡下切除術	1 例
肺良性腫瘍：胸腔鏡下部分切除術	2 例
ペースメーカー植込み術	17 例
ペースメーカー交換術	9 例
抗悪性腫瘍剤注入用ポート作成	8 例

## 医師

**柿本 祥太郎**  
Syotaro Kakimoto

理事長

卒業校 大阪医科大学  
専門分野 呼吸器外科、ペースメーカー  
資格・所属 日本外科学会専門医/指導医  
日本胸部外科学会指導医  
日本循環器学会専門医



**森田 雅文**  
Masafumi Morita

非常勤医

卒業校 大阪医科大学  
専門分野 心臓、血管疾患全般  
資格・所属 日本血管外科専門医  
ステントグラフト胸部指導医  
ステントグラフト腹部指導医  
下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医

**月岡 卓馬**  
Takuma Tsukioka

非常勤医

卒業校 大阪市立大学医学部  
専門分野 呼吸器外科  
資格・所属 日本外科学会専門医  
呼吸器外科学会外科学会評議員  
日本呼吸器外科専門医  
日本呼吸器内視鏡学会医

## 今後の展望

常勤医の確保をはかり診療体制を充実させたい。

文責：柿本祥太郎

# 整形外科

## 医師

**大坂 芳明**  
Yoshiaki Osaka

副理事長  
副院長  
整形外科部長



卒業校 大阪医科大学  
専門分野 リウマチ外科、手外科、人工関節  
資格・所属 日本整形外科学会専門医/リウマチ認定医/  
脊椎脊髄病認定医  
日本手外科学会  
日本骨折治療学会  
中部日本整形外科災害外科学会  
日本環境感染学会 (I.C.D)

**森川 潤一**  
Jyunichi Morikawa

整形外科部長

卒業校 大阪医科大学  
専門分野 足の外科、骨粗鬆症  
資格・所属 日本整形外科学会専門医/リウマチ認定医  
日本リウマチ学会専門医

**北原 義大**  
Yoshihiro Kitahara

医長



卒業校 大阪医科大学  
専門分野 脊椎外科  
資格・所属 日本整形外科学会専門医/脊椎脊髄病認定医  
日本脊椎脊髄病学会

**高島 雅俊**  
Masatoshi Takashima

研修医 (3月末退職)

**清水 博之**  
Hiroyuki Shimizu

研修医 (4月着任)

## 施設認定

- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本リウマチ学会認定教育施設

## 専門分野

- リウマチ外科 (大坂、森川 担当)
- 手外科 (大坂 担当)
- 足の外科 (森川 担当)
- 脊椎外科 (北原 担当)
- 人工関節 (大坂 担当)
- その他外傷外科

## 診療実績

年間新入院患者数	569人
1日平均入院患者数	32.9人
年間新外来患者数	2,277人
1日平均外来患者数	54人
総手術症例数	446例

## 主な手術

骨接合術 (上肢)	87例
骨接合術 (大腿骨近位部)	78例
人工関節置換術	41例
骨接合術 (下肢)	32例
脊椎手術	31例
関節形成術 (骨切り術)	7例

## 学術業績

### 【主催研究会】

- 第12回 関節リウマチ治療の最前線  
2020年1月25日 ヴィアール大阪
- 第18回 痛みの臨床フォーラム  
2020年2月1日 大阪新阪急ホテル
- 第14回 大阪南整形外科フォーラム  
2020年2月15日 スイスホテル南海大阪
- 変形性膝関節症を考える会  
2020年6月17日 Webセミナー

## 今後の展望

現在スタッフ4名で、専門分野がそれぞれ違い、ほとんど治療可能となりました。リウマチに関しては認定病院(2010年取得)として、手術や生物学的製剤などを中心とした加療を、内科とも連携して行っている。

大阪医科大学とも連携しており、人工関節(金曜日・中川担当)と脊椎外科(火曜日・大保担当)の専門医がそれぞれ特殊外来、手術を担当している。

脊椎手術、人工股関節や人工膝関節置換術も、院内にある回復期病棟や地域包括ケア病棟と密に連携し、リハビリテーションと一貫した治療を行っている。手術のみでリハビリを他病院でなどという中途半端な治療はしていない。

この数年は、人工関節手術の適応には至らない症例に対しては、骨切り術を積極的に施行している。

また地域の機関病院として各開業医からの紹介患者の受け入れや、外傷も含めた救急治療もあわせて積極的におこなっていきたい。

# 形成外科

10年以上前に大阪市大形成外科医局より原岡剛一医師が医長として赴任して来られたのを礎として、数年間医局から新進気鋭の若手医師たちが派遣され、現市大形成外科教授、元村尚嗣医師が非常勤で支えてくださった時期もありました。

2020年5月から、蔡が部長として入職し、形成外科が再開しました。

今年4月から火曜日ごとに野村麻衣医師が手術支援を主に市大形成外科より非常勤勤務していただいています。時々、元村教授を手術支援にお呼びすることもあります。

## 医師

<b>蔡 顯真</b> Kenshin Sai	形成外科部長	
卒業校	韓国 釜山大学医学部 近畿大学大学院	
専門分野	乳房再建、慢性創傷、難治性潰瘍、 変性疾患（静脈・リンパ管）、外傷	
資格・所属	日本形成外科学会専門医 皮膚腫瘍外科分野指導医 日本熱傷学会、日本乳癌学会 日本頭蓋顎顔面外科学会	

## 当院 形成外科の特色

### 【形成外科とは？】

「組織や臓器を移動、移植することにより、先天的あるいは後天的に欠損、変形した身体部分を修復・再建し、外貌と機能の回復をはかる外科」と言われています。特定の診療臓器はありませんが、「診療範囲は頭から足まで広範囲」であり、「血流を鑑みた組織移動の外科」と言えます。

### 【当科の診療体制】

当院で扱う疾患として、大別すると

#### ①外傷

一般的な創傷治療、新鮮熱傷治療、顔面骨折、顔面組織損傷治療、マイクロサージャリーを用いた手指損傷治療

#### ②腫瘍

良性皮膚腫瘍（母斑・粉瘤など） 皮膚悪性腫瘍（有棘細胞癌や基底細胞癌など）の切除後の再建も

#### ③先天異常疾患

唇裂口蓋裂、小耳症などの耳介変形、先天性眼瞼下垂、臍ヘルニアに対する臍形成、漏斗胸変形など

#### ④整容外科

醜状瘢痕に対する修正術、顔面神経麻痺に対する修正術、後天性眼瞼下垂症に対する眼瞼形成術

#### ⑤再建外科

乳がん術後変形に対する乳房再建術、リンパ廓清術後のリンパ浮腫に対する治療

#### ⑥美容外科

加齢に伴うしみ、しわに対する治療

#### ⑦創傷外科

糖尿病、閉塞性動脈硬化症やうっ滞性静脈炎に起因する難治性足潰瘍または褥瘡に対する治療

#### ⑧そのほか変性疾患

静脈瘤に対する静脈抜去術や高位結紮術、巻き爪と陥入爪に対する治療

が挙げられます。

外傷などによる急性損傷に対しては、当科が水曜日の午前中と金曜日の午前・午後帯は ER 受診や救急のファーストコール医として、初期治療に当たっています。

褥瘡や糖尿病性足潰瘍を代表とする慢性創傷においては、毎週水曜日に褥瘡回診を行い、従来では大切断が免れなかった難治性足潰瘍に対しては、循環器内科・糖尿病内科・透析内科・創傷専門認定看護師・義肢装具士・リハビリスタッフと連携して、「歩行を守る」を目標とした院内チーム医療を実践しています。

整容外科の中でも近年特にニーズが高まっているのが加齢性眼瞼下垂の治療です。当科では挙筋腱膜前転法と眉毛下皮膚切除を基本的術式とし、下垂の重度と患者の希望に合わせて術式を組み合わせ、より患者満足度の高い治療を目指しています。

乳がん術後変形に対しては切除時の同時再建だけでなく、過去に受けられた乳房切除術後の変形に対しても再建を行っております。術式は筋皮弁による乳房再建のみならず、乳房インプラントも対応しております。乳房インプラントを用いた乳房再建は学会からの実施施設認定を得て、保険適用で実施可能となっております。

また、当科では上下肢リンパ浮腫治療にも力を注いでいます。手術は当院で顕微鏡下に、リンパ液輸送機能が保たれているリンパ管を細静脈に吻合し、リンパ液を静脈系に返すリンパ管静脈吻合を行っています。まず行われるべき治療はコメディカルスタッフによる弾性着衣による圧迫やリンパマッサージで、術前術後にそれらを行い、手術療法と併用しています。

リンパ浮腫治療も多職種チーム医療の代表の1つです。

その他、再建手術に対しては、患者さんの様々な背景や要素を形成外科医が考慮して、その方にとって一番適した再建方法を一緒に考え、適切にアドバイスするという、態度で臨んでいます。

## 【当科の特色】

当院は外科のスタッフが 10 人以上も在籍するなど、泌尿器科、整形外科を含め手術症例の多い病院であり、それに対して、当科は「頭からつま先まで外科」として、他科依頼の再建を含め、何でも対応できるように努めています。多様化する疾患に対し、当院の特徴の 1 つである診療各科の横の連携が強いことを生かし、多専門的アプローチを可能としています。

## 診療実績

### 【手術件数】

※2020年5月～12月

全身麻酔	81例
局所麻酔	142例

### 手術内容区分

腫瘍	112例
外傷	62例
難治性潰瘍	28例
炎症・変性疾患	15例
先天異常	3例
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	3例

骨折を含めた顔面外傷、悪性を含めた腫瘍症例、また難治性潰瘍手術が多いことが当院当科の手術の特徴です。

## 学術業績

### 【学会発表】

#### 【蔡 顯真】

○チーム医療を再考するきっかけになった 88 歳仙骨部褥瘡患者に対する治療経験

関西形成外科学会学術集会

○リンパ管細静脈吻合(LVA)における蛍光イメージングシステム SPY Portable hand held imager(PHI)の使用経験—8 例から得た知見について—

日本形成外科学会総会

○当施設でのリンパ管静脈吻合患者 25 症例の積み重ねから得た知見について

日本形成外科学会総会

○当院当科での頭皮有毛部腫瘍切除時の一工夫について

日本創傷外科学会

○リンパ管細静脈吻合(LVA)に蛍光イメージングシステム SPY Portable hand held imager(PHI)の使用経験—導入前と比較して—

日本リンパ学会

○エホバの証人患者の頭頂部に生じた有棘細胞癌の 1 例—術前・術後の経過を含めて—

日本皮膚悪性腫瘍学会

### 【講演】

○「形成外科医って、いつ役に立つの？」—総合病院における形成外科の役割とは？—

院内看護部講演

○院外チーム医療における形成外科の役割—慢性創傷を中心に述べて—

製薬会社院外講師勉強会

### 【執筆】

○患者背景に対応した巻き爪と陥入爪に対する 3 段階法—マイルド・中間・シビア法について—

院内誌 もっと南大阪

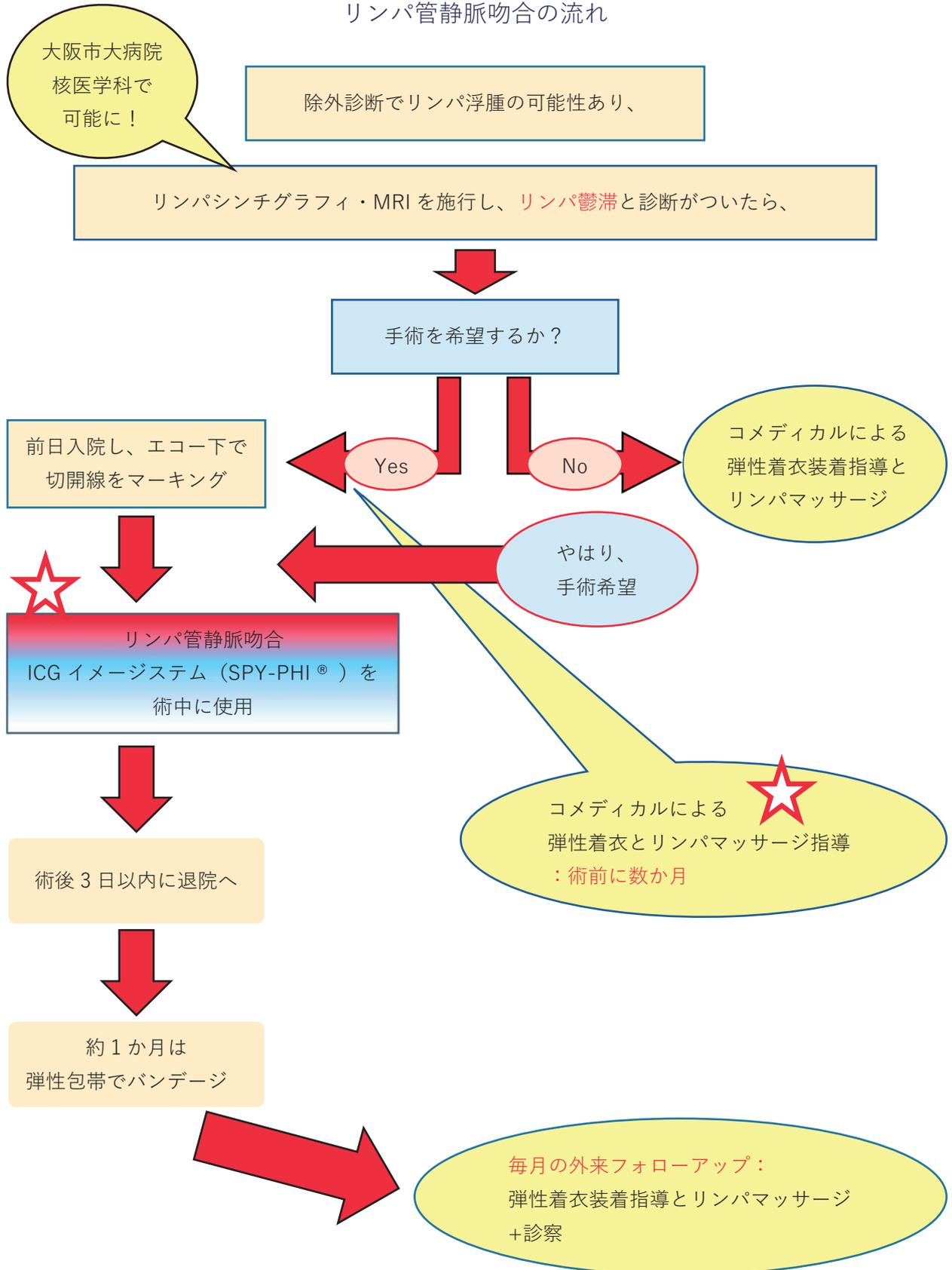
## 今後の展望

当院当科は住之江区の褥瘡・難治性潰瘍治療や外傷治療の拠点として、時間外受診・救急外来診療や周囲病院・施設からの紹介を積極的に受け入れていく方針です。もちろん、術前の患者への分かりやすい手術説明、術中・術後の患者の安全と術後の満足度を第一に考えております。

文責：蔡 顯真



# リンパ管静脈吻合の流れ



★：当院での特徴

# 耳鼻咽喉科

当科は現在常勤医2名と非常勤医2名で診療を行っています。耳鼻咽喉科頭頸部外科全般の診療を行っていますが、癌の治療と中耳・内耳の手術に関しては大学病院等の大きな病院に紹介させていただいています。特殊外来としては、嚥下内視鏡検査外来、補聴器外来を実施しています。アレルギー性鼻炎に関しては、一般外来の中で対応しており舌下免疫療法も行っていきます。

また、身体障害者福祉法第15条第1項指定医がいますので耳鼻咽喉科関係の身体障害に関する医学的意見書の記入ができます。

手術は水曜の午後に行っています。

## 医師

<b>宮田 啓史</b> Hirofumi Miyata	耳鼻咽喉科部長	
卒業校	和歌山県立医科大学	
専門分野	耳鼻咽喉科一般	
資格・所属	日本耳鼻咽喉科学会専門医/補聴器相談医 耳鼻咽喉科臨床学会	

<b>後藤 孝和</b> Takakazu Goto	耳鼻咽喉科医員	
卒業校	和歌山県立医科大学	
専門分野	耳鼻咽喉科一般	
資格・所属	日本耳鼻咽喉科学会専門医/騒音性難聴担当医 厚生労働省音声言語機能等判定医師/補聴器相談医 日本医師会認定産業医	

<b>阪本 浩一</b> Koichi Sakamoto	非常勤医師	日本耳鼻咽喉科学会専門医
---------------------------------	-------	--------------

<b>小杉 祐季</b> Yuki Kosugi	非常勤医師	日本耳鼻咽喉科学会専門医
-----------------------------	-------	--------------

## 診療実績

新型コロナの影響で外来受診者数と手術件数とも減少しました。

### 【手術集計】

#### 全身麻酔

口蓋扁桃摘出術	20名 (40側)
内視鏡下副鼻腔手術 3型 (複数洞)	3名 (4側)
内視鏡下副鼻腔手術 4型 (汎副鼻腔)	1名 (2側)
声帯ポリープ切除術	1名 (1側)
鼻前庭嚢胞摘出術	1名 (1側)
頸嚢胞摘出術	1名 (1側)
頸部リンパ節摘出術	1名 (1側)
合計	28名

#### 局所麻酔

気管切開術	1名
頸部皮下腫瘍摘出術	1名 (1側)
先天性耳瘻管摘出術	1名 (1側)
鼓膜換気チューブ留置術	2名 (3側)
鼓膜切開術	1名 (1側)
鼻骨骨折徒手整復術	1名
皮膚切開術	2名 (2側)
合計	9名

(1名の患者様にいくつかの手術併施例あり)

### 【公開医療講座】

#### ○テーマ【難聴と認知症】

講師：宮田 啓史

南大阪病院 外来棟 1階 多目的ホール

2020年1月25日 14:30~15:30



## 今後の展望

新型コロナの影響で受診患者数が減少した後の回復ができていません。

装備やマンパワー不足は否めないが、早くて正確な診断と侵襲が少なく安全性の高い治療法を選択し地域の要望に応えていきたい。

# 眼科

外来患者数は1日平均30~50人程度で、外来診察は午前診のみで平日は2診で予約制をとっている。午後に視野検査・蛍光眼底造影検査などの特殊検査・レーザー治療等を実施している。第4木曜の午後には非常勤の江富朋彦医師による神経眼科の特殊外来をおこなっていたが2020年2月末で終了しました。偶数月第二木曜午後に非常勤の池田恒彦医師による特殊外来は2021年2月末に終了予定です。手術は白内障手術（主として1泊2日）で病診連携を緊密に行い、手術目的で多くの患者様をご紹介させていただいており、術後は早期にご紹介いただいた先生のもとに帰ってもらうように心がけている。

## 医師

**米本 由美子**

Yumiko Yonemoto

眼科医長

日本眼科学会専門医

**大須賀 翔**

Syou Osuka

非常勤医師

日本眼科学会専門医

**板野 瑞穂**

Mizuho Itano

非常勤医師

日本眼科学会専門医

**澤田 達**

Tatsu Sawada

非常勤医師

日本眼科学会専門医

**小林 崇俊**

Takatoshi Kobayashi

非常勤医師

日本眼科学会専門医

**田尻 健介**

Kensuke Tajiri

非常勤医師(4~12月末)

日本眼科学会専門医

**池田 恒彦**

Tsunehiko Ikeda

非常勤医師

日本眼科学会専門医  
(2021年2月特殊外来終了予定)

**江富 朋彦**

Tomohiko Etomi

非常勤医師(2月末特殊外来終了)

日本眼科学会専門医

**許勢 文誠**

Bunsei Konose

非常勤医師(3月末終了)

日本眼科学会専門医

**松本 希**

Nozomi Matsumoto

非常勤医師(3月末終了)

**石郷岡 岳**

Gaku Ishigouoka

非常勤医師(4月から)

## 施設認定

日本眼科学会専門医制度研修施設

## 診療実績

白内障手術：239件

## 今後の展望

地域の開業医の先生方と十分に連携を取った上で少しでも外来患者数や手術件数を増やしていければと考えている。マンパワー不足で新しいことに挑戦しづらいが、さまざまな症例に対処できるよう精進したいと考えている。

# 皮膚科

## 医師

**清水 奈美**

Nami Shimizu

皮膚科医長

専門分野 皮膚科一般

資格・所属 日本皮膚科学会専門医

**中達 早希**

Saki Nakatsuji

皮膚科医員

(3月1日より復職)

専門分野 皮膚科一般

資格・所属 日本皮膚科学会

**水田 綾**

Aya Mizuta

皮膚科医員

(3月1日より産休中)

専門分野 皮膚科一般

資格・所属 日本皮膚科学会専

## 施設認定

日本皮膚科学会認定研修施設

## 診療実績

年間外来患者数	6,301人
1日平均外来患者数	23.7人
初診	837人
初診率	13.3%
年間入院患者数	64人
手術件数(内、外来手術)	1件

## 今後の展望

外来での診療、処置の円滑化を目指します。また光線療法や生物学的製剤導入の拡充を行います。開業医からの紹介患者を積極的に受け入れ、地域医療に貢献できるよう努力していきたく思います。

# 麻酔科

## 医師

**賀陽 亮太郎**

Ryotaro Kayo

麻酔科部長

専門分野 臨床麻酔

資格・所属 日本麻酔科学会専門医/指導医  
厚生労働省麻酔科標榜医

**吉岡 直紀**

Naoki Yoshioka

麻酔科医長

専門分野 臨床麻酔

資格・所属 日本麻酔科学会専門医/指導医  
厚生労働省麻酔科標榜医

**草野 真悠子**

Mayuko Kusano

麻酔科医員

専門分野 臨床麻酔

資格・所属 日本麻酔科学会専門医  
厚生労働省麻酔科標榜医

**蘆原 知子**

Tomoko Ashihara

麻酔科医員

専門分野 臨床麻酔

資格・所属 日本麻酔科学会専門医  
厚生労働省麻酔科標榜医

**阪下 直美**

Naomi Sakashita

麻酔科医員

専門分野 臨床麻酔

資格・所属 日本麻酔科学会専門医  
厚生労働省麻酔科標榜医

当科は常勤5名、非常勤5名で手術麻酔を行っています。

また常勤医により、術前診察、術後診察を行っています。手術前に麻酔科医が麻酔方法について、患者様にわかりやすいに冊子を用いて説明を行い、十分にお話し合いができるように心がけております。持続硬膜外鎮痛、PCAポンプ、神経ブロックを用いて術後疼痛緩和を積極的に行っています。

## 施設認定

日本麻酔科学会認定施設

## 診療実績

麻酔科管理症例数：1,599例

## 今後の展望

手術数の増加に対応していきたい。

# 放射線科

当院放射線科には常勤診断医 2 名と非常勤医師 3 名が在籍し、放射線技師 17 名、看護師 3 名で日常の業務をこなしている。

CT および MRI についてはすべての検査を院内で診断業務を行い、報告書作成を実施している。CT 検査は年間 1 万件強で MRI 検査は 3,500 件弱である。

CT および MRI は近隣の診療所等からも検査の依頼があり CT は全体の約 5%、MRI は約 25% である。

## 医師

**中島 秀行**

Hideyuki Nakajima

放射線科部長

日本医学放射線学会診断専門医

**境 一光**

Kazuaki Sakai

放射線科副部長

日本医学放射線学会診断専門医

**羽室 雅夫**

Masao Hamuro

非常勤医

日本医学放射線学会診断専門医

**小林 信行**

Nobuyuki Kobayashi

非常勤医

日本医学放射線学会診断専門医

**前田 裕之**

Hiroyuki Maeda

非常勤医



## 検査・対象疾患

CT、MRI、一般撮影、消化管造影検査、肝癌治療 IVR 等の検査治療を当科で実施している。特殊な検査としては虚血性心疾患の診断に利用される冠動脈 CT や頭部 MRI 検査で同時に施行される VS-RAD などがある。

## 主要統計

検査項目	患者様総数	前年比(%)
CT 検査	10,874	+4.8
MRI 検査	3,436	+25.4
MMG 検査	1,081	-14.7
骨塩定量検査	1,081	-2.1
血管造影検査	285	+18.3

## 今後の展望

- HIS・RIS・PACS のオーダーの修正及び各機器との連動の調整
- より一層の地域医療との連携を推進する

3 テスラーMRI (CANON 社製 Vantage Galan 3T 2019 年 4 月稼働開始)



# 病理診断科

病理診断科の業務として、①病理組織診断 ②細胞診 ③病理解剖があるが、小林は病理組織診断、病理解剖の業務を担当し、菊井は主として細胞診業務を、鈴木は細胞診および病理組織診断業務を担当している。

その他の活動としてCPC開催が重視されている。臨床研修医のCPCレポート作成に伴い2020年度は3回CPCが実施され、臨床研修医による症例提示や考察の発表があった。

## 施設認定

- 日本病理学会研修登録施設 (No.5080)
- 日本細胞学会認定施設 (No. 803)

## 診療実績

検査件数は、病理組織診断4,709件(前年比2.5%減)、術中迅速診断96件(前年比14.3%増)、細胞診1,717件(前年比5.9%減)であった。免疫染色の件数は1,369件と著明に増加しているが、コンパニオン診断の増加とともに、HER2やERなどの増加、EGFRなどの遺伝子関連検査が著増している。詳細は別表の通りである。

病理解剖は3例(前年1例)であった。

### 【病理検査・細胞診件数】

科名	病理組織診断	診断のみ ※1	術中迅速病理	病理解剖 ※2	細胞診 ※3	合計
内科	151			1	103	255
消化器内科	3,241	(3)			145	3,386
循環器内科	9				29	38
外科	589	(9)	33	1	80	703
乳腺外科	178	(11)	41	1	259	479
泌尿器科	275		2		976	1,253
胸部外科	61		16		103	180
整形外科	12				1	13
耳鼻咽喉科	41				1	42
皮膚科	33					33
形成外科	110		3			113
総合内科	4				3	7
内科亜急期	4				3	7
内科回復期					1	1
健診センター					13	13
他施設	1		1			2
合計	4,709	(23)	96	3	1,717	6,525

※1 病理診断件数に含む ※2 他施設依頼を含む ※3 迅速細胞診(外科:2件、乳腺外科:1件、泌尿器科:1件)を含む

### 【免疫染色・コンパニオン診断件数】

項目名	免疫染色		分子病理診断		遺伝子関連検査	合計
	酵素抗体	蛍光抗体	IHC検査	ISH検査		
件数	239	4	334	14	123	714

## スタッフ

**小林 庸次**

Yasutsugu Kobayashi

病理診断科顧問

専門分野 診断病理学

資格・所属 日本病理学会専門医/研修指導医

**菊井 正紀**

Masaki Kikuchi

非常勤医

資格・所属 日本病理学会専門医

日本臨床細胞学会専門医

**鈴木 周五**

Syugo Suzuki

非常勤医

資格・所属 日本病理学会専門医

日本臨床細胞学会専門医

## 臨床検査技師

**宇津野 美弥子**

Miyako Utsuno

**山田 映子**

Eiko Yamada

**山戸 雄樹**

Yuuki Yamato

**宮森 慧太**

Keita Miyamori

## 【内訳】

免疫染色 (243 件)			
	酵素抗体	蛍光抗体	合計
院内実施	630 枚	16 枚	646 枚
外部委託	389 枚		389 枚
合計	1,019 枚	16 枚	1,035 枚

分子病理検査件数			
IHC 検査		ISH 検査	
ER	92 件	HER2-FISH	11 件
PgR	85 件	ALK-FISH	3 件
HER2	102 件		
EGFR	1 件		
ALK	19 件		
PD-L1	35 件		
合計	334 件	合計	14 件

遺伝子関連検査件数	
EGFR	25 件
RAS・BRAF	17 件
MSI	58 件
ROS-1	17 件
OncotypeDX	6 件
合計	123 件

## 【免疫染色・遺伝子関連検査件数】

項目名	免疫染色		遺伝子関連検査	合計
	酵素抗体	蛍光抗体		
件数	573	4	137	714

## 【内訳】

免疫染色 (577 件)			
	酵素抗体	蛍光抗体	合計
院内実施	630 枚	16 枚	646 枚
外部委託	723 枚		723 枚
合計	1,353 枚	16 枚	1,369 枚

免疫染色の内訳		遺伝子関連検査件数	
抗体名	件数	項目名	件数
ER	92 件	HER2-FISH	11 件
PgR	85 件	ALK-FISH	3 件
HER2	102 件	EGFR	25 件
EGFR	1 件	RAS・BRAF	17 件
ALK	19 件	MSI	58 件
PD-L1	35 件	ROS-1	17 件
その他	243 件	OncotypeDX	6 件
合計	577 件	合計	137 件

## 学術業績

### 【発表】

○日本小児病理研究会 40 周年記念を迎えて

小林 庸次

第 40 回日本小児病理研究会 記念講演

2020 年 9 月 5 日 神戸

## 今後の展望

2008 年度から「病理診断科」の標榜が認められている。このことは病理診断の重要性の認知という点で大きな前進であると同時に、病理診断科は臨床の一員としてより積極的な機能が求められ、責任もより大きくなっていると考えられる。

新館建設により設備の充実が図られたので、診断機能の充実が望まれる。なかでも精度管理が重視されるが、当科はスタッフも少なく、困難な面も多いが、精度管理のため一部でもダブルチェックを行うなどの努力を行いたい。さらに臨床各科との連携、ことに臨床各科との cancer board などのカンファレンスの開催、充実のため積極的役割を果たしたいと考えている。

# 教育研修センター

医師臨床研修のプログラム管理（協力型臨床研修病院；大阪市立大学医学部附属病院および大阪医科薬科大学病院）を担当しています。診療では総合内科の外来診察を担当し、初期臨床研修医の外来診療研修の指導を行っています。

研修医に対する臨床教育業務内容は、毎週火曜日の早朝講義、毎週金曜日の早朝医学英語勉強会、定期的な教育カンファレンス開催および心身両面での日常的な研修支援、研修評価、研修医へのフィードバックとりまとめなど臨床研修医の育成に深く関与してまいりました。

また看護部教育委員会と提携し看護現場の要望に応じた症例基盤型学習会、フィジカルアセスメント、心電図研修などの研修プログラムを提供しています。2008年以降南大阪看護専門学校1年生に対して複数科目の講義を担当し、次世代の人材育成にも力を入れています。

## 医師

**新藤 光郎**  
Mitsuo Shindo

教育センター長

卒業校 大阪市立大学医学部  
専門分野 医学教育、総合診療  
資格・所属 日本蘇生学会指導医/評議員  
日本救急医学会専門医  
日本内科学会  
日本医学教育学会



## 主要統計

### 【研修医受け入れ実績】（表1）

大阪市立大学協力型（Iコース）

2020年度から一般外来研修対応のため研修募集定員を5名から4名に変更

（2020年は1年目研修医が3月まで5名、4月以降4名が研修）

表1. 初期臨床研修医受け入れ実績（大阪市立大学協力型）

年度	コース	内定者数	研修医数
2006年度	Bコース（定員4）*	4	4
2007年度	Bコース（定員4）*	4	4
2008年度	Bコース（定員3）	3	2
2009年度	Bコース（定員4）	4	4
2010年度	Iコース（定員5）	5	5
2011年度	Iコース（定員5）	5	4
2012年度	Iコース（定員5）	5	5
2013年度	Iコース（定員6）	6	6
2014年度	Iコース（定員6）	4	4
2015年度	Iコース（定員6）	3	3
2016年度	Iコース（定員5）	5	5
2017年度	Iコース（定員5）	5	3
2018年度	Iコース（定員5）	5	5
2019年度	Iコース（定員5）	5	5
2020年度	Iコース（定員4）	4	4
合計		67	63

\*2009年までは2年次研修医の受け入れ枠あり（Aコース）

○出身大学（五十音順）※2006年以降

- ・大阪市立大学医学部
- ・金沢医科大学
- ・関西医科大学
- ・久留米大学
- ・鳥取大学
- ・宮崎医科大学
- ・和歌山医科大学
- ・香川医科大学
- ・川崎医科大学
- ・近畿大学
- ・獨協医科大学
- ・福島県立医科大学
- ・山口大学



## 【主な研修・講義】

### ○研修医早朝講義

2019年度(1月～3月): 火曜日 9回、金曜日 12回  
2020年度(4月～12月): 火曜日 30回、金曜日 34回

### ○初期臨床研修医対象教育(症例)カンファレンス

2019年度(1月～3月): 計6回 開催  
2020年度(7月～12月): 計9回 開催

### ○大阪市立大学医学部 6 回生臨床実習

2020年は新型コロナウイルスのため実習自体が中止

### ○南大阪病院(住之江) ICLS コース

(1 ブース: 受講生 6名)  
第17回 2020年 9月 13日 開催  
第18回 2020年 12月 6日 開催

### ○新規採用職員院内BLS+AED講習会

2020年 9月 12日(看護部)  
2020年 12月 5日(診療支援部)

### ○呼吸腹部フィジカルアセスメントコース

2020年 10月 7日 開催(60分×2回)

### ○看護部心電図研修

2020年 8月 5日 開催(60分×2回)

## 【論文】

### ○経口プレドニゾン治療を行ったリウマチ性多発筋痛症 14 症例の診断および治療経過についての検討

新藤 光郎、森川 潤一、久米田 靖郎  
南大阪病学雑誌 67 巻 1 号 p7-p13, 2020 年 7 月

## 【院外教育活動】

### ○第 17 回大阪市立大学臨床研修指導医養成のためのワークショップ タスクフォース

2020年2月14日・15日 開催

### ○大阪市立総合医療センター臨床研修管理委員会 外部委員

### ○臨床実習入門“バイタルサイン”実習指導 大阪市立大学医学部 4 回生

2020年 9月 17日 開催  
2020年 10月 22日 開催

## 今後の展望

2020 年度から医師臨床研修制度が見直されました。一般外来研修の開始や研修評価法の変更(EPOC2)にしっかり対応し研修医教育を充実させてまいります。ブログ(清心事達-日々の学び in 南大阪病院)や Facebook(南大阪病院教育研修センター)を通じて研修・教育内容に関する積極的な情報発信も継続してまいります。

また院内の医療スタッフ育成のため診察技法やコミュニケーション能力向上の実技教育コースについても看護部教育委員と連携して提供してまいります。

“臨床教育”を通じて院内各部署の交流を促進し、安心安全なチーム医療を実践するための基盤を強化してゆくことが当面の目標です。



# 看護部

地域包括ケアシステムの中核的な役割と使命を自覚し、地域の皆様と社会のニーズに対応できる看護を実践します

## ◆◆ 基本方針 ◆◆

1. 患者様の命の尊厳と人権を尊重します
2. 安全で質の高い看護を実践します

## ◆◆ 目標 ◆◆

1. 説明と納得に基づく患者様中心の看護を実践します
2. 知識と技術を磨き、豊かな人間性を有する看護職を育成します
3. 経営への参画意識を高め、効率的な看護業務を遂行します
4. 職員満足度が高まるよう、職場環境の充実を図ります

## ◆◆ 2020年度看護部目標 ◆◆

1. 看護の質の向上に努めます
2. 経営への参画意識を高め、コスト管理を励行します
3. サービス・接遇力の向上に努めます
4. 他職種協働によるチーム医療を推進します

## スタッフ

**渡邊 美津江**  
Mitsue Watanabe

看護部長

**田原 しのぶ**  
Shinobu Tahara

参与

2020年度の大きな成果は、各部署で倫理カンファレンスを積極的に開催できるようになったことである。さらに ACP について、8月までに各ラダーレベルでの研修を終了し実践している。「意思決定を支える」過程を大切に話し合い、3月には各部署での ACP 実践事例を発表するに至った。

次に、診療報酬ワーキンググループの活動については、現在行っていることを少し見直し診療報酬につなげ、新たにせん妄ハイリスク患者ケア加算を取得した。また、各種加算の記録内容・方法の改善を行った結果、適切な評価で加算件数の増加に繋がった。

病床管理では入院窓口の一元化により、スムーズな入院の受け入れが継続されている。また、入退院支援を強化することで、病棟での業務軽減にも繋がっている。

新キャリア開発ラダーもほぼ定着し、年度末には新たに 30 名を認定した。今後もさらに、人材育成に努め、医療・看護の質の向上に向けて取り組んでいく。

## 看護基準・看護体制・看護方式

	看護基準	看護方式
一般病棟 (6,7,8,9,10,11 階)	10 対 1	固定チーム ナーシング
地域包括ケア病棟 (5 階)	13 対 1 看護師配置加算 看護補助配置加算	固定チーム ナーシング
回復期リハビリテーション病棟 (12 階)	13 対 1	固定チーム ナーシング
HCU	常時 4 対 1	

看護体制：2交代制

## 看護単位

- ・病棟 8 単位
- ・手術室（中央材料室含む）
- ・HCU
- ・外来

## 卒後教育実績

ラダーレベル別研修の充実と PBL（症例基盤型学習）の定期開催。

部署別勉強会を定期開催とし、他部署の勉強会にも参加できる体制を整備している。

- 施設内研修…64件(受講者延べ人数：1,251人)
- 施設外研修…52件(受講者延べ人数：71人)
- 学会発表 ……………5演題
- 院内看護研究発表……14演題
- 保健師助産師看護師実習指導者研修会……1人

## 臨地実習受け入れ

2校：南大阪看護専門学校、大阪医専

文責：渡邊美津江

## 5階病棟(48床)

副師長 内海 千秋

### 【地域包括ケア病棟】

地域包括システムの機能を推進するために、2014年に新設された病棟です。その人らしい生活が送れるようにMSWを中心に多職種と連携し在宅復帰に取り組んでいます。

今年度から、積極的に倫理カンファレンスにも取り組み、そしてその人らしい最期を迎えることができるようにACPも実践しています。

## 6階病棟(50床)

師長 浦田 真由美

### 【消化器センター/乳腺外科】

消化器内・外科、乳腺外科の手術療法、化学療法、内視鏡療法を行っている病棟です。周術期から慢性期そして終末期まで対応し、専門的な知識や技術を発揮し、患者・家族に寄り添い多職種と協働しながらケアを実践しています。

スタッフひとり一人がやりがいをもって働き続けられる職場環境を整えています。

## 7階病棟(50床)

副部長 池永 美智子  
師長

### 【消化器センター/眼科】

上下部内視鏡検査、白内障手術目的の短期入院患者の対応を中心とし、その他消化器外科手術、化学療法、終末期医療にも対応している病棟です。短期入院患者に関してはほとんどがクリニカルパスを適応しています。スタッフ一人ひとりが良好なコミュニケーションをとり情報の共有を図りよりよいケアを提供できるように努めています。

## 8階病棟(51床)

副師長 西森 恭子

### 【内科/耳鼻咽喉科/整形外科/形成外科】

内科・耳鼻咽喉科・形成外科・整形外科の混合病棟です。手術、検査、治療、創傷処置など多岐に渡り、幅広い知識と技術を必要とします。急性期から回復期に至るまでリハビリスタッフを含めた多職種と連携を図りながら患者さん・ご家族が望む退院を目指し、患者さんにご家族に寄り添うことができる質の高い看護の提供に努めています。

## 9階病棟(50床)

師長 松元 直子

### 【整形外科】

整形外科単科の病棟で年間の手術件数は約500件です。特に高齢者の転倒による骨折が多くを占めます。術後リハビリスタッフと連携を強化し早期離床に務めています。そして、退院後の生活(在宅復帰・社会復帰)を見据え、回復期リハビリテーション、地域包括ケア病棟に繋ぐ支援を行っています。

## 10階病棟(49床)

師長 小成 瑞穂

### 【腎・代謝センター/泌尿器科】【入院透析7ベッド】

糖尿病や透析患者に対し完治しない疾患と共に生きていく患者の支援に務めています。

周手術期の泌尿器患者においては苦痛を最小限にし、早期離床を図るなど回復の促進を目的としたケアを実践しています。また、がんの転移や進行、末期腎不全などの疾患により人生の最終段階にある患者に対し、患者の意思を尊重し緩和チームをはじめ多職種と連携しACPを実践しています。

## 11階病棟(51床)

師長 加山 聖泰

### 【循環器科センター/胸部外科】

循環器科・胸部外科を中心とした循環器センターであり、急性期と慢性疾患の急性増悪、肺がん等の周術期患者、ターミナル・緩和の患者を対象とした病棟です。患者さんやご家族の退院後の生活を考え、安全にそして安心して手術や検査、治療が受けられるように、医師や多職種と協働し質の高い看護を提供していきたいと思っております。

## 12階病棟(42床)

副師長 林 さゆり

### 【回復期リハビリテーション】

脳血管疾患・整形外科・廃用症候群など、急性期の治療後に患者さんご家族が安心して生活に戻ることができるように、ADL改善QOL向上を目指し多職種協働で退院支援を行う病棟です。月1回セラピストと合同勉強会を開催や多職種カンファレンスを行い、質の高いリハビリテーション看護の提供に努めています。

## 手術(6室)

副師長 沖野 明美

今年度から形成外科手術が開始となり全10科の診療科が手術を行い2020年度の手術件数は2354件でした。若い看護師からママさん看護師まで幅広い年代が活躍しています。術前・術後は外来、病棟と連携を図り、術中は臨床工学士と協働して安心、安全に手術に望める周手術期看護に努めています。

## HCU(8床)

副師長 藤谷 淳子

外科手術後はもちろんあらゆる診療科の重症度の高い患者さんに対応する部署です。24時間患者の状態をモニタリングし異常の早期発見、合併症の予防に努めています。そして早期回復に向けたケアや状態変化を早期に気づくことのできる能力(知識・技術・観察力・感性)の向上のため日々研鑽しています。

## 外来

師長 永易 ゆり子

### 【13診療科】

「地域の患者様に安全で安心して来院していただける外来」を目標に日々笑顔で取り組んでいます。近年、医療技術の進歩にともない、外来においても高度な治療や侵襲性の高い検査が実施されるようになりました。そのため外来での継続治療や管理が必要となっています。医師・クラークをはじめ多職種と協働し地域住民から信頼される看護サービスを提供できるように努めています。



# 【診療支援部】放射線科

## スタッフ

### 医師

<b>中島 秀行</b> Hideyuki Nakajima	放射線科部長 日本医学放射線学会診断専門医
<b>境 一光</b> Kazuaki Sakai	放射線科副部長 日本医学放射線学会診断専門医
<b>羽室 雅夫</b> Masao Hamuro	非常勤医 日本医学放射線学会診断専門医
<b>小林 信行</b> Nobuyuki Kobayashi	非常勤医 日本医学放射線学会診断専門医

### 放射線技師

<b>高木 晃人</b> Akihito Takagi 放射線科科長	<b>勝部 俊司</b> Syunji Katsube 放射線科主任
<b>小林 義和</b> Yoshikazu Kobayashi 放射線科科長補佐	<b>加藤 茂</b> Shigeru Kato 放射線科主任
<b>島田 好和</b> Yoshikazu Shimada 放射線科主任	<b>山田 正宣</b> Masanobu Yamada 放射線科主任
<b>平岡 一弘</b> Kazuhiro Hiraoka 放射線科主任	他：11名（内 女性7名）

## 認定資格

- 検診マンモグラフィ撮影認定技師…7名  
(A 認定5名 B 認定2名)
- 医用画像精度管理士 ……1名
- 医療情報技師 ……1名
- 胃がんX線検診技師 ……4名
- A i 認定診療放射線技師 ……1名
- 衛生工学衛生管理者 ……1名
- 救急撮影認定技師 ……1名
- 肺がんCT検診認定技師 ……1名

## 取得認定

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 A 認定  
藤岡 萌（2月23日取得）



3テスラーMRI  
(CANON 社製 Vantage Galan 3T 2019年4月稼働開始)

## 診療実績

本院放射線科業務の他、健診センターにて胸部撮影、胃透視撮影、マンモグラフィ検査を担っている。

コロナ禍のため1月～6月にかけて各検査及び健診センターの実績はほぼ減少となった。

2019年12月・2020年7月に計2名退職のため2020年4月に2名入職となった。

MRIに関しては前年に入替工事のため本年と比較し増加となった。

また4月末に1名 育休より復帰となった。

本年より医療放射線安全委員会およびMRI安全管理チームが発足となった。

法定である放射線管理区域境界の漏洩線量測定は毎年6月と12月に実施している。

### ○看護部新入職員研修

- 『X線検査と被ばくの問題』
- 『放射線科安全講習（MRI）』

## 主要統計

【院内】検査項目	患者様総数	前年比(%)
CT検査	10,874	+4.8
MRI検査	3,436	+25.4
MMG検査	1,081	-14.7
骨塩定量検査	1,081	-2.1
血管造影検査	285	+18.3

【健診センター】実施項目	実施件数	前年比(%)
胸部撮影	9,069	-9.1
胃部撮影	5,239	-6.0
マンモグラフィ	1,749	-4.4

※各項目の詳細は後述参照

## 院外活動

日本診療放射線技師学会  
 日本放射線技術学会学術大会  
 日本磁気共鳴医学会大会  
 日本乳癌学会学術総会

## 今後の展望

OHIS・RIS・PACS のオーダーの修正及び各機器との連動の調整  
 ○各認定資格の取得および更新の推進  
 ○当科での世代交代の準備と各員の業務の習得の促進

文責：高木晃人

## 主要統計

### 単純撮影患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	1,233	1,069	1,312	918	872	1,018	1,203	1,299	1,221	1,453	1,257	1,243	14,098
入院	303	296	289	228	238	243	264	272	237	287	274	266	3,197
総数	1,536	1,365	1,601	1,146	1,110	1,261	1,467	1,571	1,458	1,740	1,531	1,509	17,295

### CT 患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	774	749	771	599	670	796	923	873	841	944	776	787	9,503
入院	126	127	93	111	118	122	106	112	99	123	113	121	1,371
総数	900	876	864	710	788	918	1,029	985	940	1,067	889	908	10,874

### MRI 患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	239	258	255	195	193	267	273	265	264	295	275	264	3,043
入院	30	24	27	24	29	42	43	33	26	39	37	39	393
総数	269	282	282	219	222	309	316	298	290	334	312	303	3,436

### 血管造影患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
Angio	4	3	4	6	5	6	4	7	6	9	6	8	68
心カテ	14	18	12	11	11	12	24	19	12	23	32	29	217
総数	18	21	16	17	16	18	28	26	18	32	38	37	285

### MMG 患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
乳腺外来	80	63	63	54	50	74	75	57	75	90	89	86	856
市民検診	10	20	30	6	2	21	24	16	24	21	30	18	222
総数	90	83	93	63	52	95	99	73	99	111	119	104	1,081

### 骨塩定量患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
総数	166	133	184	136	93	159	161	123	171	177	131	159	1,793

### 【健診センター業務件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
胸部撮影	404	558	690	132	38	887	1,040	1,022	1,039	1,225	956	1,078	9,069
胃部(UGI)撮影	240	328	457	49	13	477	554	588	663	791	585	494	5,239
MMG	105	127	181	9	4	148	185	166	193	276	197	158	1,749
頭部 MRI・MRA	10	11	11	3	0	10	8	12	5	19	10	19	118
頭部 CT	0	2	4	0	0	3	2	4	1	3	0	2	21
胸部 CT	2	2	4	1	0	6	6	7	8	3	0	5	44
胸腹部骨盤 CT(※)	2	3	7	0	0	5	2	4	7	4	2	7	43
合計	763	1,031	1,354	194	55	1,536	1,797	1,803	1,916	2,321	1,750	1,763	16,283

(※)内臓脂肪面積計測含

# 【診療支援部】リハビリテーション科

## スタッフ

**山川 智之**  
Tomoyuki Yamakawa

診療支援部部长  
リハビリテーション科科长

**坂口 史紘**  
Fumihiro Sakaguchi

リハビリテーション科科长補佐

**立石 知士**  
Tomohito Tateishi

リハビリテーション科主任

**松原 俊男**  
Toshio Matsubara

リハビリテーション科主任

**新田 雅明**  
Masaaki Nitta

リハビリテーション科主任

**稲川 由里**  
Yuuri Inagawa

リハビリテーション科主任

**中田 直成**  
Naoshige Nakata

リハビリテーション科主任

他 42 名 (内訳)  
理学療法士 …… 31 名  
作業療法士 …… 6 名  
言語聴覚療法 …… 5 名

リハビリテーションクリニック：

事務員 …… 1 名  
クラーク …… 1 名  
アシスタント …… 4 名

育休 …… 2 名

## 認定取得

○3 学会合同呼吸療法認定士 (更新)

吉田 聖生 2019.5.1

○臨床実習指導者講習会修了

立石 知士 2020.10.9

谷岡 幸浩 2020.12.7

中田 直成 2021.1.13

稲川 由里 2021.1.28

○大阪府理学療法士会主催 新人教育プログラム修了

犬丸 紗月 2020.10.31

## 活動内容

○本年は主任体制のもと運営を行った。7.5%の減収入となった。入院患者数が 13.4%の減少となったことが大きな誘因となった。

○心大血管疾患リハビリテーション(I)、脳血管疾患等リハビリテーション(I)、運動器リハビリテーション(I)、呼吸器リハビリテーション(I)、がん患者リハビリテーション料の施設基準のもと、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士のチーム連携に重点をおき多種の疾患治療への質的向上を図った。

○南大阪病院附属リハビリテーションクリニックでは、脳血管疾患等リハビリテーション(II)、運動器リハビリテーション(I)、呼吸器リハビリテーション(I)の施設基準を満たして算定しているが、延べ患者件数は 10.9%と 3 年連続で減少に伴い収入もやはり減少している。

「短時間の所及び通所介護リハビリテーション」の件数実績は、昨年度対比で 48.7%の増加にて医療保険対象患者数の減収を補填することとなった。送迎車は 2 台で運営している。

○4 月より理学療法士部門を PT1~PT5 の 5 班に分け、これに作業療法士(OT)班、言語聴覚士(ST)班を加えた計 8 班での体制を構築した。各班にはそれぞれ班のリーダーと 1 班当り 6 名程度の班員を配置して運営強化および班員の教育体制を再構築した。

○育休での復職が 1 名あり、産休 2 名の産休者があった。PT 班のひとつは、これらの女性の復職などの受け皿として体制づくりを行った。

○BSC に基づいて班体制による運営管理を実施するとともに、テクニカル・リーダー及びサブテクニカル・リーダーの育成及び科員の治療技術向上を図った。

○訪問リハビリテーションは、曜日担当者を 3 人決めその曜日内で交代制を導入し、それを週 5 日計 15 名の理学療法士および作業療法士にて運用を行った。また人員交代できるシステムとすることで、月平均 101.8 件となり実質件数が前年度対比 108.6%となった。今年度をもって人員減少のため訪問リハビリテーション運営を廃止することとした。



## 院外活動

- 大阪市介護認定審査会  
委員（住之江区担当）……………山川智之  
委員（阿倍野区担当）……………泊 伸悟
- 大阪市障害程度区分認定審査会  
委員（阿倍野区担当）/役員………山川智之
- 大阪市地域包括支援センター運営協議会  
委員……………山川智之
- 大阪市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会  
委員……………山川智之
- 大阪市自立支援型ケアマネジメント会議  
坂口史紘、立石知士、松原俊男、吉田聖生

- 公益社団法人 日本理学療法士協会  
代議員……………山川智之
- 公益社団法人 日本理学療法士協会  
学校保健・特別支援教育理学療法部門  
運営幹事……………山川智之  
坂口史紘
- 公益社団法人 大阪府理学療法士会  
監事……………山川智之  
代議員……………坂口史紘
- 公益社団法人 大阪府理学療法士会  
住之江区理学療法士会  
会長……………坂口史紘  
財務担当……………松原俊男  
監事……………山川智之

## 主要統計

### 【リハビリテーション科実績表】

#### 入院

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
心大血管疾患リハビリテーション料(1)	614	789	905	723	780	701	638	694	726	659	605	622	8,456
脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	528	211	176	297	670	1,190	1,155	751	808	994	1,050	1,232	9,062
廃用症候群リハビリテーション料(1)	2,159	2,085	2,358	2,502	2,380	2,484	2,793	526	2,488	2,640	2,487	1,928	28,830
運動器リハビリテーション料(1)	5,904	5,700	5,302	4,573	3,807	3,436	4,580	4,718	4,329	4,062	4,060	4,239	54,710
呼吸器リハビリテーション料(1)	730	587	367	721	513	558	787	794	794	679	724	798	8,052
リハビリテーション総合計画評価料	291	297	301	266	232	257	297	311	281	307	279	293	3,412
初期加算	1,863	1,772	1,669	1,467	1,298	1,738	1,766	1,873	1,438	1,924	1,581	1,498	19,887
早期リハビリテーション加算	3,822	3,693	3,405	3,243	2,555	3,451	3,894	3,332	3,403	3,426	3,586	2,860	40,670
退院時リハビリテーション指導管理料	108	117	138	119	112	104	123	131	131	141	104	130	1,458

#### 外来

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
心大血管疾患リハビリテーション料(1)	48	42	46	38	30	46	34	32	27	36	38	32	449
運動器リハビリテーション料(1)	5	5	5	3	2	4	3	3	4	9	7	1	51

【南大阪病院附属リハビリテーションクリニック実績表】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ	377	378	493	458	385	348	382	369	412	454	403	328	4,787	399
運動器リハビリテーション料Ⅰ	1,561	1,512	1,458	1,218	1,213	1,340	1,256	1,267	1,292	1,506	1,314	1,370	16,307	34
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ	41	38	21	14	13	24	30	49	30	46	37	31	374	31
廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ	123	108	83	54	72	92	99	90	106	128	95	83	1,133	94
目標設定等支援・管理料(初回の場合)	5	8	6	5	6	3	6	5	3	6	2	8	63	5
目標設定等支援・管理料(2回目以降の場合)	1	3	0	2		1	1	1	0	1	2	1	13	1
消炎鎮痛等処置(器具等による療法)	159	169	170	154	145	167	175	173	163	158	130	141	1,904	3
介達牽引	75	86	83	55	63	57	45	60	65	74	56	68	787	66

通所リハビリテーション患者件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
通所リハビリテーション	99	101	102	98	99	109	112	111	104	109	106	108	1,258	105

【訪問リハビリテーション実績表】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
件数	98	91	114	106	84	117	113	102	104	108	101	110	1,248	104

【実習生受け入れ実績表】

理学療法士養成校

	期間	学校名	人数	目的
見学実習	1月 27日(月) ~ 1月 31日(金) 1週間	大阪医専	1	理学療法士の役割を学び、臨床現場での見学、実践を行う
	2月 3日(月) ~ 2月 7日(金) 1週間	大阪医専	1	
	2月 17日(月) ~ 2月 21日(金) 1週間	白鳳短期大学	1	
評価実習 (検査・測定実習を含む)	1月 15日(水) ~ 2月 14日(金) 5週間	名古屋医健スポーツ専門学校	1	評価技術の習得をする
	1月 20日(月) ~ 2月 14日(金) 5週間	関西福祉科学大学	1	
	2月 3日(月) ~ 2月 21日(金) 3週間	宝塚医療大学	1	
	10月 26日(月) ~ 11月 20日(金) 4週間	大阪医専	1	
	11月 2日(月) ~ 11月 20日(金) 3週間	白鳳短期大学	1	
	11月 24日(火) ~ 12月 18日(金) 4週間	大阪医専	1	
	11月 30日(月) ~ 12月 25日(金) 4週間	森ノ宮医療大学	1	
12月 17日(月) ~ 12月 25日(金) 2週間	森ノ宮医療大学	1		
臨床(治療)実習	7月 6日(月) ~ 8月 7日(金) 5週間	白鳳短期大学	1	評価に基づき実際に治療の経験をする
	6月 22日(月) ~ 7月 31日(金) 6週間	清恵会第二医療専門学院	1	
	6月 29日(月) ~ 7月 24日(金) 4週間	大阪医専	1	
	7月 6日(月) ~ 8月 7日(金) 5週間	白鳳短期大学	1	
	8月 31日(月) ~ 10月 22日(金) 8週間	大阪医専	1	

### 作業療法士養成校

	期間	学校名	人数	目的
見学実習	1月 20日(月) ~ 1月 24日(金) 1週間	大阪医専	1	作業療法士の役割を学び、 臨床現場 での見学を行う
	8月 24日(月) ~ 8月 28日(金) 1週間	阪奈中央リハビリテーション専門学校	1	
評価実習	1月 20日(月) ~ 2月 21日(金) 5週間	大阪医療福祉専門学校	1	評価技術の習得をす る
	1月 27日(月) ~ 2月 14日(金) 3週間	阪奈中央リハビリテーション専門学校	1	
	2月 3日(月) ~ 2月 28日(金) 4週間	大阪医専	1	
	11月 24日(月) ~ 12月 18日(金) 4週間	大阪医専	1	
臨床(治療)実習	8月 31日(月) ~ 10月 23日(金) 8週間	大阪医専	1	評価に基づき実際に 治療の経験をする
	9月 14日(月) ~ 11月 20日(金) 10週間	大阪医療福祉専門学校	1	
	9月 14日(月) ~ 11月 20日(金) 10週間	大阪医療福祉専門学校	1	

### 言語聴覚士養成校

	期間	学校名	人数	目的
臨床実習	8月 3日(月) ~ 9月 14日(金) 30日間	白鳳短期大学	1	治療を経験する



# 【診療支援部】臨床検査科

## スタッフ

**小味 智雄**  
Tomoo Komibuchi

臨床検査科顧問

**桑山 和哉**  
Kazuya Kuwayama

臨床検査科科长

**大仲 一善**  
Kazuyoshi Onaka

臨床検査科科長補佐  
担当：採血受付・生理検査・  
病理検査部門

**伊沢 久美子**  
Kumiko Izawa

臨床検査科科長補佐  
担当：検体検査・輸血検査部門

**山口 たか子**  
Takako Yamaguchi

臨床検査科主任  
担当：生理検査部門・  
健診センター部門

**兼田 信子**  
Nobuko Kaneda

臨床検査科主任  
担当：微生物検査部門

臨床検査技師 ……………26名（非常勤含む）

## 認定取得

本年は新型コロナウイルス感染症の影響で認定資格試験がすべて中止となった。

## 院外活動

○公益社団法人 大阪府臨床検査技師会  
理事（組織部・渉外部）……………上地裕美  
事業局情報組織部チーム医療部門  
（糖尿病療養指導部会）委員……………小林知子  
事務局 広報編集部 委員……………上遠野 明

○健康食品管理士  
理事……………上地裕美

## 活動内容

### 【臨床検査技師臨地実習受入】

期間	学校名	人数
6月25日～9月11日	大阪医療技術学園 3年生	2名
9月14日～11月13日	関西医療大学 3回生	2名

## 主要統計

### 輸血検査

（単位：件）

輸血検査	2020年	2019年	前年比
クロスマッチ（単位数）	2,136	2,230	95.8%
輸血実施単位数	1,964	2,119	92.7%
C T比	1.1	1.1	100.0%
F F P / M A P 比	0.12	0.1	200.0%
在庫血液単位数	2,059	2,180	94.4%
廃棄血液単位数	80	60	133.3%
廃棄率（%）	3.9	2.8	139.3%
自己血使用単位	50	41	122.0%
F F P 使用単位	260	134	194.0%
アルブミン 20 使用（本数）	1,062	832	127.6%
アルブミンナー使用（本数）	215	123	174.8%
A L B / M A P 比	2.20	1.5	144.7%

### 微生物検査

（単位：件）

微生物検査	2020年	2019年	前年比
微生物 迅速検査	4,050	5,822	69.6%
微生物 塗抹鏡検	2,050	3,280	62.5%
微生物 一般・抗酸菌塗抹	2,795	3,475	80.4%
微生物 培養	5,904	7,658	77.1%
微生物 感受性検査	2,062	2,389	86.3%
微生物 その他検査	379	330	114.8%
微生物 COVID19 抗原定性	132	—	—
微生物 COVID19 抗原定量	1,193	—	—
微生物 COVID19 PCR 検査	11	—	—

### 病理検査

（単位：件）

病理検査	2020年	2019年	前年比
組織検査	6,082	6,153	98.8%
術中迅速病理診断	95	84	113.1%
他医組織診断	23	15	153.3%
電子顕微鏡検索	0	2	0.0%
免疫抗体法	243	276	88.0%
遺伝子・染色体検査	388	283	137.1%
細胞診	1,695	1,806	93.9%
術中迅速細胞診	4	8	50.0%
他医細胞診断	4	0	—
細胞診枚数	5,495	5,698	96.4%
ブロック数	12,819	12,495	102.6%
病理解剖	3	2	150.0%

## 検体検査

(単位：件)

検体検査	2020年	2019年	前年比
すべての依頼件数	84,888	89,554	94.8%
院内検査依頼件数	82,210	87,878	93.6%
生化学依頼件数	74,560	79,770	93.5%
免疫検査依頼件数	29,712	30,335	97.9%
血液凝固依頼件数	10,725	11,230	95.5%
血液一般依頼件数	69,999	75,206	93.1%
一般検査依頼件数	37,088	48,684	76.2%
尿定性	37,087	40,648	91.2%
尿沈渣	18,487	19,681	93.9%
便潜血	14,139	15,405	91.8%
尿生化学	2,133	3,375	63.2%
尿蛋白_定量	1,100	1,423	77.3%
尿中アルブミン_定量	527	659	80.0%
血液一般(血算)	69,982	74,990	93.3%
血液像(自動法)	31,803	33,197	95.8%
血液像(染色法)	6,686	7,316	91.4%
網赤血球	1,652	1,588	104.0%
出血時間	1,394	1,380	101.0%
P T	8,951	9,605	93.2%
A P T T	5,334	5,724	93.2%
フィブリノーゲン	1,344	1,431	93.9%
A T III	1,260	1,701	74.1%
F D P	1,617	1,304	124.0%
Dダイマー	4,426	4,804	92.1%
総蛋白	59,226	63,555	93.2%
アルブミン	62,284	66,649	93.5%
総ビリルビン	48,989	52,336	93.6%
直接ビリルビン	2,343	2,237	104.7%
C h-E	12,443	12,595	98.8%
総コレステロール	28,567	29,534	96.7%
中性脂肪	36,402	38,383	94.8%
H D L-C	30,158	32,408	93.1%
L D L-C	29,084	31,027	93.7%
アミラーゼ	45,376	47,788	95.0%
P型アミラーゼ	3,392	2,615	129.7%
A S T	68,026	73,154	93.0%
A L T	68,027	73,173	93.0%
L D H	51,610	54,507	94.7%
A L P	41,658	43,239	96.3%
r-G T P	46,214	48,127	96.0%
C P K	54,626	58,302	93.7%
C K-MB	781	941	83.0%
トロポニン I	703	824	85.3%
B N P	6,822	6,880	99.2%
血糖	65,165	69,999	93.1%
H b A 1 c	27,254	29,376	92.8%
グリコアルブミン	1,358	1,447	93.8%

インスリン	336	309	108.7%
尿素窒素(BUN)	62,510	66,887	93.5%
尿酸(UA)	46,889	49,341	95.0%
クレアチニン	69,604	74,429	93.5%
ナトリウム(Na)	55,549	58,515	94.9%
カリウム(K)	55,723	58,821	94.7%
カルシウム(Ca)	49,954	49,725	100.5%
無機リン(IP)	8,257	8,203	100.7%
マグネシウム(Mg)	4,983	3,036	164.1%
血清鉄(Fe)	9,616	9,535	100.8%
U I B C	4,780	4,834	98.9%
フェリチン	4,111	3,849	106.8%
血液ガス	1,294	1,453	89.1%
アンモニア(NH3)	1,844	1,806	102.1%
血沈	1,180	1,382	85.4%
C R P	60,271	64,599	93.3%
プロカルシトニン	2,620	2,398	109.3%
R P Rテスト	3,643	4,059	89.8%
T P L A	3,645	4,062	89.7%
H B s 抗原(定量)	6,951	7,389	94.1%
H B s 抗体(定量)	1,352	1,359	99.5%
H C V 抗体(定量)	5,923	6,343	93.4%
H I V 抗原・抗体	2,077	2,001	103.8%
A F P	3,536	3,868	91.4%
C E A	8,948	9,347	95.7%
C A 1 9 - 9	7,319	7,641	95.8%
P S A	3,761	3,896	96.5%
P I V K A-II	3,126	3,371	92.7%
T S H	3,610	3,627	99.5%
F T 3	2,071	2,199	94.2%
F T 4	3,583	3,595	99.7%
A B O型	2,504	2,450	102.2%
R h (D)	2,504	2,450	102.2%

生化学分析装置 (TBA-2000FR)



生化学・免疫測定装置 (TBA-ci16200)



## 生理機能検査

(単位：件)

生理機能検査	2020年	2019年	前年比
心臓超音波検査	2,352	2,242	104.9%
腹部超音波検査	2,407	2,274	105.8%
甲状腺超音波検査	313	330	94.8%
頸動脈超音波検査	136	164	82.9%
乳腺超音波検査	815	724	112.6%
表在超音波検査	184	97	189.7%
血管超音波検査	1,823	1,620	112.5%
心電図検査	9,196	10,018	91.8%
マスター心電図	193	325	59.4%
トレッドミル検査	41	59	69.5%
心肺運動負荷 (CPX 検査)	4	5	80.0%
ホルター心電図	216	165	130.9%
動脈硬化検査 (CAVI)	836	719	116.3%
肺機能検査 (VC+FVC)	1,547	1,933	80.0%
鼻腔通気度検査	10	36	27.8%
皮膚灌流圧測定 (SPP)	26	9	288.9%
運動神経伝導速度	43	44	97.7%
睡眠時無呼吸検査	48	76	63.2%
簡易睡眠時無呼吸検査	37	29	127.6%
標準純音聴力検査	433	475	91.2%
気道聴力検査	15	33	45.5%
簡易聴力検査 (検診)	32	69	46.4%

## 今後の展望

2020年病院はもちろん臨床検査科にとって新型コロナウイルス感染症の流行は大きな影響を与えた。外来患者数、入院患者数、健診センター受診者が減少した。臨床検査、微生物検査、生理検査、病理検査の検査実施件数は前年度と比較して減少した、それでも検査数が2018年より増えた2019年に比べ全体で95%の検査依頼数減少で収まった。超音波検査の実施数は外来患者数、入院患者数が減ったにもかかわらず、前年に比べ増えた。内訳として心臓、腹部、乳腺、表在、上肢血管超音波が増えた。予約の工夫、各領域の検査のできる技師を増やすことにより、より多くの依頼を受けることができるようになったのが検査増の理由と考える。

2020年は病院の要望にいち早く対応した。行政検査しかできなかった新型コロナウイルス PCR 検査を、委託検査会社に交渉して PCR 検査を委託する体制を整えた。抗原定性検査も早めに対応し、院内 PCR 検査と抗原定量装置の導入を決定した。試薬供給が難しい状況であったため PCR 検査装置よりも先に、抗原定量装置を稼働させた。8月24日から検査開始、9月1日から24時間対応を行った。

その後、PCR 装置も11月24日から運用開始した。抗原定量で検査を行い、判定保留域の検体を PCR 検査する流れを構築し、大きな問題無く運用できている。できるだけ早く臨床側へ検査結果を届けることができた。

今年は2名採用し、1名は検体検査、もう1名は生理検査に配属した。

今年度の資格取得は新型コロナウイルス感染症の影響で認定資格試験がすべて中止となった。2021年は継続して技師のスキルを上げる資格取得、また、検査業務に関連する技能向上を積極的に行い、人材育成に力を注いでいきます。

### 【臨床検査科 BSCの戦略目標】

#### ○顧客の視点

患者・医療スタッフへの信頼度の向上。

#### ○財務の視点

検査収支の改善。

#### ○業務プロセスの視点

業務プロセスの改善。医療の質の向上。

#### ○学習と成長の視点

人材育成。組織の活性化、職員の満足度向上。

### 【臨床検査科 品質方針】

南大阪病院臨床検査科は、病院理念の下、検査の品質を保証し、患者サービスの質の向上を図ることを目的とするため、以下の品質方針を掲げる。

- ①臨床検査科は、検査前プロセスから正確かつ信頼性のある検査結果報告、およびアドバイスサービスまでを確実に実施する。
- ②臨床検査科は、顧客のニーズを把握することに努め、質の高い検査サービスを提供するとともに、ISO15189を遵守することにより日々継続的な改善を実施する。
- ③臨床検査科は、ISO15189の要求事項に適合したサービスを顧客に提供するために品質目標を定め、定期的にレビューを実施する。
- ④臨床検査科職員は、品質方針および品質目標を理解し、品質マニュアルに精通し実行することにより品質を確保する。
- ⑤臨床検査科は、品質マネジメントシステムを通じて、人材の育成、組織の活性化、自ら改革し続ける組織を確立するとともに、そのシステム維持のために、年1回以上マネジメントレビューを実施する。

文責：桑山和哉

# 【診療支援部】栄養科

## スタッフ

**大出 佑美**

Yumi Oide

栄養科科長補佐

**野崎 幸**

Sachi Nozaki

栄養科科長補佐

- ・管理栄養士 ----- 7名
  - 糖尿病療養指導士 .....3名
  - 病態栄養専門管理栄養士 .....1名
  - NST 専門療法士 .....2名
  - 臨床栄養代謝専門療法士(摂食嚥下専門療法士)....1名
- ・栄養士 ----- 1名
- ・栄養士パート --- 1名 (3月末退職)

## 施設認定

- 日本栄養療法推進協議会 「NST 稼働施設」 認定
- 日本臨床栄養代謝学会 「NST 稼働施設」 認定
- 日本臨床栄養代謝学会  
「栄養サポートチーム専門療養士」認定教育施設
- 日本健康・栄養システム学会 臨床栄養師研修施設

## 主要統計

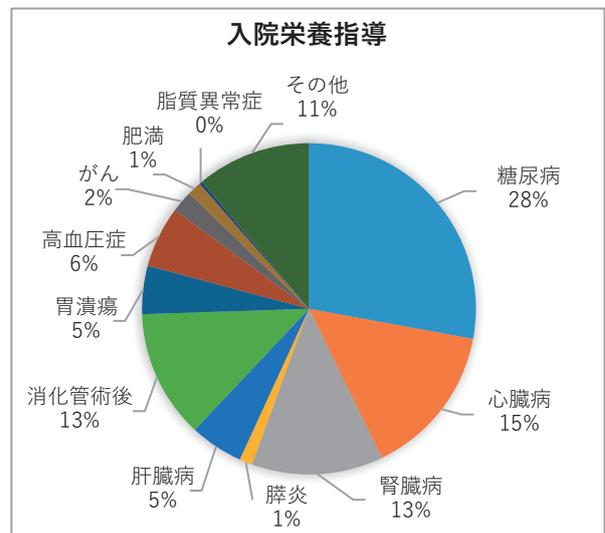
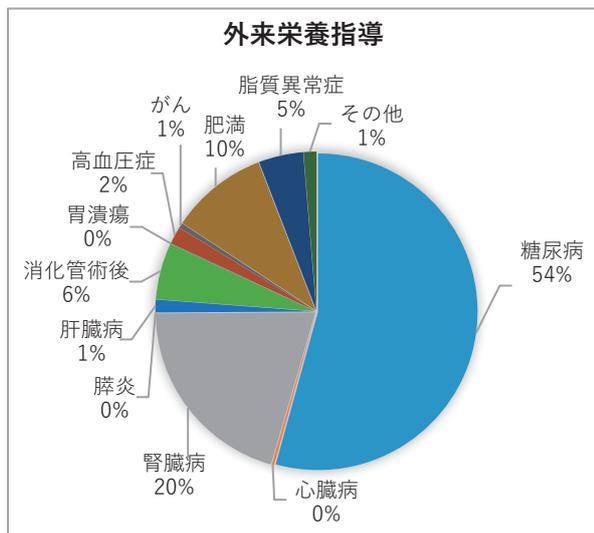
### 【栄養指導実績】

(単位：件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来	163	132	162	129	136	160	158	143	134	157	135	160	1,769	147.4
入院	95	97	94	100	101	86	116	111	88	169	139	140	1,336	111.3
集団	1	2	2	6	2	3	1	1	5	11	3	1	38	3.2
合計	259	231	258	235	239	249	275	255	227	337	277	301	3,143	261.9

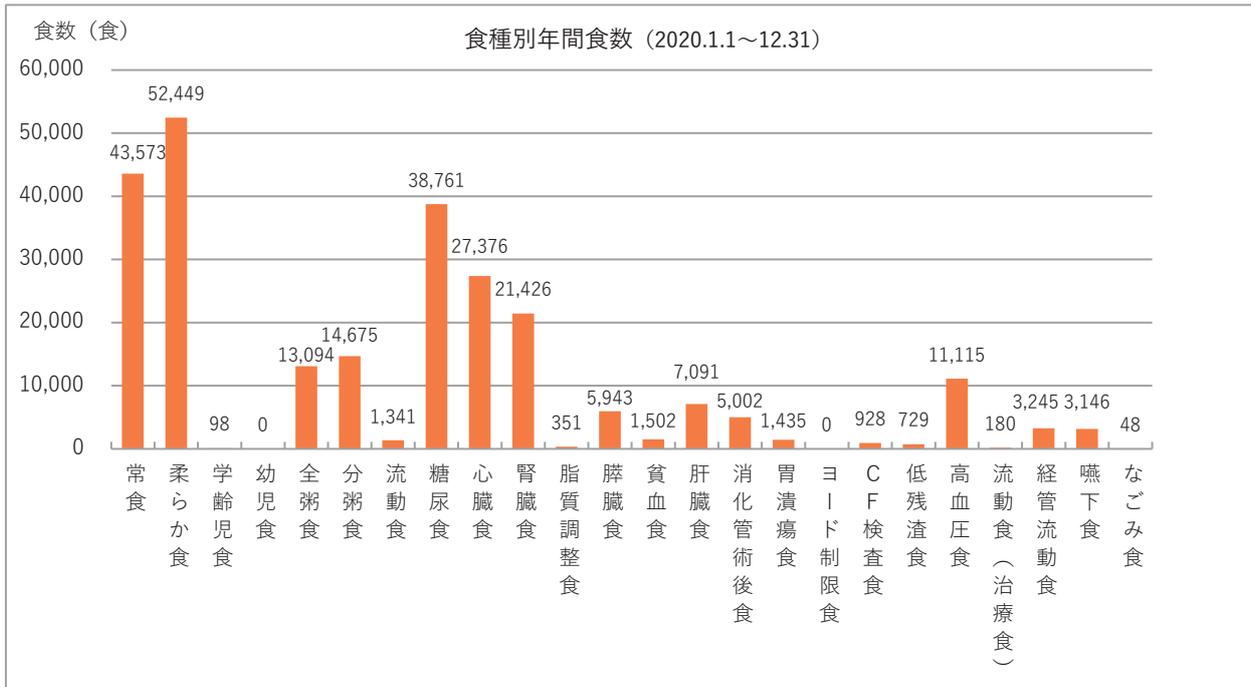
- 南大阪クリニック透析センター (1月～6月まで)
- ・透析患者の栄養指導 (個人) 実施件数：142件

### 病態別栄養指導 (外来/入院)



## 【食種別食数集計】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	1日平均	1食平均
常食	3,706	3,921	3,497	3,005	2,351	3,633	4,269	4,403	4,053	3,498	3,775	3,462	43,573	119	40
他一般食	7,322	7,109	7,899	6,397	6,191	5,573	6,562	7,492	7,401	6,711	6,603	6,397	81,657	224	75
特食(加算)	9,948	9,731	10,288	9,595	8,523	7,812	9,019	9,122	7,704	9,507	9,214	10,081	110,544	303	101
特食(非加算)	1,654	2,022	1,838	1,449	1,182	1,284	1,601	1,182	1,043	1,485	1,340	1,654	17,734	49	16
合計	22,630	22,783	23,522	20,446	18,247	18,302	21,451	22,199	20,201	21,201	20,932	21,594	253,508	695	232



## 【NST 関連実績】

### ①NST 介入件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
介入件数	37	38	63	61	48	69	50	48	82	65	35	56	652
加算件数	26	25	50	43	31	46	35	23	48	46	31	37	441
非加算	11	13	13	18	17	23	15	25	34	19	4	19	211
介入終了	7	10	15	10	9	15	12	6	16	15	12	5	132

### ②過去5年間の推移 (2016年~2020年)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
介入延件数(人)	866	714	657	631	652
介入実件数(人)	170	140	136	126	151
男性(人)	77	56	52	52	56
女性(人)	93	84	84	74	95
平均年齢(歳)	83.3	83.5	83.4	84.1	83.2
介入時Alb値平均(g/dL)	2.3	2.4	2.5	2.4	2.6
平均介入期間(日)	30.3	26.5	29.6	30.1	25.6
目標達成によるNST介入終了件数(人)	52	52	61	50	57

### ③NST 実地修練生受け入れ実績

2020年は受け入れ見送り

### ④NST 主催勉強会

自主勉強会 1月『リハビリテーション科：嚥下と評価』

## 学術業績

### 【セミナー】

○「心不全と糖尿病治療を考える」ディスカッション

松下 晃久

第3回最新の糖尿病治療を考える会

2020年9月10日 大阪

## 今後の展望

2020年は日本人の食事摂取基準が改定され、策定方針では高齢者の低栄養予防・フレイル予防が追加となりたんぱく質の設定量の変更や、食塩相当量の引き下げが行われた。当院の入院患者も高齢化が続いており、食事摂取基準に基づいて約束食事箋規約の見直しを行い、食種及び献立の検討を行った。2021年4月からは給食委託会社も変更となっており、引き続き協力した上で安全を確保し、質を維持した食事提供に努める。

臨床栄養管理においては、栄養サポートチーム、褥瘡予防対策チーム、糖尿病療養指導チーム、緩和ケアチーム、減量手術チームなどのチーム医療において、病態に応じた栄養サポートが求められている。また、診療報酬改定に伴い、管理栄養士の求められる領域も増えつつあり、個々人の資質を高め、多職種とより一層の連携を図り、患者の病態改善に寄与していきたい。

文責：野崎 幸  
大出佑美

## 【2020年 行事食】



1月  
元旦



4月  
お花見弁当



7月  
七夕



9月  
敬老の日

## 【2020年 栄養ひとこと便】

**栄養科からの 栄養ひとこと便 1月号** No.187

毎月、知って得するほっとな情報をお届けします。  
今月のほっとな情報は『おせち料理』についてです。  
元来、季節の変わり目に神様にお供えするための料理をおせち料理と呼んでいましたが、今では1年の内で最も重要でおめでたい正月料理のことを指すようになりました。  
今回は、おせち料理の食材に込められた縁起の良い「いわれ」と、多く含む栄養素について紹介します。

**海老…腰が曲がっている様子から長寿の願いを込めて。赤い色素のアスタキサンチンには強い抗酸化作用があるとされています。**

**ごぼう…地中に深く根を張ることから、一家の土台が安定するようこの願いを込めて。腸内環境を整える不溶性食物繊維と、余分な脂肪やコレステロールの吸収を抑制したり、血糖値の上昇を緩やかにする水溶性食物繊維がともに多く含まれています。**

**黒豆…まめに（健康に）暮らせるようにとの願いを込めて。黒い皮に含まれるアントシアニンは血行の改善や視力の改善に、大豆イソフラボンは更年期障害の緩和や骨の健康維持に役立つとされています。**

**昆布巻き…「喜ぶ」の語呂合わせ。水溶性食物繊維の他に、骨や歯の材料となるカルシウムや、体内の余分な水分を排出する働きのあるカリウムなども多く含まれます。**

おせち料理は、作り置きが出来るように味付けが濃くなっています。南大阪病院 栄養科 特に病態により食事制限のある方は、塩分・糖分の摂取量にご注意下さい。

1月 おせち料理

**栄養科からの 栄養ひとこと便 11月号** No.197

毎月、知って得するほっとな情報をお届けします  
今月のほっとな情報は「銀杏 ぎんなん」のお話です。

銀杏はいちょうの木になる実の中のさらに殻に包まれた胚乳種の部分を食べます。実は黄色いざくらんぼのような形をしています。非常に臭いが強く、果肉は食用になりません。銀杏は翡翠に似た鮮やかな緑色を呈し、和食のあしらひとして欠かせない食材です。

**品種**  
いくつかの品種がありますが、人気があるのは、実が大きい藤九郎（とうくろう）という品種です。

**銀杏中毒にはご注意ください**  
ビタミン B<sub>6</sub>と構造の似た物質を含んでいるため、大量摂取するとビタミン B<sub>6</sub>の働きを阻害して、ビタミン B<sub>6</sub>欠乏となり、まれに痙攣などを引き起こすことがあります。  
「殻の数以上には食べてはいけない」という言い伝えがあるほどで大量摂取しないよう注意が必要です。

**名前の由来**  
殻が銀白色で、実の形が杏の果実に似ているため、銀杏「ぎんなん」となったそうです。

**銀杏の食べ方**  
①金槌で殻を割って、茶封筒などに入れる  
②電子レンジで1分から1分ほど加熱する  
③はじける音がしたら、取り出す  
④殻から取り出して、料理などに利用する  
銀杏は非常に季節感が強く、料理に1粒入っているだけで秋を感じることができます。

▲ 病態により食事制限のある方はご注意ください 南大阪病院 栄養科

11月 銀杏

# 薬剤部

## スタッフ

**梶原 啓伯**  
Hironori Kajiwara

薬剤部部长

**高尾 豊**  
Yutaka Takao

薬剤部科長

**川岸 恵子**  
Keiko Kawagishi

薬剤部科長補佐

**鳥羽 良和**  
Yoshikazu Toba

薬剤部科長補佐

**木下 賢二**  
Kenji Kinoshita

薬剤部主任

他 21 名 (内訳)

薬剤師……………19 名

事務員……………2 名

## 活動内容

調剤業務、医薬品供給管理業務、無菌調剤業務 (T P N・抗癌剤)、医薬品情報提供業務、T D M、薬剤管理指導業務、持参薬管理業務、病棟薬剤業務、治験管理業務などの通常業務以外に各種委員会活動、チーム医療にも積極的に参加し、2020 年 4 月から週 3 回の緩和ケア回診にも同行を開始した。又薬学生長期実務実習受入施設として実習生の受け入れも行っている。

## 学術業績

### 【学会・研究会参加】

- 2 月 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会
- 8 月 緩和・支持・心のケア 合同学術大会 2020
- 9 月 第 68 回日本化学療法学会総会
- 11 月 第 40 回医療情報連合大会

### 【院外活動】

- 一般社団法人 大阪府病院薬剤師会  
代議員 ……………梶原啓伯

## 今後の展望

総合型薬剤師 (ジェネラリスト) と専門・認定薬剤師 (スペシャリスト) の育成を継続的に行い、臨床業務活動のさらなる充実を目指す。

またポリファーマシーへの対応も踏まえ、薬剤総合評価調整加算の算定を検討する。

文責：高尾 豊



## 主要統計

### 院外処方箋発行枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
院外処方箋	6,613	6,078	6,608	6,236	5,466	6,077	6,431	6,415	6,168	6,061	6,027	6,529	6,226	74,709	79,759

### 院内処方箋枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
外来	198	142	104	64	85	66	117	138	139	113	144	118	119	1,428	1,698
入院	3,199	3,002	3,395	2,927	2,543	2,749	3,276	3,116	3,083	3,590	3,188	3,368	3,120	37,436	39,731
合計	3,397	3,144	3,499	2,991	2,628	2,815	3,393	3,254	3,222	3,703	3,332	3,486	3,239	38,864	41,429

### 注射処方箋枚数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
注射処方箋	11,928	11,658	10,347	9,098	9,592	9,571	9,382	10,084	9,653	10,494	9,406	10,555	10,147	121,768	137,557

### 無菌製剤処理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
抗癌剤	135	132	148	149	152	175	209	176	169	187	169	161	164	1,962	1,781
T P N など	136	139	226	66	66	56	84	90	98	95	61	151	106	1,268	1,635

## 薬剤管理指導業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
総件数	540	543	596	498	437	551	550	537	519	585	524	538	535	6,418	6,333
指導料2	227	214	273	221	190	234	269	252	199	254	221	250	234	2,804	2,492
指導料3	313	329	323	277	247	317	281	285	320	331	303	288	301	3,614	3,841
退院時情報指導料	13	11	17	18	23	30	24	26	27	34	38	51	26	312	179
麻薬加算	26	14	18	9	18	19	11	17	19	20	18	23	18	212	203

## 病棟薬剤業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
算定件数	1,370	1,318	1,477	1,022	1,128	1,057	1,131	1,369	1,105	1,287	1,410	1,207	1,240	14,881	17,314

## 持参薬鑑別件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
件数	442	407	461	310	322	354	399	405	367	527	434	440	406	4,868	5,211

## 緩和ケア診療加算 (4月から算定開始)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
算定件数	0	0	0	21	60	86	104	181	139	101	127	161	82	980	—

## 特定抗菌剤使用量

カルバペネム系	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
チエナム点滴用 0.5g	5	4	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	1.9	23	94
メロベン(メロベネム)点滴用 0.5g	332	349	446	431	465	327	70	308	256	287	276	109	304.7	3,656	5,074
フィニボックス点滴静注用	23	21	176	180	205	15	7	0	0	21	0	13	55.1	661	631

MRSA感染症抗生剤	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	累計	前年累計
注射用タゴシッド 200mg	38	31	24	18	10	0	16	9	22	34	26	23	20.9	251	588
点滴静注用バンコマイシン 0.5g	250	153	181	127	86	139	38	84	206	201	264	190	159.9	1,919	3,309
キュービシン 350mg	0	0	3	0	0	0	0	0	2	13	0	3	1.8	21	109
ザイボックス注射液 600mg	13	59	6	0	0	0	0	0	0	8	0	8	7.8	94	64

## 薬物血中濃度モニタリング (TDM)

(単位：件)

薬品名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年累計
ジギタリス	測定	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	解析	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
テオフィリン	測定	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3	2
	解析	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3	2
フェニトイン	測定	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	6
	解析	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
フェノバルビタール	測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	解析	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
バルプロ酸	測定	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5	10
	解析	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
カルバマゼピン	測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
	解析	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ゾニサミド	測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	解析	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バンコマイシン	測定	7	5	8	9	8	10	2	5	8	8	14	11	95	129
	解析	5	5	6	8	4	7	1	5	7	6	13	6	73	108
テイコプラニン	測定	2	2	1	1	1	0	1	1	6	2	2	1	20	35
	解析	1	2	1	0	1	0	1	1	5	1	2	1	16	29
その他	測定	2	2	2	5	2	0	1	1	1	2	3	6	27	30
	解析	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	2	9	13
合計	測定	11	11	13	15	14	10	5	8	16	14	19	18	154	224
	解析	7	9	9	9	6	7	2	8	13	8	17	9	104	171

## 院内麻薬使用状況

薬品名		単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
内服	アブストラル舌下錠 100μg	錠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アブストラル舌下錠 200μg	錠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	MS コンテン 10mg	錠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	MS コンテン 30mg	錠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オキシコドン徐放錠 NX5mg	錠	0	0	14	204	339	343	317	231	133	255	425	423	2,684	0
	オキシコドン徐放錠 NX20mg	錠	0	0	0	46	22	12	35	39	18	51	8	59	290	0
	オキシコドン徐放錠 NX40mg	錠	0	0	0	0	0	0	8	66	56	28	169	0	327	0
	オキシコンチン TR 錠 5mg	錠	402	262	242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	906	3,362
	オキシコンチン TR 錠 20mg	錠	95	113	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	252	829
	オキシコンチン TR 錠 40mg	錠	0	15	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	211
	オプソ内服液 5mg	包	10	13	0	0	4	0	11	0	0	0	0	8	46	231
	オプソ内服液 10mg	包	0	21	29	27	0	0	0	0	0	0	0	11	88	67
	オキノーム散 2.5mg	包	83	61	37	6	107	100	43	29	106	109	43	46	770	397
	オキノーム散 5mg	包	120	80	61	64	94	43	87	92	0	99	39	49	828	800
オキノーム散 10mg	包	0	182	85	40	57	25	75	114	26	74	93	17	788	908	
外用	アンベック坐剤 10mg	個	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	19
	アンベック坐剤 20mg	個	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	フェントステープ 0.5mg	枚	0	0	0	0	0	0	0	0	18	2	4	21	45	0
	フェントステープ 1mg	枚	51	0	15	2	6	3	8	31	66	28	25	18	253	471
	フェントステープ 2mg	枚	26	44	109	58	38	77	23	11	43	5	0	7	441	592
	フェントステープ 6mg	枚	0	0	0	0	12	29	0	0	0	0	4	0	45	40
コカイン塩酸塩	g	0	0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	
注射	モルヒネ塩酸塩注射液 10mg/1mL	アンプル	3	12	2	15	0	1	24	25	22	22	15	12	153	389
	モルヒネ塩酸塩注射液 200mg/5mL	アンプル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オキファスト注 10mg/1mL	アンプル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	351
	オキシコドン注射液 10mg「第一三共」	アンプル	14	17	0	17	30	82	37	132	146	0	302	142	919	91
	フェンタニル注 0.1mg/2mL	アンプル	178	265	212	274	136	172	277	207	240	241	189	251	2,642	6,053
	フェンタニル注 0.5mg/10mL	アンプル	83	77	64	50	43	43	133	77	117	123	86	92	988	595
	ベチジン塩酸塩 50mg/1mL	アンプル	166	208	215	149	134	252	321	309	307	352	327	274	3,014	2,660
	アルチバ静注用 5mg	バイアル	76	122	116	101	89	90	133	119	114	144	114	128	1,346	1,054
	ケタラール静注用 200mg	バイアル	3	3	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	11	47
ケタラール筋注用 500mg	バイアル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

## 治験管理業務

治験受け入れ件数	計 9 件
フェーズⅡ	1 件
フェーズⅢ	8 件
フェーズⅣ	0 件
医薬品の製造販売後調査	0 件

## 長期実務実習受入状況

実習期間	大学名	人数
9月30日～12月15日	姫路獨協大学	1名
	兵庫医療大学	1名



# 臨床工学科

## スタッフ

**野口 浩一**  
Koichi Noguchi

臨床工学科科長  
南大阪クリニック透析センター  
事務長

**橋本 佳典**  
Yoshinori Hashimoto

臨床工学科科長補佐  
医療機器安全管理責任者  
(カテーテル部門)

**儀貝 貴文**  
Takafumi Isogai

臨床工学科科長補佐  
(手術室・HCU 部門)

**安田 栄吉**  
Eikichi Yasuda

臨床工学科科長補佐  
(血液浄化部門)

**岡本 誠一**  
Seiichi Okamoto

臨床工学科主任  
(内視鏡部門)

**安藤 強**  
Tsuyoshi Ando

臨床工学科主任  
(手術室・HCU 部門)

他 17 名

## 業務内容

- 医療機器安全管理
- 血液浄化療法業務
- カテーテル検査・治療業務
- 手術室業務
- 内視鏡センター業務

## 取得認定

認定集中治療関連臨床工学技士 岡本誠一

## 主要統計

### 【医機器（定期・日常）点検施行総件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
輸液ポンプ	186	162	135	124	145	121	120	154	139	187	166	189	1,828
シリンジポンプ	102	125	75	124	83	125	125	141	136	182	152	165	1,535
低圧持続吸引器	9	11	9	1	6	2	7	7	1	5	6	9	73
経腸栄養ポンプ	3	6	5	8	5	8	6	3	7	14	7	11	83
患者モニター	6	14	5	4	9	2	23	46	55	60	54	56	334
人工呼吸器	13	14	10	16	7	8	10	7	7	16	10	9	127
流量計	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
AED	0	0	1	0	0	0	12	1	0	0	1	0	15
PCPS	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
IABP	1	1	1	2	0	2	0	0	2	2	1	1	13
除細動器	6	6	8	8	8	8	8	7	10	8	6	10	93
電子血圧計	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	4	1	9
送信機	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	0	0	8
合計	327	340	250	288	264	279	315	370	359	481	408	452	4,133

## 学術業績

### 【学会・研修会】

#### 院内実績

- 医療機器安全管理責任者研修会

#### 院外実績

- 第 30 回 日本臨床工学会  
2020 年 9 月 29 日～30 日 名古屋国際会議場 開催
- 第 26 回 日本 HDF 医学会  
2020 年 10 月 10 日～11 日 Web 開催

### 【学会等研究発表・講演など】

- 外来透析室新設にあたっての透析通信システム「FutureNetWeb+」の他施設間共有使用について  
上田大地、長野万純、安田栄吉、野口浩一  
第 30 回日本臨床工学会  
2020 年 9 月 29 日～30 日 名古屋国際会議場 開催

## 院外活動

### 【職能団体役員・委員など】

- 一般社団法人 大阪府臨床工学技士会  
選挙管理委員長……………野口浩一  
代議員……………橋本佳典、安田栄吉  
岡本誠一、高田龍也  
学術委員(代謝部門) ……安田栄吉

## 今後の展望

- 医療機器「中央管理」の完全実施
- 各担当業務への人員適正配置
- 血液浄化センターの運営強化
- 心臓カテーテル検査・治療業務部門の確立

### 【血液浄化療法施行数】

#### 入院血液浄化治療実績（10階透析治療室）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
HD	131	116	93	149	122	149	164	162	144	178	121	180	1,709
ECUM	3	1	3	5	7	5	3	4	1	1	2	13	48
合計	134	117	96	154	129	154	167	166	145	179	123	193	1,757

#### 外来維持透析治療実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
透析回数													
透析センター	1295	1284	1285	1295	1254	1242	1321	1240	1284	1331	1239	1305	15,375
外来透析室	271	236	278	310	368	379	395	427	404	432	420	463	4,383
合計	1566	1520	1563	1605	1622	1621	1716	1717	1688	1763	1659	1768	19,758

#### その他の特殊およびHCU等での血液浄化実績

CART	HD	ECUM	CHDF	PMX	PE	病棟HD	GCAP
30	66	16	52	2	0	17	59

### 【カテーテル検査・治療件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
CAG	5	9	3	6	3	10	16	9	3	10	17	14	105
LVG.RHC	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
PCI	8	3	7	3	8	1	3	5	5	11	10	10	74
IVUS	5	2	6	3	8	1	3	3	4	10	9	13	67
テンポラリー	0	3	0	0	1	1	1	2	3	1	2	0	14
下肢造影	0	0	1	2	1	2	0	1	3	0	3	5	18
下肢PTA	0	0	0	0	1	3	2	2	3	5	1	5	22
IABP	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
PM 植込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4
DFR.RFR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	3	11
Wルーメン留置	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
フィルター挿入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
心膜穿刺	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2
合計	18	17	17	14	22	18	27	23	24	41	49	53	323

※緊急カテーテル検査・治療：47件

### 【手術室部門業務件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
PM フォロー	0	3	2	0	0	0	3	2	1	0	0	0	11
セルセーバ	2	5	5	4	0	4	0	5	2	2	4	5	40
RFA	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
PM 植込み	0	3	2	0	0	0	3	2	1	0	0	0	11
PM 交換	2	0	1	1	0	1	0	1	2	0	1	0	9
OP室 清潔介助	21	21	13	12	6	28	37	34	22	23	28	19	265
OP室 間接介助	67	66	73	64	63	63	76	76	100	92	79	89	908
手術医療機器点検	370	390	326	356	370	386	366	326	300	389	390	326	4,006
合計	462	489	422	437	439	467	485	446	428	506	502	439	5,522

### 【内視鏡センター業務施行数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
GIF	442	473	517	270	241	504	601	578	573	709	580	516	6,004
CF	257	289	323	195	128	302	356	346	335	408	370	303	3,612
ERCP (EST)	14	23	12	20	20	33	19	33	20	28	24	18	264
カプセル内視鏡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
合計	713	785	852	485	389	839	977	957	928	1145	974	838	9,882

# 医療安全管理室

## スタッフ

**竹垣 嘉訓**

Yoshinori Takegaki

医療安全管理室室長  
泌尿器科部長・医師

**中谷 守一**

Syuichi Nakatani

医療安全管理室顧問  
院長代理  
乳腺外科・医師

**香西 瑞穂**

Mizuho Kozai

医療安全管理室副室長  
医療安全管理者・看護師

**川岸 恵子**

Keiko Kawagishi

医薬品安全管理者  
薬剤部科長補佐・薬剤師

**橋本 佳典**

Yoshinori Hashimoto

医療機器安全管理者  
臨床工学科科長補佐・臨床工学  
技士

**徳永 雅美**

Masami Tokunaga

医療安全管理室事務員  
医事課課長

## 【連携機関】

医療安全管理委員会

委員長：医療安全管理室室長

事務局：医療安全管理者

委員：医療安全管理室顧問

医薬品安全管理者

医療機器安全管理者

診療用放射線管理責任者

看護部医療安全管理委員会委員

各部門のリスクマネージャー（所属長）

各部門の医療安全推進担当者

計 28 名

その他、各部門の安全推進者による委員会、看護部委員会、ワーキングチーム会がある。

## 業務・活動内容

院内の医療安全文化の醸成、安全で質の高い医療を提供するために職員の支援を目標に活動している。

医療事故発生時のサーベイランスや定期ラウンド、院内の医療安全に関する情報発信、教育活動などを定期的に行い、院内の事例からの改善や標準化にも取り組んでいる。

### 【教育活動】

主な内容	対象	回数
院内医療安全管理研修	全職員	2回
看護部主催研修	看護部	5回
医薬品関連	医療スタッフ	13回
医療機器関連	医療スタッフ	38回
コードホワイト訓練	全職員	1回

### 【主な改善活動】

内容	具体的改善点
誤接続防止対応（神経麻酔分野）	誤接続防止コネクタへの切り替え
院内機器の時刻合わせ	対象のリスト化、定期通知による注意喚起
深部静脈血栓予防	非手術例用評価表の導入、評価対象の見直し
瓶型インスリン不正使用防止対応	ヒューマリンR注使用后瓶（残液）回収
輸液バッグ隔壁開通忘れ防止対策	開通・確認手順の見直し、実施時のアラート導入
感染対策用人工呼吸器の回路変更	人工鼻と閉鎖式吸引チューブを用いた構成に変更
ベッドサイドモニターの使用後点検	電子カルテにベッドサイドモニター点検表を掲載し実施

### 【外部連携】

医療安全地域連携加算

1-1 連携：4 施設・Web 会議実施

1-2 連携：1 施設・前年度の改善提案内容への対応確認

## 今後の展望

2020 年も、医療安全内のみでなく、院内の各委員会や部門と連携し、様々な活動が行われた。2019 年に取り組んだヒヤリ・ハット報告システムの見直しによる報告数の増加もあり、現場からの安全を意識した改善の要望や意見なども多く聞かれるようになった。

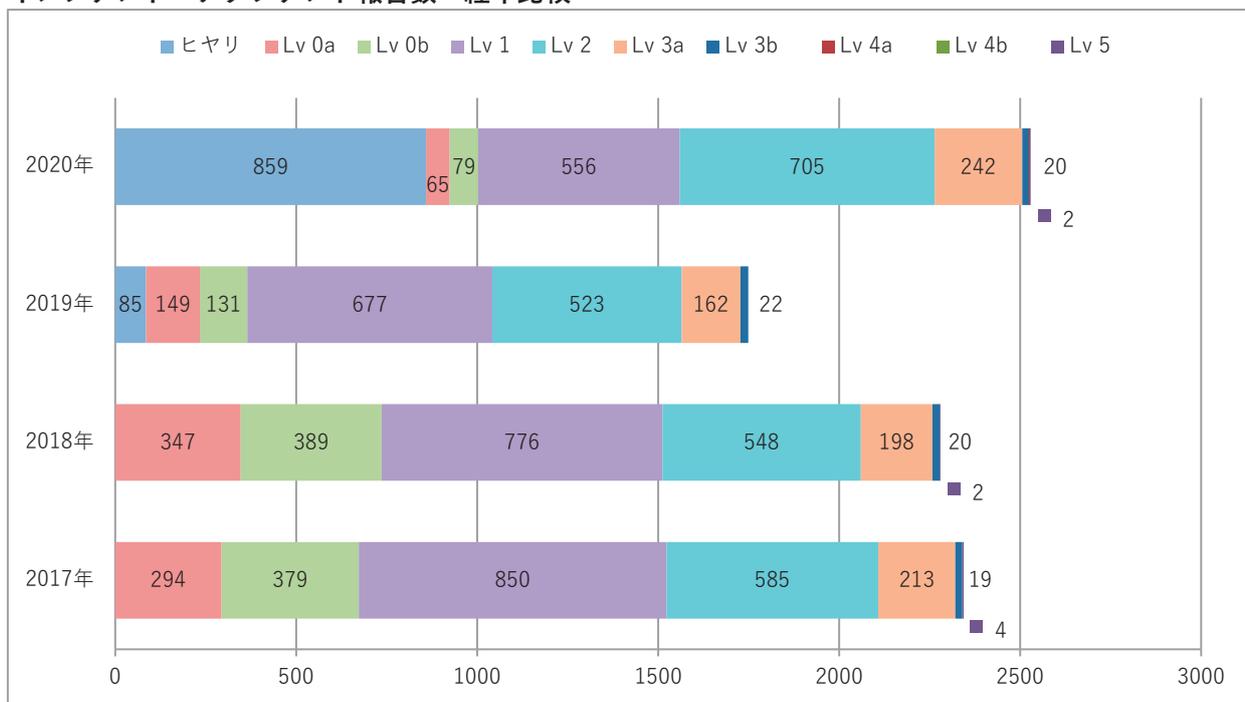
今後も院内連携による医療事故防止活動を通じて、安全で質の高い医療の提供につなげる。

## 主要統計

### インシデント・アクシデント報告内訳

	ヒヤリ	Lv 0a	Lv 0b	Lv 1	Lv 2	Lv 3a	Lv 3b	Lv 4a	Lv 4b	Lv 5	合計	割合
ヒヤリハット	859	0	0	0	0	0	0	0	0	0	859	34%
薬剤	0	19	21	217	362	9	1	0	0	0	629	25%
輸血	0	0	0	6	3	1	0	0	0	0	10	0%
治療・処置	0	3	7	24	13	15	3	2	0	1	68	3%
医療機器等	0	4	7	53	24	1	0	0	0	0	89	4%
ドレーン・チューブ	0	0	2	42	85	142	3	0	0	0	274	11%
検査	0	20	8	33	10	19	0	0	0	0	90	4%
療養上の世話	0	13	29	131	205	54	13	0	0	0	445	18%
その他	0	6	5	50	3	1	0	0	0	1	66	3%
合計	859	65	79	556	705	242	20	2	0	2	2530	100%
割合	34%	3%	3%	22%	28%	10%	1%	0%	0%	0%	100%	

### インシデント・アクシデント報告数 経年比較



# 感染制御室

## スタッフ

**大坂 芳明**  
Yoshiaki Osaka

副理事長  
副院長  
整形外科部長  
感染制御室室長 (ICD)

**夜久 直也**  
Naoya Yaku

感染制御室主任  
感染管理認定看護師

## 活動内容

### 【感染制御室】

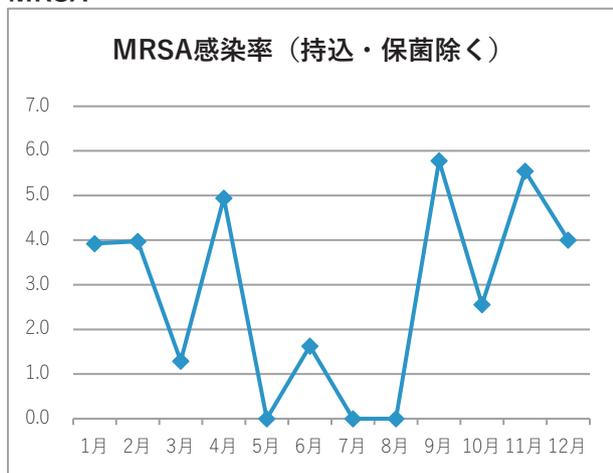
医療関連感染減少に向けた感染管理活動の実施。標準予防策を基準とした感染対策の推進・強化。職業感染対策に関する取り組み等。

### 【委員会】

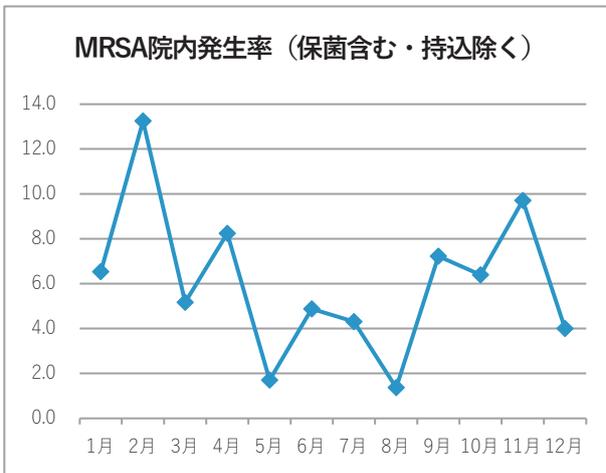
○院内感染予防対策委員会 (ICC) ……1 回/月  
院内感染予防対策に関する審議、サーベイランス結果報告、マニュアル裁定など

## 主要統計

### MRSA



mean=2.80 median=3.24 SD=3.19



mean=6.06 median=5.78 SD=3.19

### その他の感染症 (院内発生件数)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
結核(入院)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2(0)
結核(外来)	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
COVID-19(入院)	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	5(0)
C.difficile(入院)	1(1)	1(1)	0	1(0)	1(1)	1(1)	0	0	2(2)	0	0	1(1)	8(7)
CRE(入院)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3(0)
インフルエンザ(入院)	6(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6(2)

○ICT ラウンド・会議 ……1 回/週

院内感染サーベイランス、各マニュアル作成、アウトブレイク時の対応、抗菌薬適正使用監視、職員教育、リンクナース教育・指導、環境ラウンド・介入など

○リンクナース委員会 ……1 回/月

職場感染予防教育・実行・マニュアル遵守監視・環境清潔保全・手指消毒サーベイランスなど

### 【職員教育】

○新入医師・研修院内感染予防対策講習

講師：大坂 芳明

4月4日 8:30~9:00

○看護部新入職員院内感染予防講習

講師：夜久 直也

4月3日 14:40~16:00

○感染予防対策職員研修：医療機関における感染症の防ぎ方

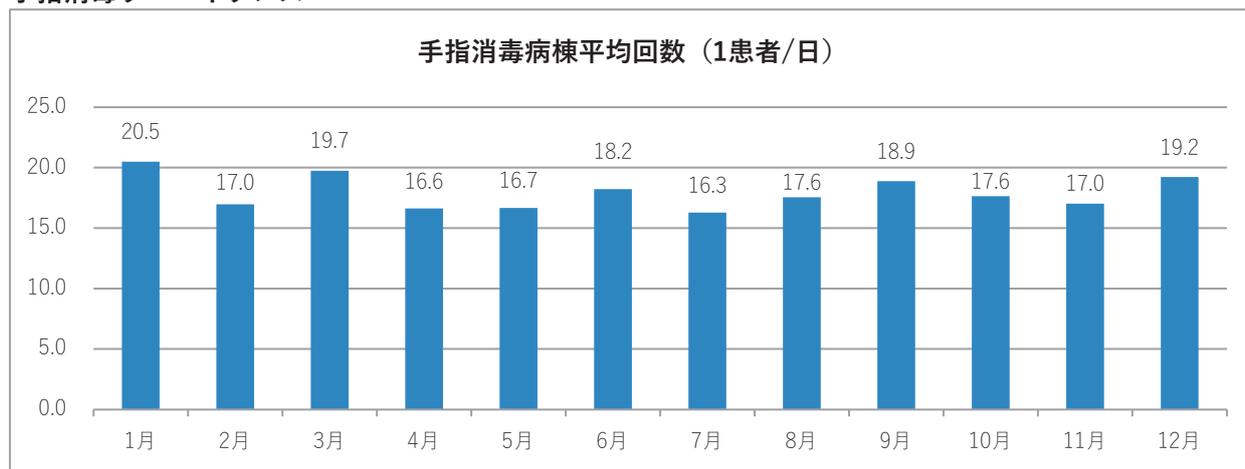
講師：丸石製薬株式会社 和田 拓人 先生

3月9日 17:00~18:00

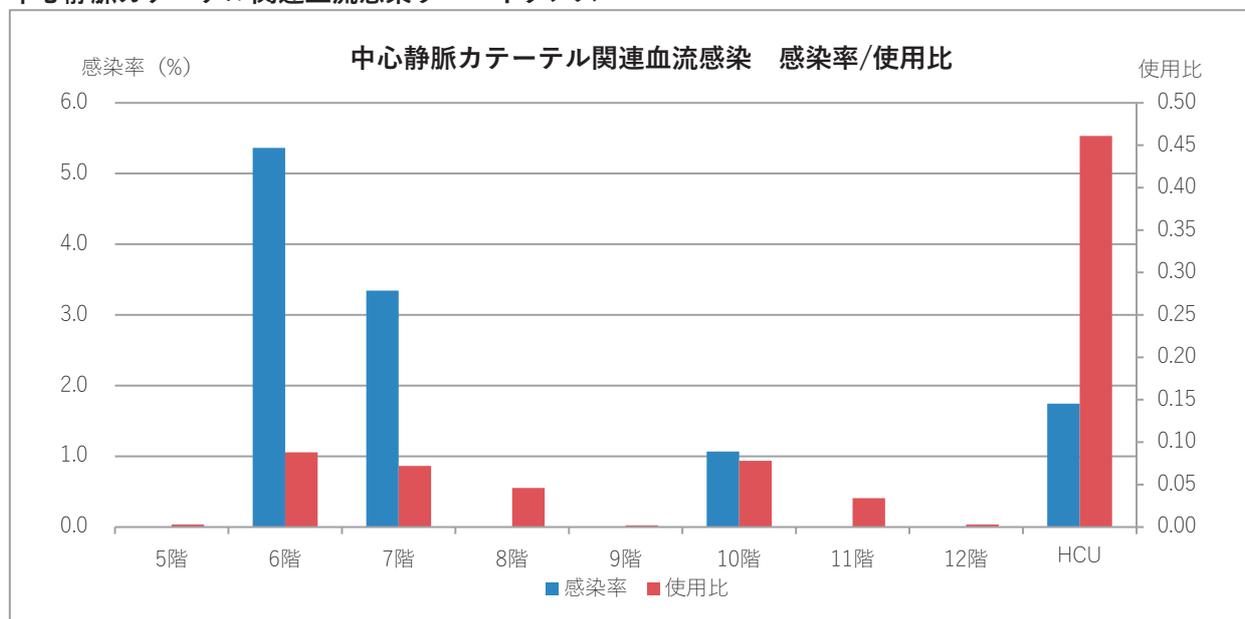
○感染予防対策職員研修：トータルクリニカルマネジメント

12月21日 ビデオ研修

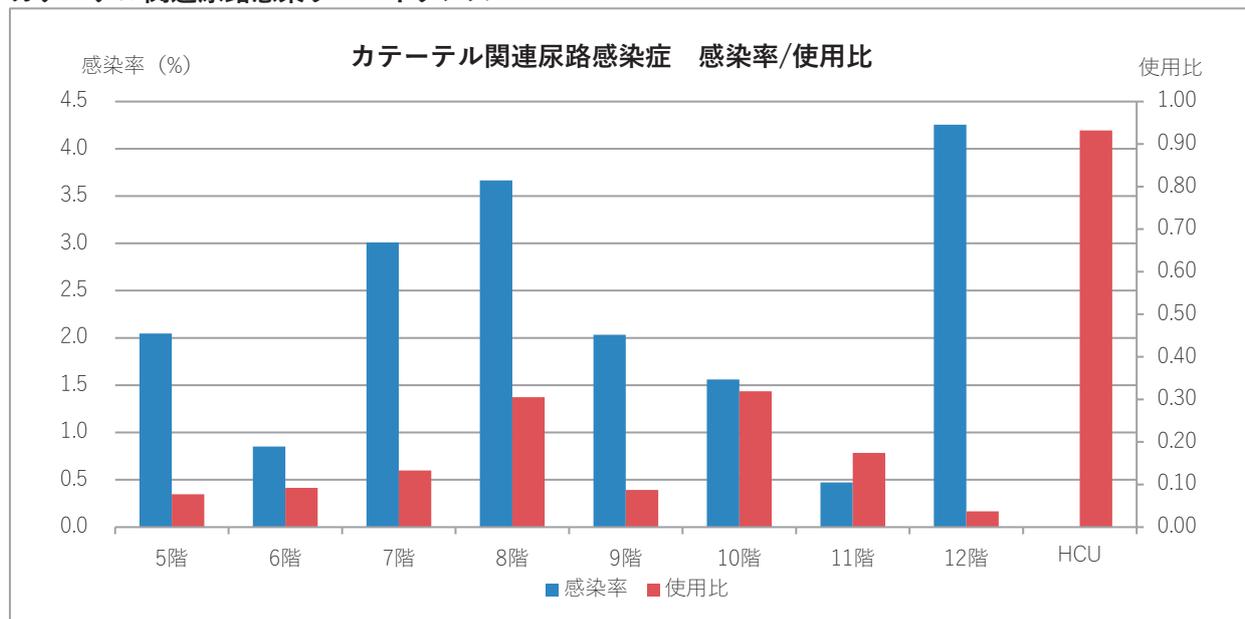
### 手指消毒サーベイランス



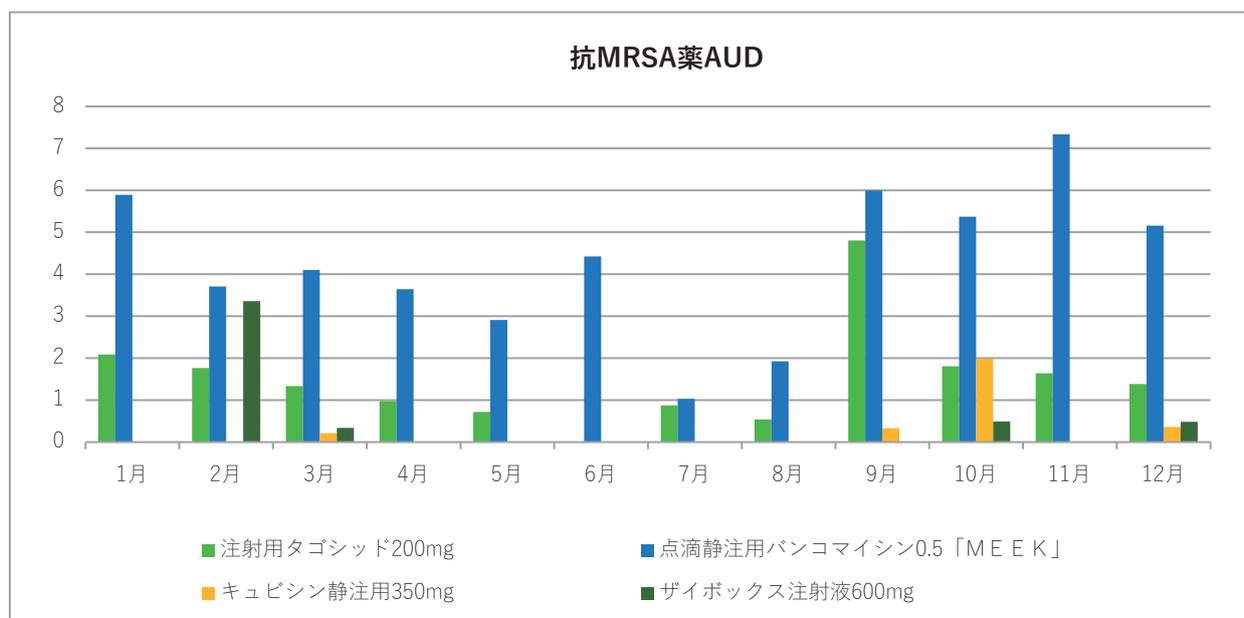
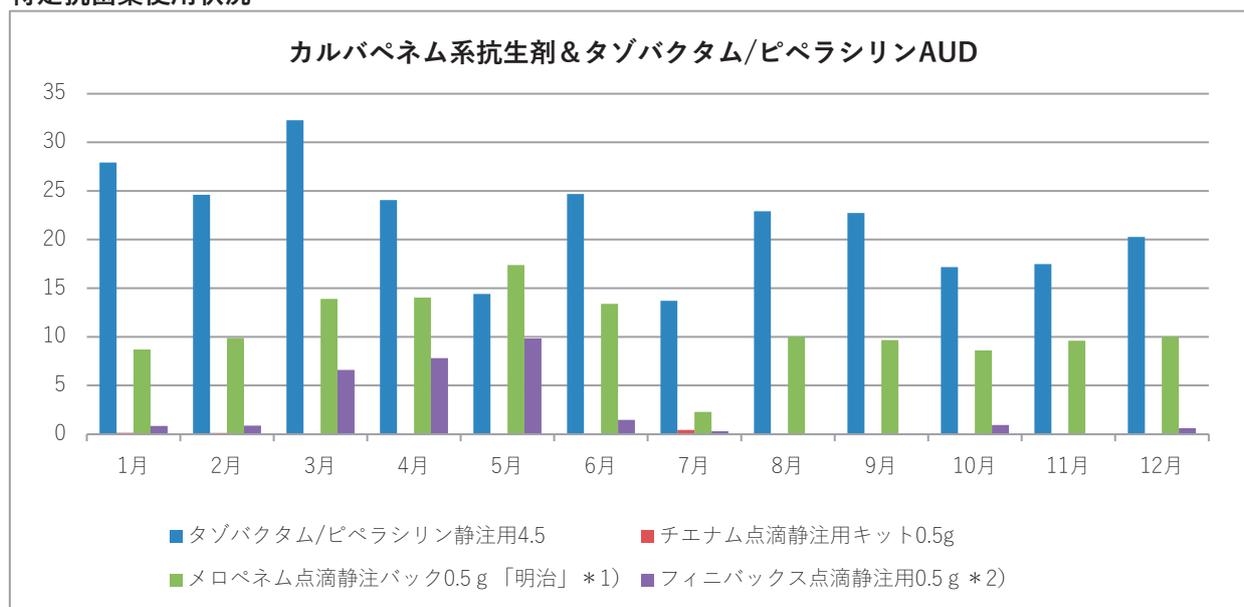
### 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス



### カテーテル関連尿路感染症サーベイランス



## 特定抗菌薬使用状況



## 職業感染対策

○針刺し報告件数 ..... 11件 (内労災申請0件)

○HB ワクチン接種 .... 22名

○抗体検査 ..... 18名

麻疹 ..... 5名

水痘 ..... 3名

風疹 ..... 5名

ムンプス ..... 5名

○ワクチン接種 ..... 34名

麻疹 ..... 16名

水痘 ..... 0名

風疹 ..... 12名

ムンプス ..... 6名

## 今後の展望

収集したデータをもとに感染症の発生動向を把握し、アウトブレイクの早期発見・早期対応に努める。また、効果的な感染対策を立案、実践し医療関連感染の低下に努める。

文責：夜久直也

# TQM 推進室

## スタッフ

**福田 隆**  
Takashi Fukuda

病院長  
TQM 推進室室長  
医師

**香西 瑞穂**  
Mizuho Kozai

TQM 推進室副室長  
看護師

医療の質改善委員会：

TQM 推進室がした企画を運営する委員会 9名

## 業務・活動内容

TQM 推進室は、医療の質向上に向けた継続的改善活動の統括を担っている。主な活動として、方針管理、外部評価（病院機能評価）を活用した内部監査、医療の質指標（Quality Indicator：QI）の抽出とフィードバックを行っている。

### 【方針管理】

方針管理とは、経営方針（目的・目標）を達成するために行う業務の管理のしくみ・取り組みである。日常管理が現場における日常的な業務を対象とするのに対し、方針管理はトップから発せられた方針を、部門や個々の業務まで順々に落とし込んでいくものである。

5月に前年度実績報告・今年度目標実行計画に関する面談、11～12月に中間面談を実施し、目標設定や活動内容に関する進捗管理や助言を行った。また、院内での目標・活動の共有を目的に、7月には第6回方針管理発表会をスライド閲覧形式で開催し、22演題の発表がされ、319名の職員が閲覧した。

### 【QI：Quality Indicator】

日本病院会主催「QIプロジェクト」に継続参加している。

QIプロジェクトは、「自院の診療の質を知り、継続的に改善する」ことを目的とし、医療の質を測定、評価、公表するための指標の検討と各病院でPDCAサイクルを病院の運営管理の手法に組み込むことを促す役割を担っている。

プロジェクトで決定された2020年度の指標に対し、当院で測定する指標を決定し、毎月データを提出した。また、院内の関連部門・委員会へのデータのフィードバック、ベンチマークデータの院内外への公表を行った。データを活用した改善につなげることが今後の課題である。

### 【内部監査・病院機能評価受審準備】

2月に病院機能評価の更新審査を受審した。評価の結果は、項目によって変動を認めた。前回審査以降、改善に取り組んだ項目は結果も向上傾向にあった。

結果およびサーベイヤーによるコメントをピックアップし、院内に改善提案を行い、改善計画の提出を依頼した。その内容は、次年度に内部監査で確認予定である。

## 主要統計

### QI

参加区分	一般病床	
提出指標数 (全指標に対する割合)	DPC データ	22項目(79%)
	DPC 外データ	18項目(75%)

### 病院機能評価 評価結果

評価段階	評価	前回との比較		
	合計	改善	維持	低下
S(秀でている)	1	1	0	0
A(適切に行われている)	79	6	72	1
B(一定の水準に達している)	8	0	3	5

### 内部監査の改善提案に対する計画立案と実施状況

区分	計画立案
体制整備	16
手順見直し	10
標準化	7
教育	1
持ち越し	11

## 今後の展望

方針管理においては、進捗管理の面談も定着し、目標設定や実行に関する支援につながった。また、院内での共有の機会となる方針管理発表会も継続開催ができ、各部門での目標を意識した業務の実践につながりつつある。

2019年は病院機能評価更新審査の受審に向けた活動が大きな位置を占めていた。5年前の受審準備時に比べると、PDCAサイクルを回すこと、標準化や継続的な改善に対する理解が進み、各部門での実践を確認することができた。これらはすべて、審査を単発のイベントとしてとらえず、一つの改善の機会として活用してきた成果であると考えている。

今後も院内の改善活動の支援を行い、自立した改善風土の構築と、さらなる質向上に向けた活動を目指す。

# 【地域医療部】地域医療推進室

## スタッフ

**中谷 守一**  
Syuichi Nakatani

院長代理  
地域医療部部長

**松下 耕平**  
Kohei Matsushita

地域医療推進室主任

**森崎 美登**  
Yoshito Morisaki

地域医療推進室室員

**山本 恵子**  
Keiko Yamamoto

地域医療推進室室員

本年、紹介総数では前年比7.2%減少となり昨年よりマイナスの結果になったが、紹介入院についても6.0%減少となり、昨年同様減少傾向となった。新型コロナウイルスの影響もあり、本年の講演会は全て開催中止となった。

## 今後の展望

現状の医療連携システムを維持しつつ、これからも医療機関の皆様スムーズにご利用いただける運用を続けてまいります。

文責：森崎美登

## 主要統計

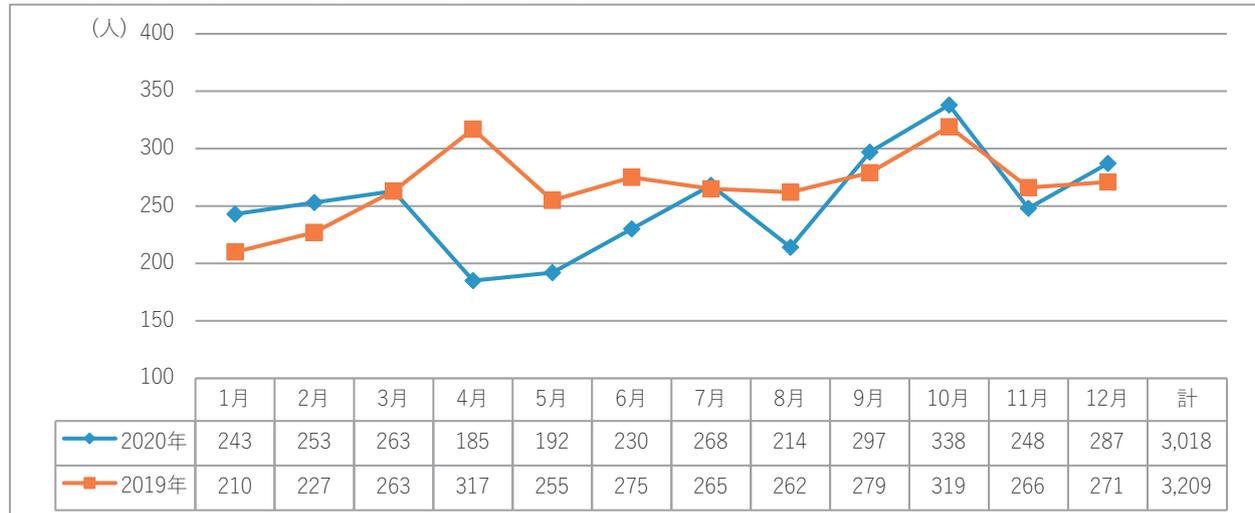
### 紹介患者数 (対前年)

紹介患者数は年間をとおして昨年より減少傾向が見られ、昨年比7.2%減少であった。



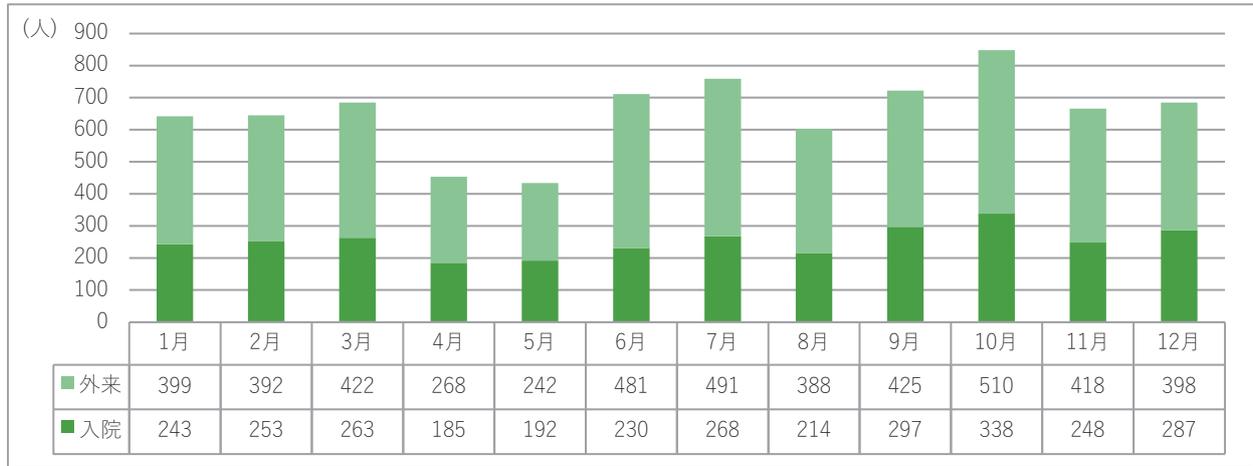
### 紹介入院患者数 (対前年)

紹介入院患者数は昨年より6.0%減少であった。



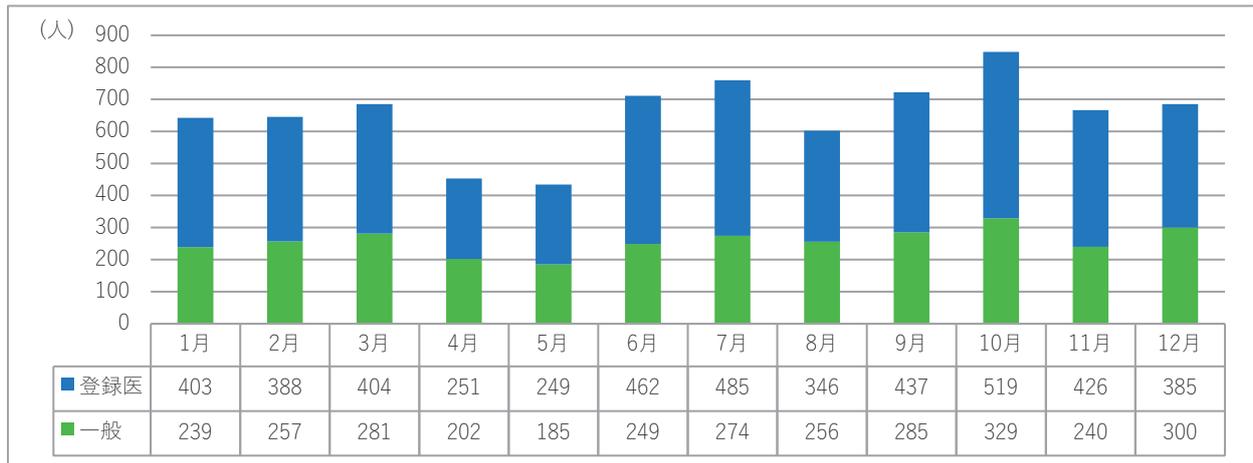
### 入院・外来別紹介患者数

紹介患者数に占める紹介入院患者数の平均割合は 38.4%であった。月別では最高値が 44.2%（昨年 42.3%）、最低値は 32.3%（昨年 32.0%）であった。 【年間合計数】入院：3,018名 外来：4,834名



### 一般・登録医別紹介患者数

一般・登録医別紹介患者数は、毎年月別でも年間を通して登録医からの紹介が多く、登録医からの紹介の占める割合がやはりここ数年同様の約6割であった。 【年間合計数】一般：3,097名 登録医：4,755名



### 科別紹介患者数

科別紹介患者数においても、やはりここ数年同様に消化器内科への紹介が非常に多かった。

【全科合計数】2020年：7,852件 2019年：8,465件



# 【地域医療部】医療福祉相談室

## スタッフ

**中谷 守一**  
Syuichi Nakatani

院長代理  
地域医療部部長

**吉岡 聡子**  
Satoko Yoshioka

医療福祉相談室主任

**橋本 直子**  
Naoko Hashimoto

医療福祉相談室室員

**伊藤 耕史**  
Koji Ito

医療福祉相談室主任

**屋島 律子**  
Ritsuko Yashima

医療福祉相談室室員

**山崎 基樹**  
Motoki Yamasaki

医療福祉相談室室員

## 活動内容

2018年7月より算定を開始した入退院支援加算1については目標件数を定め、件数の増加に取り組んだ。

### ○相談援助件数

総数 8,774 件は昨年比約 19% 減となった。  
入退院支援加算 1 の算定を継続している。

### ○相談援助内容

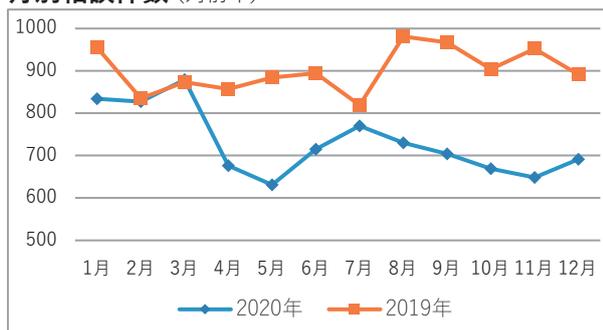
本年も退院支援関連の相談（退院相談 + 在宅療養相談）が 6 割弱となっている。

## 主要統計

### 月別相談件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院	769	774	816	618	602	644	724	690	638	626	607	643	8,151
外来	19	27	19	28	8	33	14	19	13	19	10	22	231
他院	46	26	44	30	21	38	32	21	53	24	31	26	392
合計	834	827	879	676	631	715	770	730	704	669	648	691	8,774

### 月別相談件数 (対前年)



## 【がん相談支援センターの活動】

### ○乳がん患者サロン「輝く会」

内容：「押し花ハガキの作成」  
講師：牧富子氏（サバイバー）

2020年1月22日 参加数：12名

2015年にスタートした乳がん患者サロン「輝く会」は6年目となったが、新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、2月以降は開催を中止している。

## 学術業績

### 【研修会等】

### ○がん患者生活サポーターインテンシブコース「がんゲノム医療の相談支援」

主催：大阪大学  
大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会  
2020年2月9日

### ○両立支援コーディネーター基礎研修修了(2名)

主催：独立行政法人労働者健康安全機構  
2020年9月28日、11月16日 各1名

### ○大阪府がん拠点病院がん相談支援センター相談員研修会(1)

主催：大阪府  
大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会  
2020年12月19日

## 今後の展望

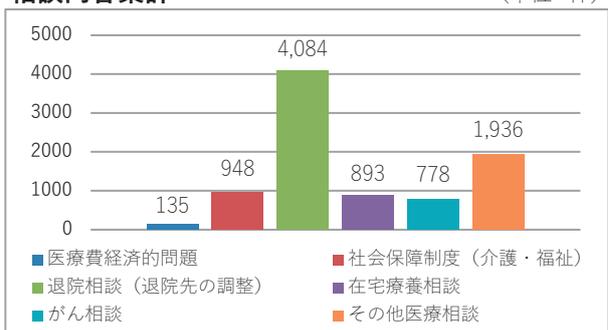
### ○入退院支援加算、介護支援連携指導料について算定目標件数を設定し、目標達成を目指す。

### ○大阪府指定がん診療拠点病院として関連する研修に積極的に参加する。

文責：吉岡聡子

### 相談内容集計

(単位：件)



## 【事務部】 医事課

### スタッフ

徳永 雅美  
Masami Tokunaga

医事課課長

多田 理  
Satori Tada

医事課課長補佐

西岡 一真  
Kazuma Nishioka

医事課課長補佐

扇谷 美希  
Miki Ougitani

医事課主任

石橋 佐武郎  
Saburo Ishibashi

医事課主任

木村 加奈  
Kana Kimura

医事課主任(医師事務サポート)

医師事務作業補助者（非常勤含む）……………12名  
他（非常勤含む）……………16名  
業務委託：ソラスト

### 認定取得

○医師事務作業補助者研修修了  
泊 美和

### 業務内容

- 入院・外来請求業務
- 入退院業務
- 各種届出
- 受付・保険証確認・書類・会計業務
- 救急外来業務
- 医師事務作業補助業務

### 2020年度目標

- 患者・職員満足度の向上
- 未収金 300万円以下
- 外来透析室の運営
- 医事業務の効率化
- 定期的な勉強会開催、参加
- 保険会社診断書の作成診療科追加
- 各部署のマニュアル作成

### 実習受入状況

大学1校要請あり、新型コロナ感染症拡大により緊急事態宣言発令のため実施不可

### 活動内容

#### 【医事課連絡会、院内・院外勉強会】

- 3月 診療報酬改定オンライン研修
- 10月 患者調査・受療行動調査実施  
施設基準セミナー参加
- 12月 医事研究 Web 研修  
施設基準管理士協議会  
医事研究会

#### 【施設基準新規届出状況】

- 4月 救急医療管理加算  
地域医療体制確保加算
- 8月 B R C A 1/2 遺伝子検査
- 9月 組織拡張器による再建手術  
(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)  
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術  
(乳房切除後)
- 11月 経皮的冠動脈形成術  
(特殊カテーテルによるもの)

### 今後の展望

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大により医療体制が大きく変わり診療報酬上の臨時的措置なども次々と発出された。

算定漏れなどないよう周知、勉強会を開催し増収に繋げていく。

また接遇についても委託職員と連携を図りながら患者満足度の向上に努めていく。

文責：徳永雅美

## 主要統計

### 診療報酬増減点

	社会保険診療報酬支払基金						国民健康保険団体連合会					
	入院			外来			入院			外来		
	件数	点数	減点率(%)	件数	点数	減点率(%)	件数	点数	減点率(%)	件数	点数	減点率(%)
1月	38	48,778	0.38	144	35,494	0.47	52	65,333	0.23	118	26,418	0.3
2月	36	73,307	0.56	105	51,052	0.72	35	54,459	0.2	162	41,911	0.49
3月	36	78,513	0.66	113	22,583	0.3	52	51,577	0.19	131	33,401	0.35
4月	36	43,882	0.48	91	32,014	0.5	49	80,316	0.33	94	16,618	0.21
5月	27	69,979	0.68	93	21,621	0.35	43	32,855	0.15	91	18,205	0.24
6月	32	27,923	0.26	123	39,958	0.55	39	93,728	0.41	109	32,183	0.33
7月	41	56,040	0.43	126	43,034	0.56	54	145,410	0.58	106	29,761	0.27
8月	38	57,717	0.49	131	47,795	0.62	53	122,566	0.45	138	36,099	0.36
9月	43	55,490	0.43	144	51,513	0.68	49	35,167	0.16	113	18,965	0.19
10月	46	58,153	0.36	139	54,394	0.64	72	129,237	0.47	109	23,001	0.21
11月	29	21,096	0.16	118	57,482	0.66	55	157,431	0.61	116	26,525	0.26
12月	37	126,395	1.04	111	32,975	0.43	37	126,395	1.04	138	36,099	0.36

### 施設基準算定件数 (医事診療データ)

基本診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
緩和ケア診療加算	1	0	0	21	60	86	104	181	139	101	127	161	981
栄養サポートチーム加算	26	25	50	43	31	46	35	23	48	46	31	37	441
患者サポート体制充実加算	515	450	493	340	346	406	452	465	427	537	463	470	5,364
入退院支援加算 1	78	89	95	80	90	75	79	104	99	100	80	117	1,086
入院時支援加算 1	12	11	15	14	16	14	9	17	11	16	11	14	160
総合評価加算	364	296	366	71	85	52	69	100	95	100	75	113	288
認知症ケア加算 2	2,174	1,988	1,982	1,640	1,708	1,714	1,802	1,812	1,739	1,862	2,031	2,103	22,555
救急医療管理加算 1	284	255	195	170	231	150	232	267	210	287	268	291	2,840
救急医療管理加算 2	1,100	941	890	623	788	725	715	934	736	954	837	972	10,215

特掲診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
糖尿病合併症管理料	10	13	9	11	13	10	15	7	10	11	5	13	127
がん性疼痛緩和指導管理料	22	23	26	23	7	17	25	26	23	17	21	29	259
がん患者指導管理料 (イ)	4	15	15	9	14	13	16	10	7	11	10	5	129
がん患者指導管理料 (ロ)	2	5	10	1	2	8	15	7	6	11	7	12	86
糖尿病透析予防指導管理料	1	0	1	1	0	3	0	0	2	0	0	1	9
院内トリアージ実施料	50	6	4	38	25	8	20	27	19	22	38	65	322
ニコチン依存症管理料 初回～5回	5	6	6	7	7	6	3	2	5	5	5	4	61
がん治療連携計画策定料		2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	6
排尿自立指導料	2	7	6	13	0	5	12	22	23	22	10	8	102
薬剤管理指導料	540	543	594	498	437	551	550	537	519	585	524	538	6,416
医療機器安全管理料 1	10	7	4	5	8	6	5	5	2	6	2	8	68
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定(一連につき)	2	4	8	3	0	1	7	5	11	9	4	1	55
遺伝学的検査	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4
検体検査管理加算 (I)	3,784	3,308	3,642	3,080	2,935	3,415	3,594	3,595	3,390	3,846	3,325	3,488	41,402
検体検査管理加算 (IV)	501	529	498	397	402	383	417	456	438	483	458	464	5,426
ヘッドアップティルト試験	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
画像診断管理加算 2	1,083	1,075	1,044	851	896	1,103	1,200	1,158	1,122	1,235	1,096	1,070	12,933

特掲診療料	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
C T撮影	980	941	917	773	883	992	1,117	1,058	1,000	1,137	942	972	11,712
M R I撮影	263	275	274	224	235	310	313	295	295	324	307	288	3,403
夜間休日救急搬送医学管理料・注3に掲げる救急搬送看護体制加算	70	61	52	31	57	48	56	81	60	66	61	58	701
開放型病院共同指導料(2)	6	1	3	2	2	6	5	1	4	4	5	4	43
冠動脈C T撮影加算	2	2	4	1	2	0	1	3	1	1	2	1	20
心臓M R I撮影加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房M R I撮影加算	8	9	7	10	7	6	9	8	9	7	13	6	99
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	241	217	230	246	212	228	233	232	241	229	250	232	2,791
外来化学療法加算1	142	126	149	139	140	159	190	162	153	170	154	148	1,832
無菌製剤処理料1.2	297	256	238	215	218	231	293	266	267	282	230	312	3,105
心大血管疾患リハビリテーション料(1)	662	831	951	761	810	747	672	726	753	695	643	654	8,905
脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	528	211	176	297	670	1,190	1,155	751	808	994	1,050	1,232	9,062
運動器リハビリテーション料(1)	5,909	5,705	5,307	4,576	3,809	3,440	4,583	4,721	4,333	4,071	4,067	4,240	54,761
呼吸器リハビリテーション料(1)	730	587	367	721	513	559	787	794	793	679	724	798	8,052
がん患者リハビリテーション料	24	55	81	14	5	0	8	0	0	0	2	0	189
人工腎臓	416	355	382	477	502	535	565	592	556	615	550	669	6,214
人工腎臓の導入期加算1	37	44	14	54	28	43	28	43	35	54	13	61	454
透析液水質確保加算	416	355	375	485	502	535	565	592	556	617	550	674	6,222
慢性維持透析濾過加算	50	214	243	258	305	306	323	336	348	345	355	391	3,474
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	1	4	6	3	4	4	4	5	1	3	1	1	37
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	0	0	1	1	0	1	0	1	2	0	1	0	7
腹腔鏡下肝切除術	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	2	2	2	2	3	1	1	1	2	3	5	2	26
大動脈バルーンパンピング法(I A B P法)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	2	1	3	0	2	3	4	3	3	3	4	3	31
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
輸血管理料I	56	57	47	47	49	33	37	37	43	67	55	60	588
輸血適正使用加算	56	57	47	47	49	33	37	37	43	67	55	60	588
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	3	3	2	2	0	0	2	4		1	2	1	20
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
麻酔管理料(1)	128	127	129	114	98	109	145	128	131	159	120	146	1,534
病理診断管理加算I	435	438	494	319	303	496	553	506	486	571	518	487	5,606
悪性腫瘍病理組織標本加算	20	19	21	25	20	20	24	15	22	25	25	27	263
B R C A 1/2 遺伝子検査	—	—	—	—	—	—	—	1	0	3	1	1	6
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	0	0	2
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0

## 【医療情報部】システム管理課

### スタッフ

**堀部 昌司**  
Syoji Horibe

システム管理課課長

**中村 勝利**  
Katsutoshi Nakamura

システム管理課主任

**山口 恵美**  
Emi Yamaguchi

システム管理課主任

**中村 洋平**  
Yohei Nakamura

システム管理課課員

医療情報部は、システム管理課と診療情報管理課の2課で構成されています。

システム管理課では、電子カルテシステム等の運用・管理、医療情報の発信、院内資料の作成、診療報酬請求業務のサポートなどを行っています。

### 主要統計

#### 入院患者の状況

(単位：人、%)

	新入院患者数	退院患者数	入院延患者数(※)	1日平均	
				患者数	対前年度増減率
2018年	5,982	5,989	116,115	301.4	2.5
2019年	6,068	6,067	118,515	308.1	2.2
2020年	5,467	5,480	102,077	263.9	△0.1

※退院患者を含む

#### 診療科別・入院患者統計

(単位：人)

	新入院患者数	退院患者数	入院延患者数(※)	1日平均患者数	救急搬送患者数
内科	812	761	14,980	40.9	469
消化器内科	1,432	1,365	11,887	32.5	177
循環器内科	346	355	9,315	25.5	45
外科	829	860	12,057	32.9	61
乳腺外科	148	152	1,449	4.0	7
泌尿器科	595	598	4,632	12.7	17
胸部外科	167	164	2,896	7.9	14
形成外科	61	59	1,104	3.0	2
整形外科	569	365	12,055	32.9	155
耳鼻咽喉科	68	65	319	0.9	6
眼科	241	240	271	0.7	0
皮膚科	7	7	57	0.2	0
地域包括ケア病棟	151	279	12,712	34.7	0
回復期リハビリテーション病棟	41	210	12,863	35.1	0
合計	5,467	5,480	96,597	263.9	953

※24時現在の在院している患者

## 外来患者の状況

(単位：人、%)

	新外来患者数		外来延患者数		時間内1日平均	
	時間内	時間外	時間内	時間外	患者数	対前年度増減率
2018年	13,432	1,093	135,435	2,241	461	△ 2.6
2019年	13,344	1,365	134,577	2,675	461	0.0
2020年	12,062	1,169	130,390	2,488	444	△ 3.8

## 診療科別・外来患者統計

(単位：人)

	外来延患者数			新外来患者数	時間内1日平均患者数	救急搬送
	時間内	時間外	合計			
内科	27,359	1,373	28,732	2,697	93	840
人工透析内科	4,104	267	4,371	1	14	0
消化器内科	19,808	152	19,960	3,304	67	124
総合内科	820	0	820	305	4	0
循環器内科	14,828	35	14,863	441	50	31
外科	9,757	363	10,120	623	33	72
乳腺外科	5,154	9	5,163	516	18	0
泌尿器科	10,024	77	10,101	691	34	34
胸部外科	2,044	3	2,047	144	9	1
形成外科	1,474	11	1,485	188	14	5
整形外科	15,883	164	16,047	2,277	54	107
リハビリテーション科	210	19	229	3	1	0
耳鼻咽喉科	5,302	6	5,308	781	18	11
眼科	7,331	0	7,331	423	25	0
皮膚科	6,292	9	6,301	837	24	0
合計	130,390	2,488	132,878	13,231	444	1,225

## 【医療情報部】診療情報管理課

診療情報管理課のスタッフは、診療情報管理士 1 名を含む 3 名体制で業務を行っている。診療情報の管理を専門的に行う診療情報管理士を中心に記録の点検等の業務を行い、疾病統計、死因統計、がん患者統計などの各種統計資料を作成するとともに、それらを活用し、医療の質向上に努めている。「診療情報は、患者さまにとって大切な情報であり、また病院および医療従事者にとっても医療の質向上と安全の確保のために、貴重な財産である」という考えに基づき、安全かつ正確な運用・管理を行い、情報を必要とする時には迅速に提供できるよう努めている。

2012 年に電子カルテを導入。電子カルテ導入以前の紙媒体の入院診療録は適切に保管管理しており、患者さまの継続的な診療や医学研究・教育のために各部署からの要請に応じて迅速に対応できるよう体制を整えている。

2014 年 4 月からは厚生労働省が定める施設基準に適合した、診療録管理体制加算 1 を算定している。

また診療情報管理業務のほか、大阪府がん診療拠点病院の認定に伴い、2012 年より院内がん登録を開始した。院内がん登録を行うことで、当院でのがん診療の実態把握と、国のがん対策や大阪府の医療計画に寄与している。国立がん研究センターと大阪府の院内がん登録を活用した Q I（医療の質）研究にも参加している。ホームページでは院内がん登録実績を公開し、病院利用者への情報提供に努めている。

院内がん登録業務は、電子カルテ等に蓄積された情報に基づき、国立がん研究センターの院内がん登録実務中級認定者研修を修了した診療情報管理士が登録を行っている。登録には、がんの種類、進行度、治療内容など詳細にかつ正確にデータ収集する必要があるため専門的な知識が必要。実務者は国立がん研究センターの継続研修やセミナー等を受講し、スキル向上およびがん診療拠点病院要件の認定資格維持に努めている。

### スタッフ

**山本 一美**  
Kazumi Yamamoto

診療情報管理課主任

資格・所属 四病院団体協議会認定 診療情報管理士  
・DPC コース修了  
・医師事務作業補助者コース修了  
国立がん研究センター認定  
院内がん登録 中級認定者  
日本医師会認定 医療安全推進者  
日本外傷診療研究機構認定  
AIS コーディングコース修了

**田邊 貴広**  
Takahiro Tanabe

診療情報管理課主任

**泉 美紀**

Miki Izumi

診療情報管理課課員

### 業務内容

#### 【診療情報管理業務】

- 入院診療録数 99,108 冊保管（原本文書含む）
- 入院診療録の整理、保管管理（原本文書含む）
- 入院診療録の監査、不備項目の完成依頼
- 入院診療録貸出、閲覧、返却管理
- 国際疾病分類（ICD-10）、手術処置の分類（ICD-9-CM）によるコーディング
- 退院患者情報のデータベース作成・管理
- DPC コーディング監査 妥当性の検証
- スキャン業務
  - ・入院中に発生した診療記録の取込み画像確認およびスキャン
  - ・診療情報開示（病院控）
- 退院患者統計作成、情報提供
- 業務統計作成
- 診療情報開示に関わる事務業務（電子カルテ点検・診療記録印刷他）
- 院外情報提供（退職医師の紙媒体入院診療録を含むカルテ閲覧対応等）
- 診療録監査の状況調査および報告
- 診療録の医師同僚監査
  - 多職種監査に関わる事務業務（結果集計・報告）
- 診療情報管理システム管理

## 【がん登録業務】

- 院内がん登録 (UICC TNM、ICD-O-3 分類)
- 全国がん登録、全国集計へのデータ提出  
(国立がん研究センター、大阪府)
- 予後調査、大阪府がん登録届出・補充調査
- 大阪府がん診療連携協議会  
がん登録・情報提供部会委員
- 大阪市がん診療ネットワーク協議会  
がん登録部会 がん登録実務指導
- がん登録部会 QI (医療の質) 研究、  
大阪がん診療実態調査事業参加
- 院内がん登録システム管理

## 【委員会他】

- 診療情報管理委員会 (事務局)
- がん診療連携調整会議
- ODPC 管理委員会
- 電子文書管理委員会

## 【保管状況】

- 入院診療録・原本文書
  - ・患者 1 番号 1 ファイル制  
下 2 桁ターミナルデジットカラー分類方式
  - ・入院診療記録の受領件数  
入院診療録・原本文書 5,473 冊

## 業績・主要統計

(別頁参照)

- 退院サマリー早期完成促進、管理  
(退院 1 週間、2 週間、1 ヶ月以内完成率調査)
- 退院サマリー記載・検閲率調査
- ODPC コーディング監査 (6 月退院患者より) ……3,265 件
- 全国集計 (国立がん研究センター提出) ……842 件
- 全国がん登録・遡り調査 (大阪府提出) ……845 件
- 予後調査 ……7,100 件  
(がん患者の生存状況調査・大阪府と連携)
- 診療記録開示対応 ……48 件
- 診療情報等の調査、資料作成、データ提供 ……121 件
- 入院診療録医師同僚監査、多職種監査の仕組み  
の構築
- 監査結果の管理システム構築 (診療情報管理システム)
- 病院機能評価更新受審への対応
- 診療情報管理規程、診療録監査規程、診療情報開  
示規程、略語集等改訂
- 大阪府がん診療拠点病院 指定更新対応
- がん登録法制化対応 院内がん登録システム整備
- がん患者 予後調査準備 (大阪府と連携)
- 電子カルテシステム がん登録候補抽出システム  
検証
- 大阪市がん診療ネットワーク協議会  
全国がん登録実務者研修会開催
- 大阪市ネットワーク協議会  
全国がん登録研修会 演習問題作成、演習指導担当
- 院内がん登録実績まとめ、ホームページ更新
- がん登録部会 QI 研究、大阪がん診療実態調査  
事業参加
- ICD-11 勉強会 (厚生労働科学研究)

## 学術業績

- わが国における ICD11 コーディング導入に関する  
問題点の抽出と解決  
山本 一美  
令和 2 年度 厚生労働科学研究参加 (日本診療情報管理学会)  
2020 年 8 月
- 院内がん登録実務中級更新認定  
(国立がん研究センター)  
山本 一美  
2020 年 11 月

## 【学会研究会・院外活動】

- 日本診療情報管理学会 生涯教育研修会 (11月、12月)
- 日本診療情報管理士会 地域研究会 (10月、12月)
- 近畿病歴管理セミナー (2月、11月、12月)
- 院内がん登録中級認定者研修会 国立がん研究センター (9月)
- 大阪府がん登録連絡協議会 がん登録部会 (2月)
- 大阪府院内がん登録実務者研修会 (12月)
- 大阪市がん診療ネットワーク協議会 がん登録部会 (1月、2月)
- 大阪市三島医療圏がん登録部会 (11月)
- 兵庫県診療情報管理研究会 (2月、11月)
- 川崎医療福祉大学 医療情報セミナー (9月、12月)
- 長野県がん登録セミナー (10月)
- DPC 研究セミナー (2月)
- 医療経営セミナー (1月)

## 今後の展望

2020年は、電子カルテ機能を活用した監査の仕組みを構築し、監査結果を診療情報管理システムへ保存可能なよう整備したことで医師同僚監査および多職種監査を実施できた。

病院機能評価では、規定人数以下のマンパワー不足な上、本来業務でないスキャンの負担が大きく、肝心の予後調査が進められていないため、本来の診療情報管理業務に専念できるよう整えて下さいとの助言があった。加えて、監査の仕組みを整備され一生懸命業務に取り組み、院外活動も活発。HPも良くまとめられており、少ない人数でもパフォーマンスが高いと評価され、診療情報管理課として貢献できたと考える。

年後半より DPC コーディング監査に特に注力し、DPCにおけるデータ精度向上や診療記録の精度向上に努め、診療報酬の適正化により経営改善に繋げることができた。

今後も医師の協力を得ながら、診療情報管理の一環として適正な DPC コーディング監査を行う。多岐に渡る業務の中で、国が要求する予後調査業務を優先して進め、本来業務に注力したい。

文責：山本 一美

## 主要統計

### 【退院患者統計】

#### 医療実績

	算定式	2020年	2019年	2018年
実退院患者数(人)		5,481	6,067	5,989
転科数(人)		500	602	618
総退院患者数(人)		5,981	6,669	6,607
実退院患者平均在院日数		18.8日	19.4日	19.3日
対診率	$\frac{\text{対診を受けた患者数}}{\text{総退院患者数}} \times 100$	49.3%	50.4%	50.7%
粗死亡率(率)	$\frac{\text{死亡患者実数}}{\text{退院患者実数}} \times 100$	240人(4.3%)	276人(4.5%)	263人(4.3%)
精死亡率(率)	$\frac{\text{入院48時間以降死亡数}}{\text{退院患者実数}} \times 100$	211人(3.8%)	246人(4.0%)	231人(3.8%)
術後10日以内死亡数(率)	$\frac{\text{術後10日以内死亡数}}{\text{総手術件数}} \times 100$	5人(0.2%)	2人(0.1%)	3人(0.1%)
剖検数(率)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	3人(1.2%)	2人(0.7%)	0人(0%)

注) 手術件数は中央手術室での件数

【退院患者統計】

診療科別・月別・性別 退院患者数

診療科	分類	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	死亡	剖検
総数	計	5,481	466	484	513	371	382	382	437	472	459	531	459	525	240	3
	男	3,000	259	270	291	206	204	199	254	250	246	296	237	288	147	1
	女	2,480	207	214	222	164	178	183	183	222	213	235	222	237	93	2
内科	計	761	85	77	78	49	50	43	45	68	70	69	52	75	71	1
	男	427	55	46	40	22	31	24	27	31	39	43	27	42	44	0
	女	333	30	31	38	26	19	19	18	37	31	26	25	33	27	1
消化器内科	計	1,365	125	137	129	78	90	91	110	124	110	140	117	114	48	0
	男	719	68	72	75	48	49	40	66	63	56	76	50	56	35	0
	女	646	57	65	54	30	41	51	44	61	54	64	67	58	13	0
循環器内科	計	357	29	29	32	26	25	23	38	27	17	30	34	47	26	0
	男	225	14	19	20	20	14	13	24	18	8	21	23	31	10	0
	女	132	15	10	12	6	11	10	14	9	9	9	11	16	16	0
外科	計	865	60	84	66	61	66	66	74	70	67	83	94	74	48	1
	男	548	38	60	44	42	37	37	48	47	40	57	52	46	32	1
	女	317	22	24	22	19	29	29	26	23	27	26	42	28	16	0
乳腺外科	計	147	10	10	11	10	18	12	10	16	10	9	15	16	7	1
	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	146	10	10	11	10	17	12	10	16	10	9	15	16	7	1
泌尿器科	計	598	50	41	57	49	47	47	40	47	60	53	45	62	10	0
	男	450	37	32	45	35	38	35	31	36	44	38	31	48	7	0
	女	148	13	9	12	14	9	12	9	11	16	15	14	14	3	0
胸部外科	計	164	9	10	17	11	8	20	18	9	17	17	13	15	17	0
	男	95	7	8	10	5	7	7	11	5	6	8	10	11	11	0
	女	69	2	2	7	6	1	13	7	4	11	9	3	4	6	0
形成外科	計	59	0	0	0	0	1	5	11	13	5	8	7	9	1	0
	男	34	0	0	0	0	0	4	7	7	3	2	4	7	0	0
	女	25	0	0	0	0	1	1	4	6	2	6	3	2	1	0
整形外科	計	365	25	29	43	23	17	27	32	24	33	34	29	49	2	0
	男	176	9	12	28	10	6	20	14	12	17	16	13	19	2	0
	女	189	16	17	15	13	11	7	18	12	16	18	16	30	0	0
耳鼻咽喉科	計	65	10	10	8	5	1	1	3	8	7	6	5	1	0	0
	男	38	7	5	4	2	1	1	3	4	4	3	3	1	0	0
	女	27	3	5	4	3	0	0	0	4	3	3	2	0	0	0
眼科	計	240	25	17	32	19	8	20	21	13	22	23	18	22	0	0
	男	105	12	4	13	10	3	8	10	5	9	10	9	12	0	0
	女	135	13	13	19	9	5	12	11	8	13	13	9	10	0	0
皮膚科	計	7	1	0	0	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0
	男	4	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0
	女	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
地域包括ケア病棟	計	278	15	26	21	19	29	15	20	33	23	31	21	25	9	0
	男	121	10	9	7	8	11	6	8	15	13	12	11	11	6	0
	女	157	5	17	14	11	18	9	12	18	10	19	10	14	3	0
回復期リハビリテーション病棟	計	210	22	14	19	21	22	12	14	18	17	27	8	16	1	0
	男	57	2	3	5	4	6	4	5	5	6	10	3	4	0	0
	女	153	20	11	14	17	16	8	9	13	11	17	5	12	1	0

【疾病統計】

診療科別上位疾患

診療科	順	疾患名	件数
内科	1	2型糖尿病	101
	2	誤嚥性肺炎	90
	3	末期腎不全	85
	4	急性腎盂腎炎	61
	5	睡眠時無呼吸症候群	48
	6	急性肺炎	41
	7	うっ血性心不全	33
	8	急性尿路感染症	27
	9	脱水症	18
	10	細菌性肺炎	15
消化器内科	1	大腸ポリープ	363
	2	胆石症	138
	3	結腸憩室	134
	4	大腸癌（結腸・直腸）	99
	5	胃癌	55
	6	痔瘻	38
	7	急性腸炎	31
	8	急性虚血性大腸炎	30
	9	術後癒着性イレウス	28
	10	肝細胞癌	24
循環器内科	1	うっ血性心不全	51
	2	不安定狭心症	44
	3	労作性狭心症	40
	4	陳旧性心筋梗塞	29
	5	下肢閉塞性動脈硬化症	24
	6	慢性心房細動	17
	7	急性心筋梗塞	15
	8	特発性拡張型心筋症	14
	9	完全房室ブロック	11
	10	大動脈弁狭窄症	9
外科	1	大腸癌（結腸・直腸）	146
	2	鼠径ヘルニア	124
	3	胃癌	104
	4	食道裂孔ヘルニア	67
	5	胆石症	58
	6	急性虫垂炎	40
	7	肝細胞癌	34
	8	食道癌	20
	8	術後イレウス	20
	10	痔瘻	19
乳腺外科	1	乳癌	132
	2	腋窩リンパ節転移	2
	2	乳房良性腫瘍	2
	3	甲状腺癌	1
	3	転移性副腎腫瘍	1
	3	放射線肺炎	1
	3	ぶどう球菌性胸膜炎	1
	3	放射線食道炎	1
	3	心原性肺水腫	1
	3	急性間質性肺炎	1

診療科	順	疾患名	件数
泌尿器科	1	膀胱癌	104
	2	腎・尿管結石閉塞を伴う水腎症	103
	3	前立腺癌	99
	4	前立腺肥大症	53
	5	急性腎盂腎炎	46
	6	尿管狭窄を伴う水腎症	36
	7	腎盂癌	20
	8	腎結石症	18
	9	腎癌	16
	10	膀胱結石症	12
胸部外科	1	肺癌	88
	2	自然気胸	15
	3	転移性肺癌	12
	4	ペースメーカー電池消耗	9
	5	外傷性気胸	8
	6	悪性胸膜中皮腫	3
	6	緑膿菌肺炎	3
	6	急性肺炎	3
	9	うっ血性心不全	2
	9	胸水貯留	2
形成外科	1	皮膚良性腫瘍	10
	2	2型糖尿病性潰瘍・壊疽	6
	3	筋原性眼瞼下垂症	4
	3	アテローム	4
	5	脂肪腫	3
	5	良性軟部腫瘍	3
	5	乳房異物・挿入物合併症	3
	8	皮膚基底細胞癌	2
	8	下肢蜂巣炎	2
	8	下腿難治性皮膚潰瘍	2
整形外科	1	大腿骨骨折	81
	2	抜釘	54
	3	腰椎圧迫骨折	47
	3	腰部脊柱管狭窄症	38
	5	胸椎圧迫骨折	34
	6	一側性原発性膝関節症	31
	7	橈骨遠位端骨折	25
	8	上腕骨骨折	20
	9	鎖骨骨折	18
	10	腰椎椎間板ヘルニア	15
耳鼻咽喉科	1	慢性扁桃炎	26
	2	扁桃周囲炎	8
	3	前庭神経炎	5
	4	突発性難聴	4
	4	上顎洞炎	4
	4	顔面神経麻痺	2
	7	良性発作性頭位めまい症	2
	8	急性扁桃炎	2
	9	急性喉頭蓋炎	2
	9	扁桃癌	1

【疾病統計】

診療科別上位疾患

診療科	順	疾患名	件数
眼科	1	老人性白内障	154
	2	核性白内障	64
	3	のう下加齢性白内障	15
	4	2型糖尿病性白内障	4
	5	後のう下白内障	2
	5	皮質性加齢性白内障	2
皮膚科	1	帯状疱疹後神経痛	2
	1	蜂巣炎（四肢・軀幹）	2
	2	うっ滞性皮膚炎	1
	2	背部皮膚潰瘍	1
	2	上腕第2度熱傷	1

診療科	順	疾患名	件数
地域包括ケア病棟	1	うっ血性心不全	13
	2	腰部脊柱管狭窄症	10
	3	誤嚥性肺炎	9
	4	廃用症候群	7
	4	腰椎圧迫骨折	7
	6	脱水症	6
	7	胃癌	5
	7	陳旧性心筋梗塞	5
	7	胸椎圧迫骨折	5
	7	大腿骨頸部骨折	5
回復期リハビリ病棟	1	骨折治療後の回復期	143
	2	手術後の回復期	57
	3	その他の治療後の回復期	16

注) 総退院患者で集計

悪性新生物 退院患者統計

順	部位	総数	男	女	死亡
1	胃	170	131	39	15
2	結腸	160	91	69	10
3	乳房	131	1	130	7
4	気管、気管支及び肺	108	60	48	20
5	前立腺	103	103	0	3
6	膀胱	87	75	12	4
7	その他の上皮内新生物	70	41	29	0
8	肝及び肝内胆管	64	50	14	12
8	膵	64	39	25	18
10	直腸S状結腸移行部及び直腸	57	40	17	6
11	食道	41	26	15	5
12	腎及び腎盂	33	24	9	3
13	胆のう及びその他の胆道	20	10	10	3
14	その他の尿路	8	6	2	1
15	中皮及び軟部組織	6	6	0	2
15	非ホジキンリンパ腫	6	4	2	1
17	その他の男性生殖器	3	3	0	0
17	その他の消化器	3	2	1	0
19	口唇、口腔及び咽頭	2	2	0	0
19	その他の皮膚	2	2	0	0
19	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織	2	1	1	0
22	肛門及び肛門管	1	1	0	0
22	その他の呼吸器及び胸腔内臓器	1	1	0	0
22	その他の女性生殖器	1	0	1	0
22	甲状腺	1	0	1	1
26	その他	45	31	14	2
計		1,189	750	439	113

注) 総退院患者 C分類で集計

【院内がん登録実績 2019年診断症例】

【総登録数 842件】

部位別・性別 登録数

部位	総数		男	女
		上皮内		
口腔・咽頭	8	1	8	0
食道	35	2	24	11
胃	109	0	71	38
結腸	122	39	74	48
直腸	59	13	42	17
肝臓	41	0	30	11
胆嚢・胆管	11	0	3	8
膵臓	42	0	24	18
喉頭	3	0	3	0
肺	96	0	58	38
骨・軟部	0	0	0	0
皮膚（黒色腫を含む）	6	0	4	2
乳房	91	20	0	91
子宮	2	0	0	2
卵巣	2	0	0	2
前立腺	80	0	80	0
膀胱	52	14	47	5
腎・他の尿路	23	1	16	7
脳・中枢神経系	4	0	3	1
甲状腺	3	0	2	1
悪性リンパ腫	14	0	9	5
多発性骨髄腫	4	0	3	1
白血病	10	0	8	2
他の造血器腫瘍	0	0	0	0
その他	25	1	16	9
計	842	91	525	317

治療施設別 登録数

自施設初回治療せず、他施設紹介、経過不明	133
自施設初回治療開始	600
他施設初回治療開始後、自施設初回治療継続	9
他施設初回治療終了後、自施設受診	100
その他	0

症例区分別 登録数

診断のみ	124
自施設診断 自施設初回治療 開始	553
自施設診断 自施設初回治療 継続	7
他施設診断 自施設初回治療 開始	47
他施設診断 自施設初回治療 継続	2
初回治療開始後	100
その他	9

来院経路別 登録数

他施設より紹介	453
自主	189
他疾患経過観察中	199
その他	1
不明	0

発見経緯別 登録数

症状受診、その他	505
他疾患経過観察中	277
がん検診、健康診断、人間ドック	59
剖検発見	1
不明（他施設診断）	0

主要5部位 登録数 400件 症例区分:自施設初回治療開始

部位	計	ステージ（治療前・UICC）						
		0期	I期	II期	III期	IV期	不明	該当なし
胃	87	—	60	6	11	10	0	0
大腸	165	52	44	22	25	22	0	0
肝	20	—	6	7	4	3	0	0
肺	63	0	18	9	16	20	0	0
乳房	65	13	17	23	9	3	0	0

泌尿器領域 登録数 106件 症例区分:自施設初回治療開始

部位	計	ステージ（治療前・UICC）						
		0期	I期	II期	III期	IV期	不明	該当なし
前立腺	52	—	28	13	2	9	0	0
膀胱	42	14	16	9	3	0	0	0
腎・尿路	12	1	4	2	2	3	0	0

## 病院年報

2020年（第18号）

発行者

社会医療法人 景岳会 南大阪病院  
大阪市住之江区東加賀屋1-18-18  
TEL 06-6685-0221（代表）

発行日

2021年12月1日